

(令和4年7月～8月実施)

## 第49回

# 市民アンケート調査報告書

—— あなたと市政を結ぶ ——





# 目 次

## I 調査概要

1	調査目的	1
2	調査内容	1
3	調査の設計	1
4	回収結果	1
5	報告書内のデータの記述について	2
6	図表の数値の統計的な見方	2
7	回答者の属性	4

## II 調査結果

1	あなたご存じですか？	6
2	SDGsの達成に向けて	14
2-1	SDGsの認知度	14
2-2	再生可能エネルギーについて	16
2-3	FSC® 森林認証について	24
2-4	多文化共生について	28
2-5	消費生活について	36
2-6	防災対策について	44
2-7	文化振興について	50
2-8	健康づくりについて	54
2-9	人権について	58
2-10	みどりについて	66
2-11	ユニバーサルデザイン・男女共同参画について	72
2-12	デジタルを活用したまちづくりについて	80
3	浜松市戦略計画 2022 について	88

## 付録 調査票



# I 調査概要

---



## 1 調査目的

本調査は、社会情勢の変化に伴う市民の生活意識や市政に対する関心・ニーズなどを把握するため実施し、昭和45年度から始まり、本年度で49回目※になります。調査結果は、今後の市政運営に関わるさまざまな基礎資料として活用しています。

※昭和45年度1回目、48年度2回目、50年度3回目、52年度4回目（以降毎年実施）

## 2 調査内容

- (1) あなたはご存じですか？
- (2) SDGsの達成に向けて
  - (2-1) SDGsの認知度
  - (2-2) 再生可能エネルギーについて
  - (2-3) FSC森林認証について
  - (2-4) 多文化共生について
  - (2-5) 消費生活について
  - (2-6) 防災対策について
  - (2-7) 文化振興について
  - (2-8) 健康づくりについて
  - (2-9) 人権について
  - (2-10) みどりについて
  - (2-11) ユニバーサルデザイン・男女共同参画について
  - (2-12) デジタルを活用したまちづくりについて
- (3) 浜松市戦略計画2022について

## 3 調査の設計

- (1) 調査地域 浜松市全域
- (2) 調査対象 満18歳以上の市民3,000人
- (3) 抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
- (4) 調査方法 質問紙郵送法
- (5) 調査期間 令和4年7月15日～8月22日
- (6) 調査機関 株式会社 東京商工リサーチ

## 4 回収結果

発送数 3,000人

有効回収数 1,701人 (56.7%)

## 5 報告書内のデータの記述について

- (1) 比率はすべて百分率で表し、小数点第2位以下を四捨五入して算出した。そのため、比率の合計が100%にならないことがある。
- (2) 基数とすべき実数は、図表中に「n」として記載した。比率はこの基数を100%として算出している。
- (3) 質問の選択肢から複数回答を認めている場合、比率の合計は通常100%を超える。
- (4) 図表中の回答選択肢が長文の場合、コンピューターの処理の都合上、省略している箇所がある。
- (5) クロス集計の図表については、表側となる設問に「無回答」がある場合、これを表示しない。ただし、全体の件数には含めているので、各分析項目の件数の合計が、全体の件数と一致しないことがある。

## 6 図表の数値の統計的な見方

「本報告書の調査対象者は市民 672,261 人」

本調査は、住民基本台帳による満 18 歳以上の浜松市在住の人口 672,261 人（=母集団、令和4年7月1日現在）を対象としている。ただ、全員の意識や実態を調べる全数調査には莫大な費用や労力、時間がかかることから、実際に調査したのは無作為に抽出した 3,000 人である。無作為に標本を抽出する理由は、得られた標本が、調査対象者 672,261 人の性別、年齢別、居住区別などの属性でみた場合、どこかの属性に回答が偏らず、その「縮図」になるようにするためである。有効回答数は 1,701 人だった。

「報告書の調査結果に付随する標本誤差について」

この報告書の集計結果は、あくまで調査対象者の一部を調べた結果であることから、調査対象者である母集団 672,261 人全員の意識や実態の真の値に対してプラスマイナスの誤差（標本誤差）を含んでいる。標本調査は、母集団の真の値を知ることはできないが、標本調査の理論では、得られた標本の値が真の値に対してどれだけの範囲の誤差を伴っているかを明らかにすることができる。

標本誤差の計算式は、次のとおり。

標本誤差の計算式

$$\pm 1.96 \times \sqrt{\frac{\text{母集団数} - \text{回答者数}}{\text{母集団数} - 1} \times \frac{\text{回答割合}(\%) \times (1 - \text{回答割合}(\%))}{\text{回答者数}}}$$

※母集団数は、住民基本台帳による満 18 歳以上の浜松市の人口 672,261 人（令和4年7月1日現在）  
回答者数は、図表中に「n」として記載



標本誤差の計算式では、回答者の数（回答者数）、調べたい設問に対する回答者の回答比率（回答割合）などによって誤差が変わることが分かる。【参考表】は、回答者数と回答割合の2つの要素を考慮した場合、調査結果に対する標本誤差が母集団の真の値に対してどの程度の誤差を持っているのかを示した表である。

≪標本誤差の範囲設定の信頼度について≫

また、標本誤差の計算式の冒頭にある「1.96」という値は、各集計結果に含まれる【参考表】で示した標本誤差の範囲設定の信頼度を95%にするための係数である。この係数によって、100回同じ調査を繰り返しても95回は母集団の真の値が、集計結果の±の誤差の範囲の中に存在することを意味している。信頼度を95%に設定することは、国や都道府県などの公的機関や大学など研究機関が行う各種社会調査で通常最もよく用いられている設定値である。

【参考表】各設問に対する回答数（標本 n）及び回答比率（%）に含まれる標本誤差の一覧（±値）

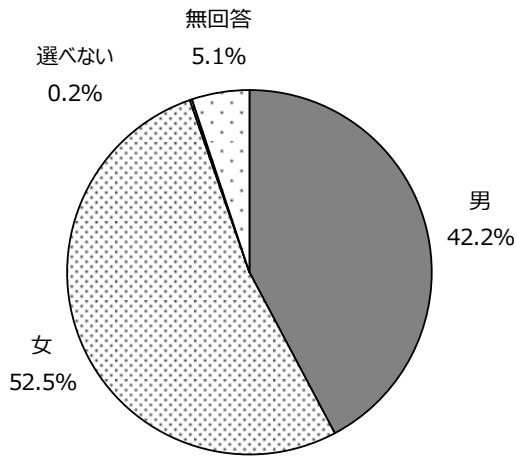
（見方）ある設問のある選択肢の回答数が300人で、その選択肢を選んだ人の割合が25%だった場合、表で網掛けをした標本数（n=300）と回答比率（%）25%が交わる点の標本誤差は「±4.9%」となる。これは浜松市の調査対象全体（母集団）の真の値が、この標本調査の回答比率25%±4.9%の範囲（20.1%～29.9%）の間に存在する確率（信頼度）が95%であることを意味している。

		標本数 (n) ※各設問に対する回答数										
		100	200	300	400	500	700	800	1,000	1,500	1,700	2,000
※各設問に対する回答比率	5%	4.3%	3.0%	2.5%	2.1%	1.9%	1.6%	1.5%	1.3%	1.1%	1.0%	1.0%
	10%	5.9%	4.2%	3.4%	2.9%	2.6%	2.2%	2.1%	1.9%	1.5%	1.4%	1.3%
	15%	7.0%	4.9%	4.0%	3.5%	3.1%	2.6%	2.5%	2.2%	1.8%	1.7%	1.6%
	20%	7.8%	5.5%	4.5%	3.9%	3.5%	3.0%	2.8%	2.5%	2.0%	1.9%	1.8%
	25%	8.5%	6.0%	4.9%	4.2%	3.8%	3.2%	3.0%	2.7%	2.2%	2.1%	1.9%
	30%	9.0%	6.3%	5.2%	4.5%	4.0%	3.4%	3.2%	2.8%	2.3%	2.2%	2.0%
	35%	9.3%	6.6%	5.4%	4.7%	4.2%	3.5%	3.3%	3.0%	2.4%	2.3%	2.1%
	40%	9.6%	6.8%	5.5%	4.8%	4.3%	3.6%	3.4%	3.0%	2.5%	2.3%	2.1%
	45%	9.7%	6.9%	5.6%	4.9%	4.4%	3.7%	3.4%	3.1%	2.5%	2.4%	2.2%
	50%	9.8%	6.9%	5.7%	4.9%	4.4%	3.7%	3.5%	3.1%	2.5%	2.4%	2.2%
	55%	9.7%	6.9%	5.6%	4.9%	4.4%	3.7%	3.4%	3.1%	2.5%	2.4%	2.2%
	60%	9.6%	6.8%	5.5%	4.8%	4.3%	3.6%	3.4%	3.0%	2.5%	2.3%	2.1%
	65%	9.3%	6.6%	5.4%	4.7%	4.2%	3.5%	3.3%	3.0%	2.4%	2.3%	2.1%
	70%	9.0%	6.3%	5.2%	4.5%	4.0%	3.4%	3.2%	2.8%	2.3%	2.2%	2.0%
	75%	8.5%	6.0%	4.9%	4.2%	3.8%	3.2%	3.0%	2.7%	2.2%	2.1%	1.9%
	80%	7.8%	5.5%	4.5%	3.9%	3.5%	3.0%	2.8%	2.5%	2.0%	1.9%	1.8%
	85%	7.0%	4.9%	4.0%	3.5%	3.1%	2.6%	2.5%	2.2%	1.8%	1.7%	1.6%
90%	5.9%	4.2%	3.4%	2.9%	2.6%	2.2%	2.1%	1.9%	1.5%	1.4%	1.3%	
95%	4.3%	3.0%	2.5%	2.1%	1.9%	1.6%	1.5%	1.3%	1.1%	1.0%	1.0%	

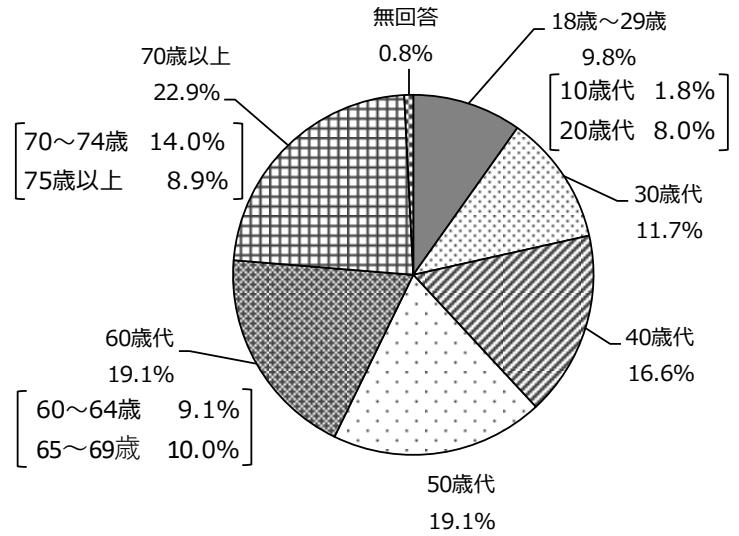
## 7 回答者の属性

n=1,701

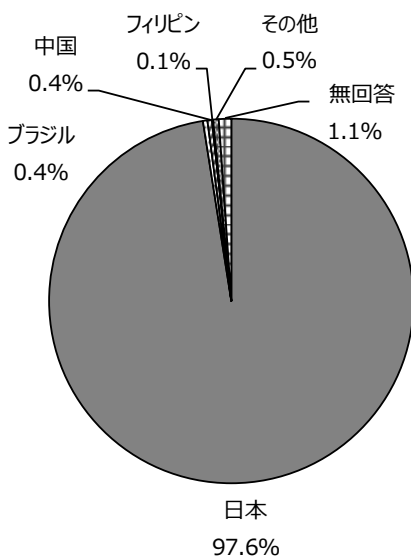
### (1) 性別



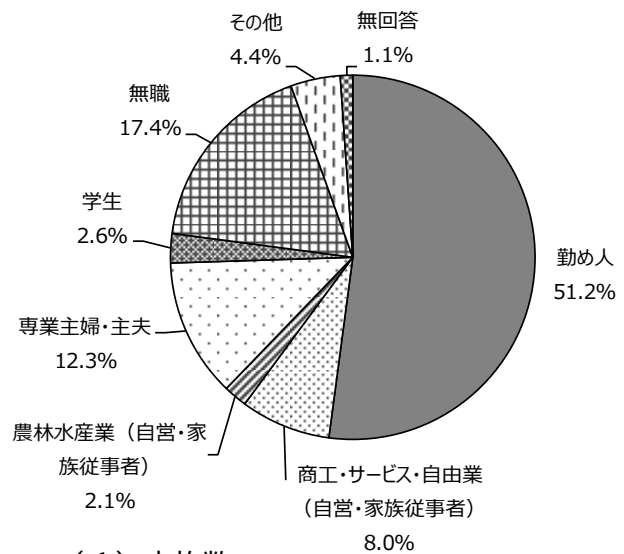
### (2) 年代



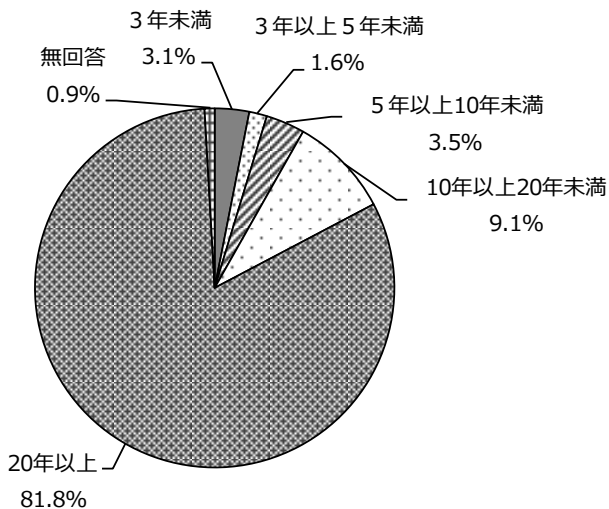
### (3) 国籍



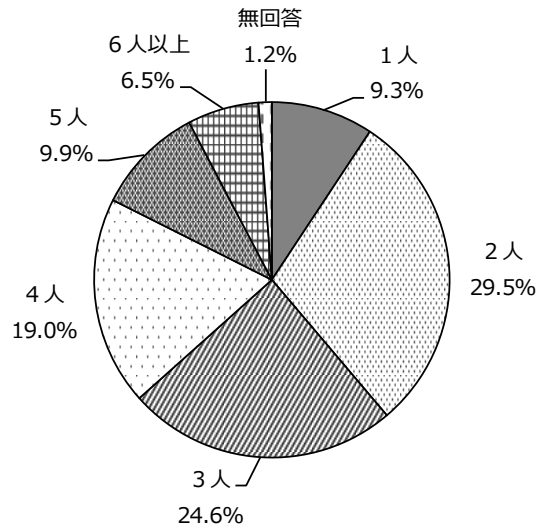
### (4) 職業



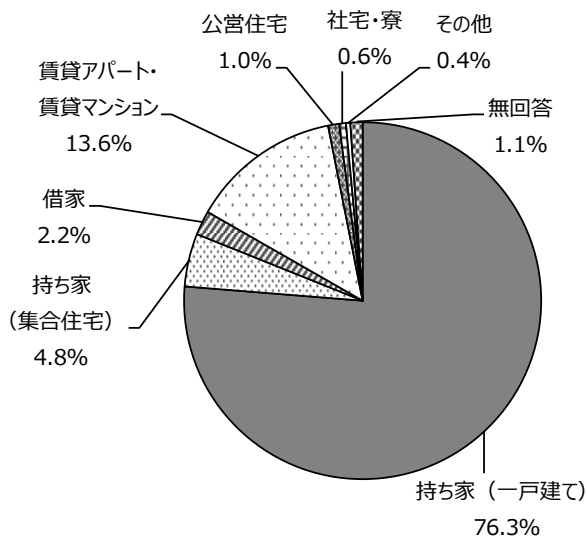
### (5) 居住年数



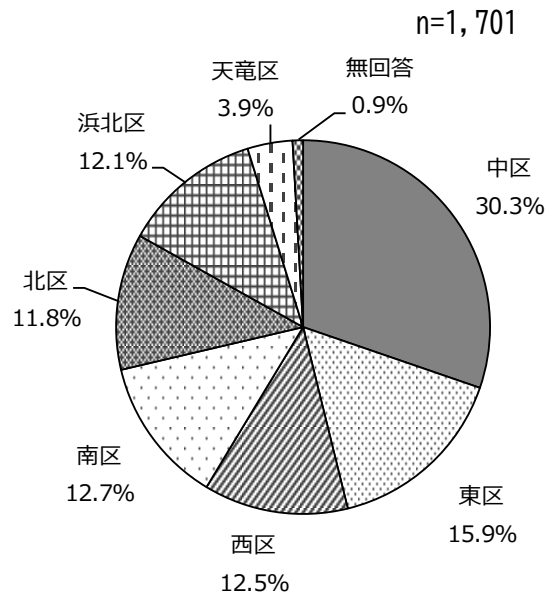
### (6) 家族数



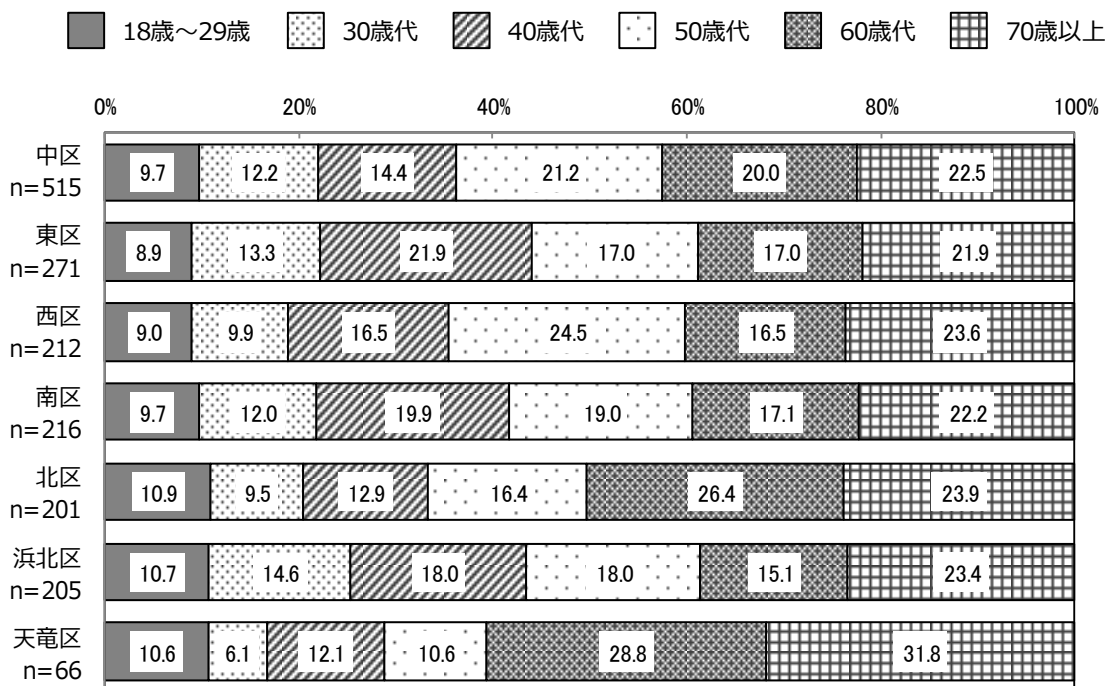
(7) 居住形態



(8) 行政区



(9) 行政区別年代





## II 調查結果

---

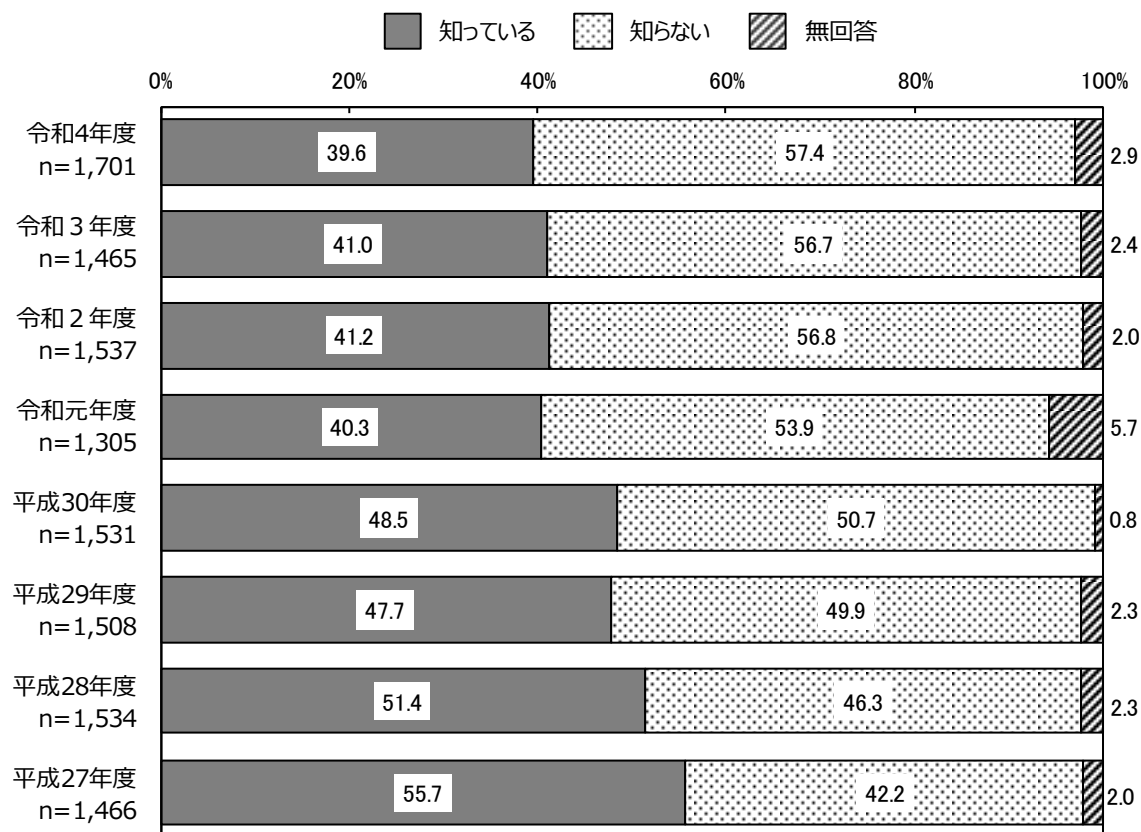
# 1 あなたはご存じですか？

問1 次の項目について、あなたはご存じですか。

## ① 市制記念日

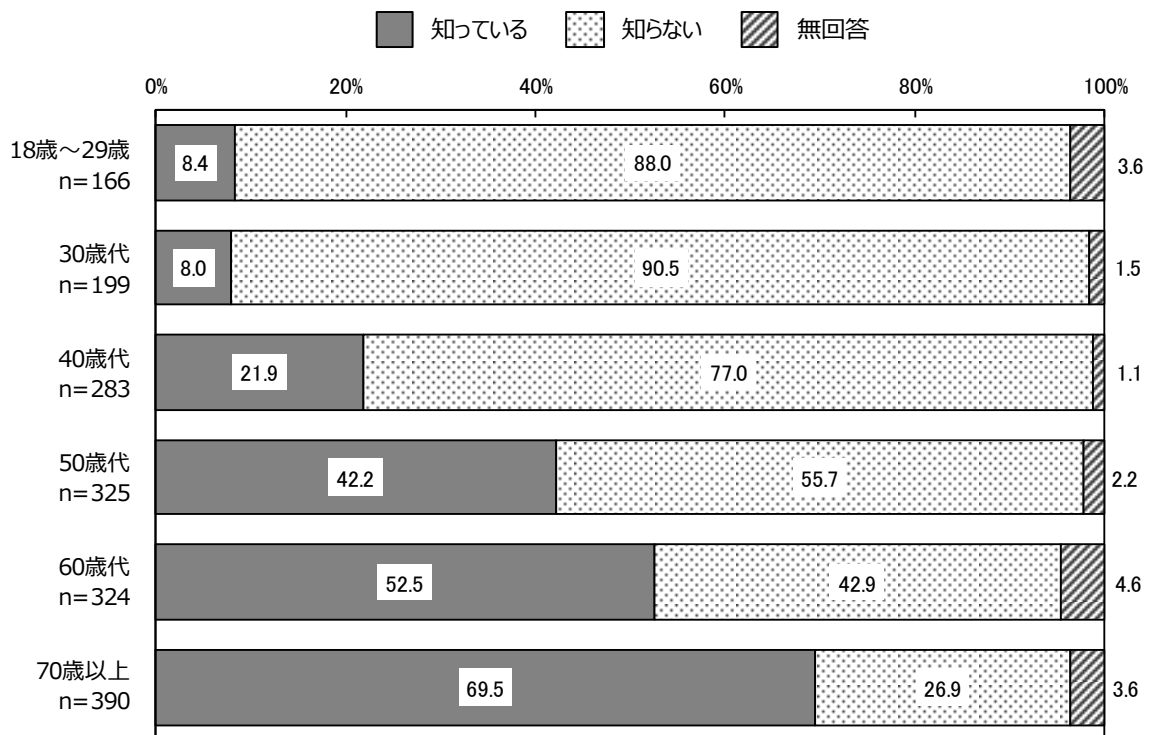
※ 浜松市では市制施行を記念して、7月1日を市制記念日として定めています。

「市制記念日」を「知っている」人は39.6%

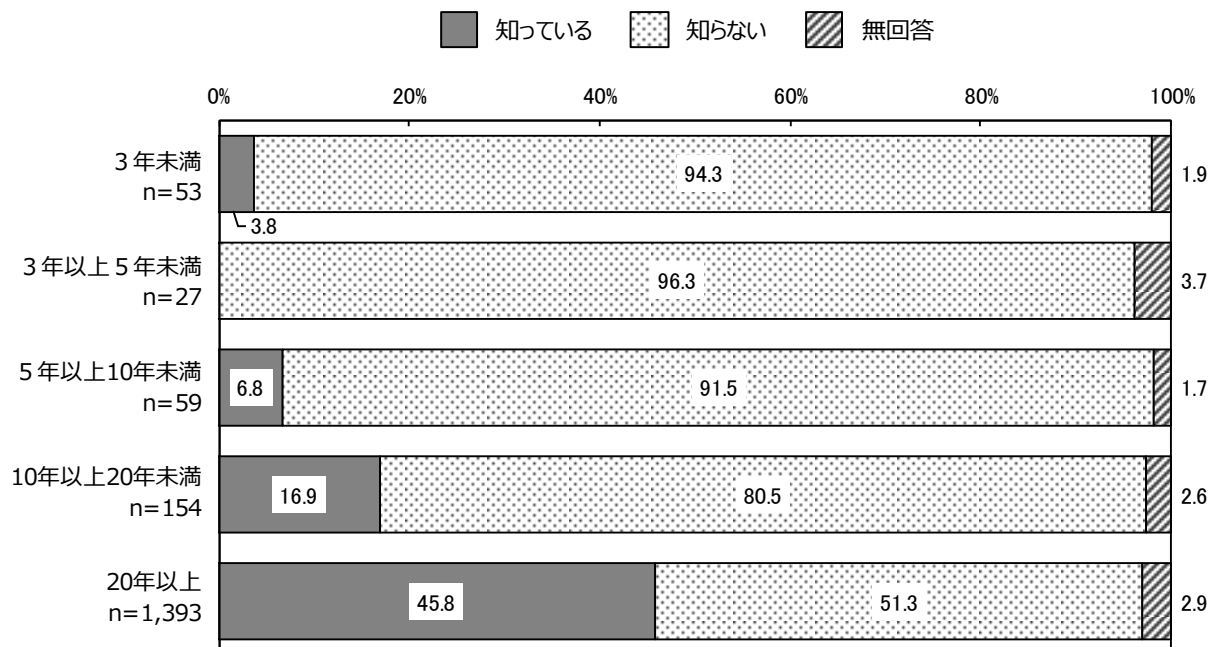


- 「知っている」が39.6%となり、「知らない」の57.4%を17.8ポイント下回った。令和3年度との比較では、大きな差はみられなかった。
- 年代別でみると、「知っている」と回答した割合は、70歳以上の69.5%が最も高く、次いで60歳代が52.5%となった。年齢が高いほど「知っている」割合が高い傾向がみられたが、30歳代以下は8割以上が「知らない」と回答しており、若い世代の認知度が低い。
- 居住年数別でみると、「知っている」と回答した割合は「20年以上」の45.8%が最も高く、次いで「10年以上20年未満」の16.9%となった。居住年数が高いほど「知っている」割合が高い傾向がみられたが、20年未満ではいずれも「知らない」割合が8割を超えた。
- 若い世代を主として市民全体の認知度を向上させていく取り組みが求められる。そのため、学校教育などを通じてふるさとについて学ぶ機会を増やし、若い世代に対し地域への愛着や市政についての関心を深めることを中心に、さまざまな年代や地域に向けた情報の発信を継続する必要がある。

【年代別】



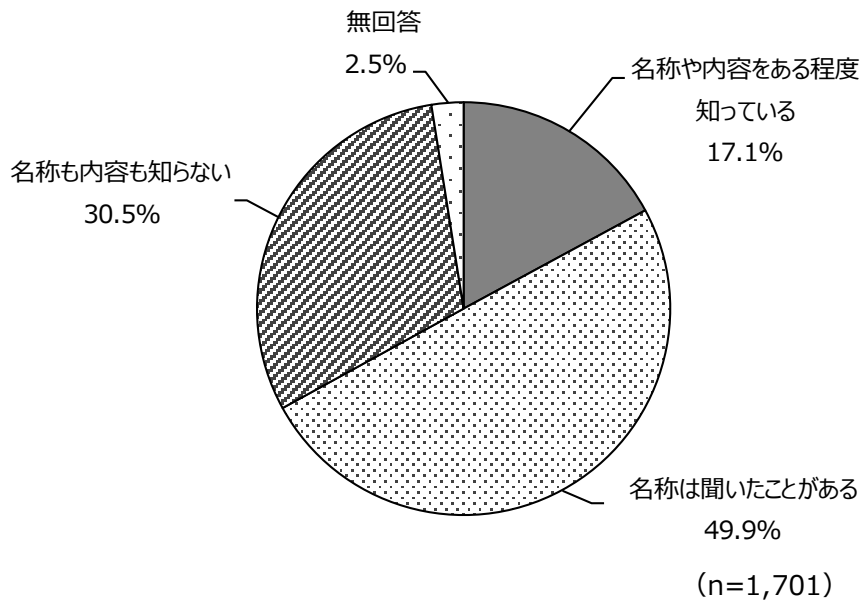
【居住年数別】



## ② ふれあい交流センター

- ※ 高齢者の生きがいづくり・健康づくりや地域の子育て支援、高齢者と子供の世代を超えた交流の場として活用することを目的とした施設です。
- ※ 「ふれあい交流センターいたや」などの名称があり、市内12カ所に設置されています。

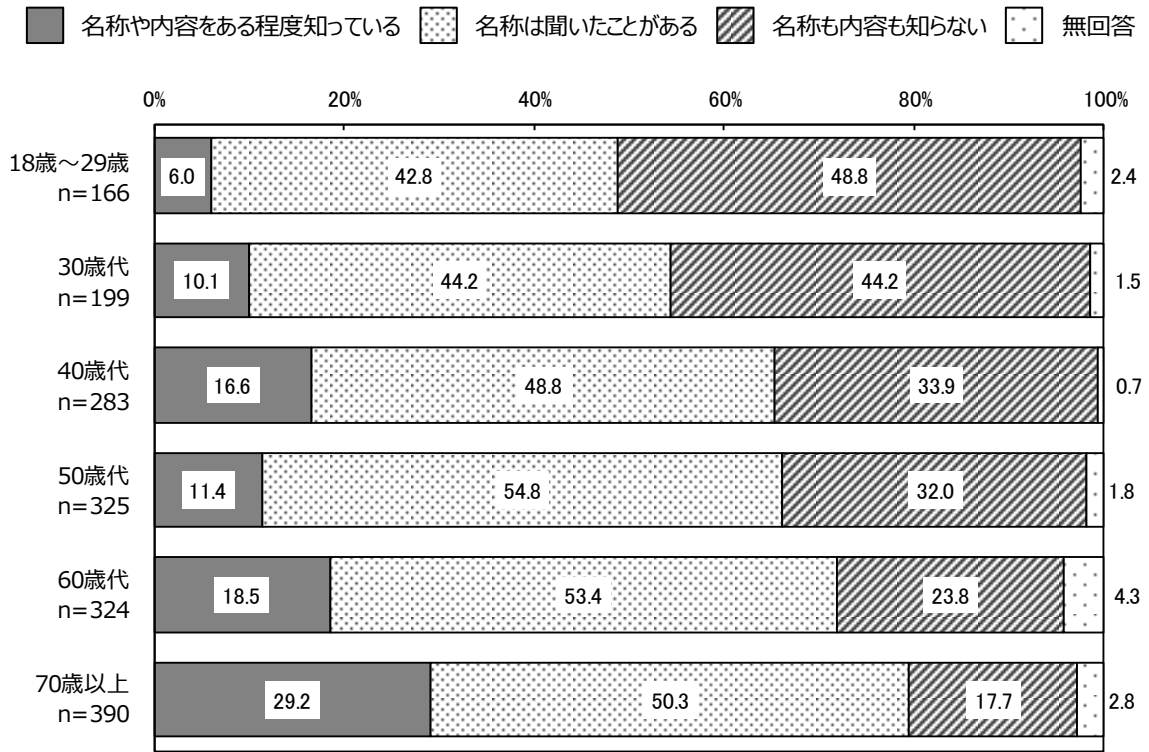
「ふれあい交流センター」を『知っている』人は67.0%



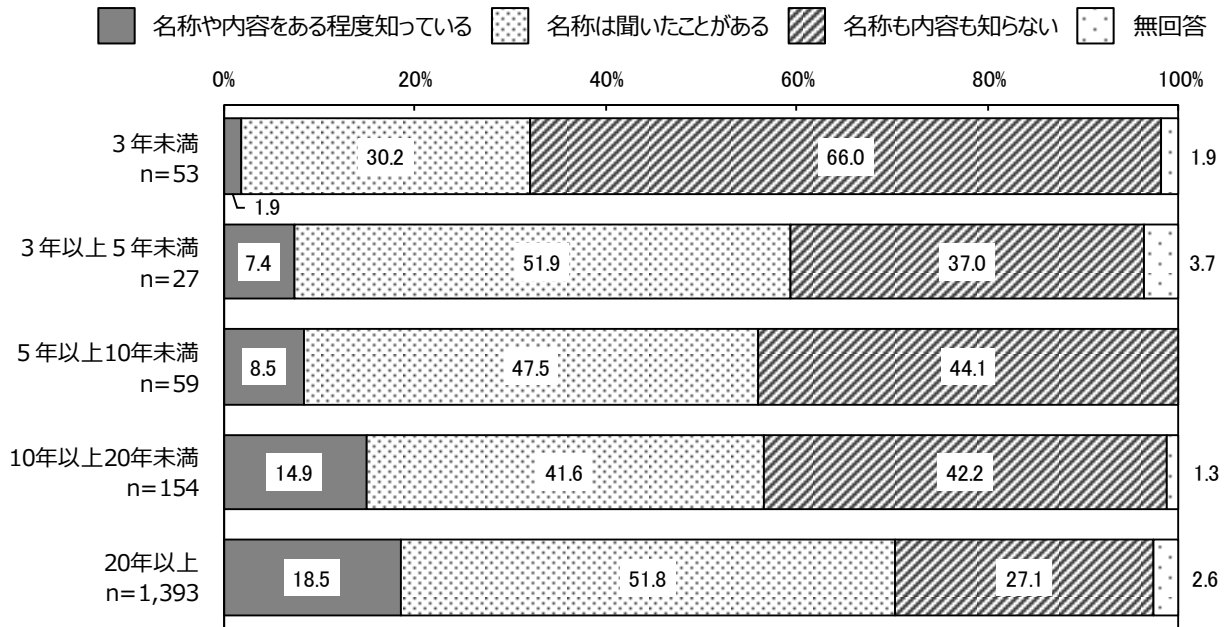
- 「名称や内容がある程度知っている」と「名称は聞いたことがある」を合わせた『知っている』は67.0%となった。
- 年代別で見ると、「名称や内容がある程度知っている」と回答した割合は70歳以上の29.2%が最も高く、次いで60歳代の18.5%となった。年齢が低いほど「名称も内容も知らない」割合が高い傾向がみられ、30歳代以下では4割を超えた。
- 居住年数別では、「名称や内容がある程度知っている」と回答した割合は20年以上の18.5%が最も高く、3年未満が1.9%と最も低い。居住年数が長いほど「名称や内容がある程度知っている」割合が高い。



【年代別】



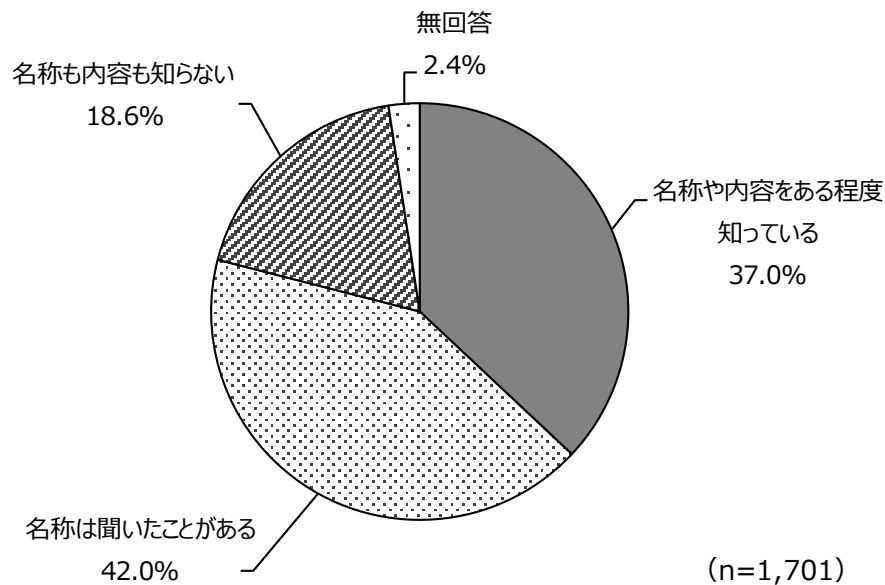
【居住年数別】



### ③ カーボンニュートラル

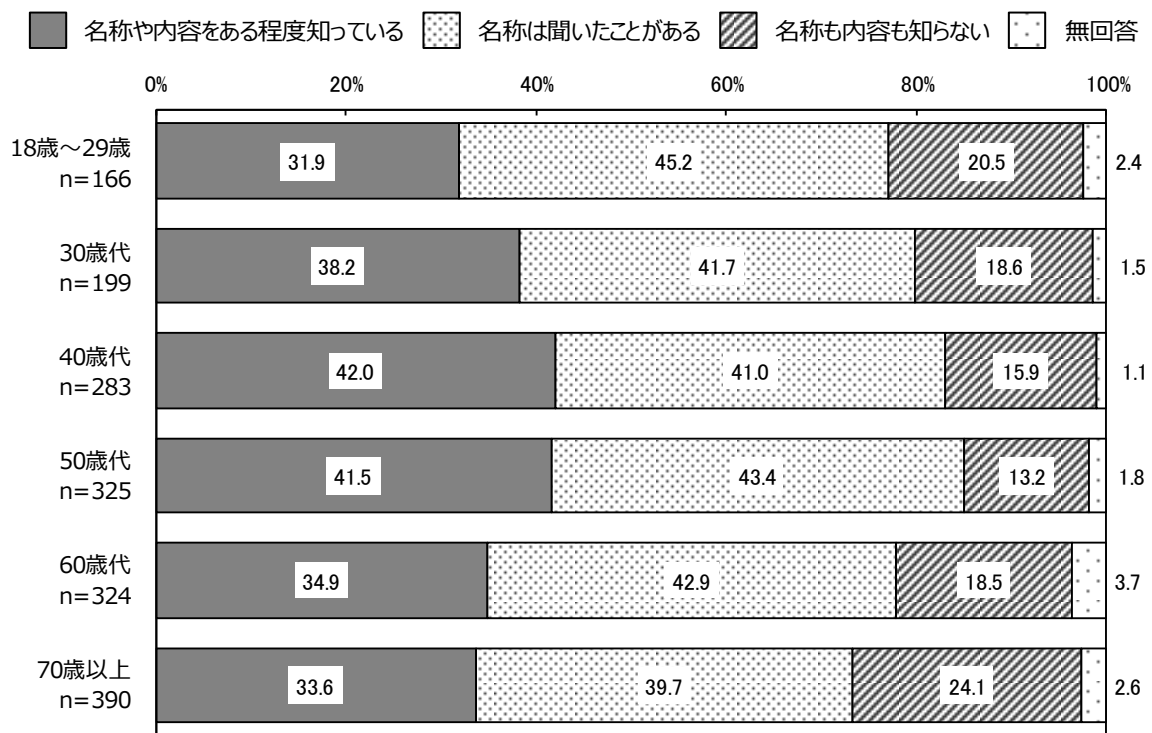
- ※ 地球上の温室効果ガスの排出量と吸収量・除去量を均衡させることであり、実現を目指した取り組みが進められています。
- ※ 浜松市でも、脱炭素政策およびエネルギー政策の強化を図り、持続可能な社会の構築を進めてまいります。

「カーボンニュートラル」を『知っている』人は79.0%

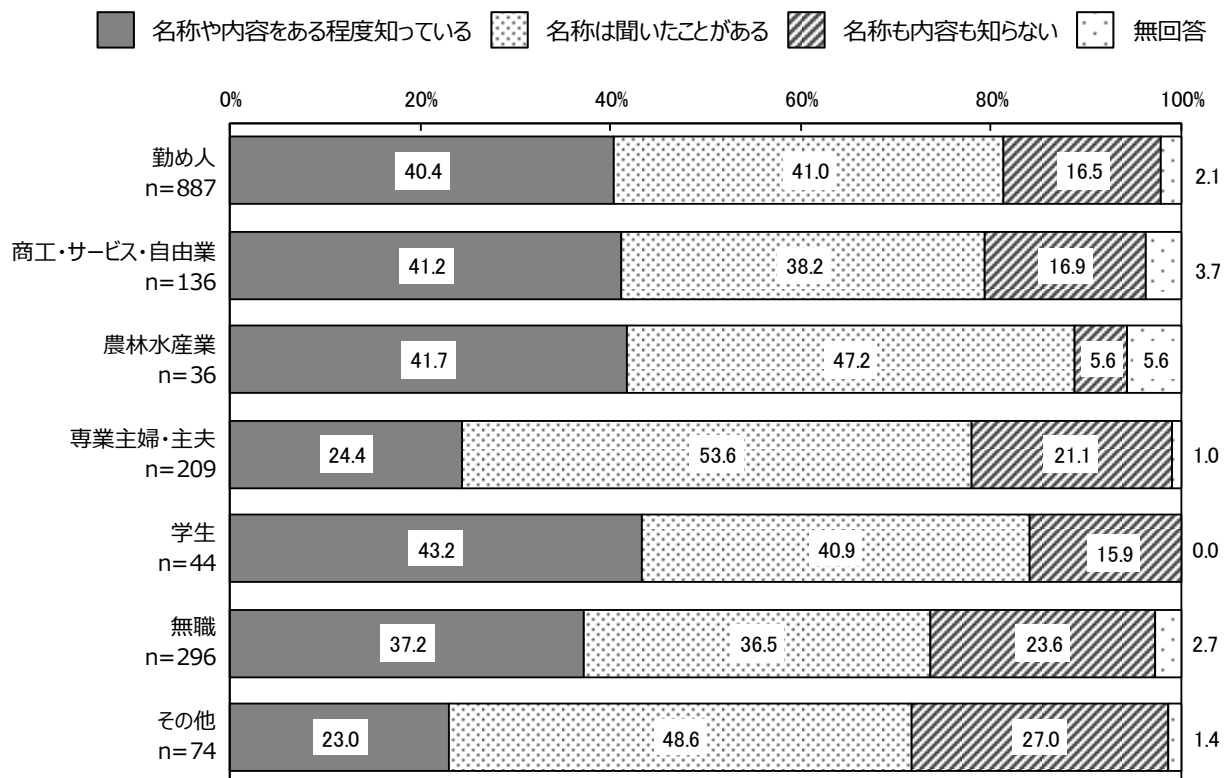


- 「名称や内容のある程度知っている」と「名称は聞いたことがある」を合わせた『知っている』は79.0%となり、「名称も内容も知らない」の18.6%を60.4ポイント上回った。
- 年代別で見ると、「名称や内容のある程度知っている」と回答した割合は40歳代の42.0%が最も高く、次いで50歳代が41.5%となった。18歳～29歳と70歳以上では2割以上が「名称も内容も知らない」と回答しており、他の世代と比較して認知度がやや低い。
- 職業別では、「名称や内容のある程度知っている」と「名称は聞いたことがある」を合わせた『知っている』は、農林水産業(自営・家族従事者)の88.9%が最も高く、次いで学生が84.1%となった。最も低いその他が71.6%となり、最も高い農林水産業(自営・家族従事者)とは、12.5ポイントの差がみられた。

### 【年代別】



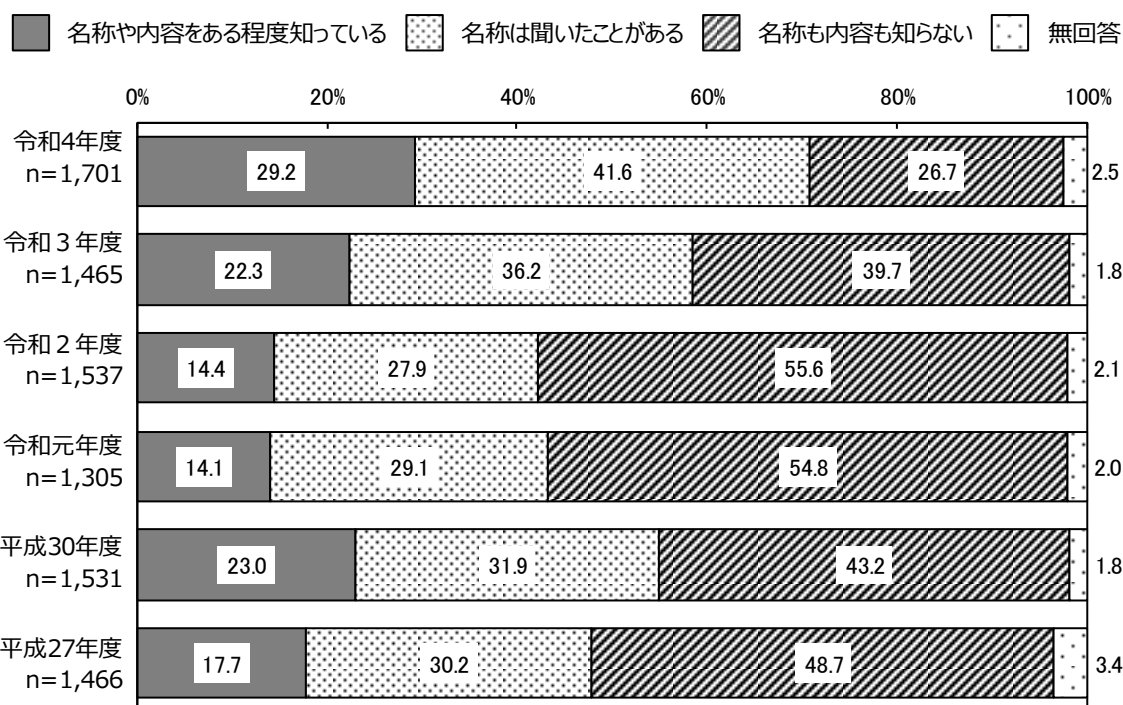
### 【職業別】



#### ④ 生物多様性

※ 生物多様性とは、生き物の豊かな個性とつながりのことです。すべての生き物には違い（「生態系の多様性」、「種の多様性」、「遺伝子の多様性」）があり、互いにつながり合い、支え合って生きています。

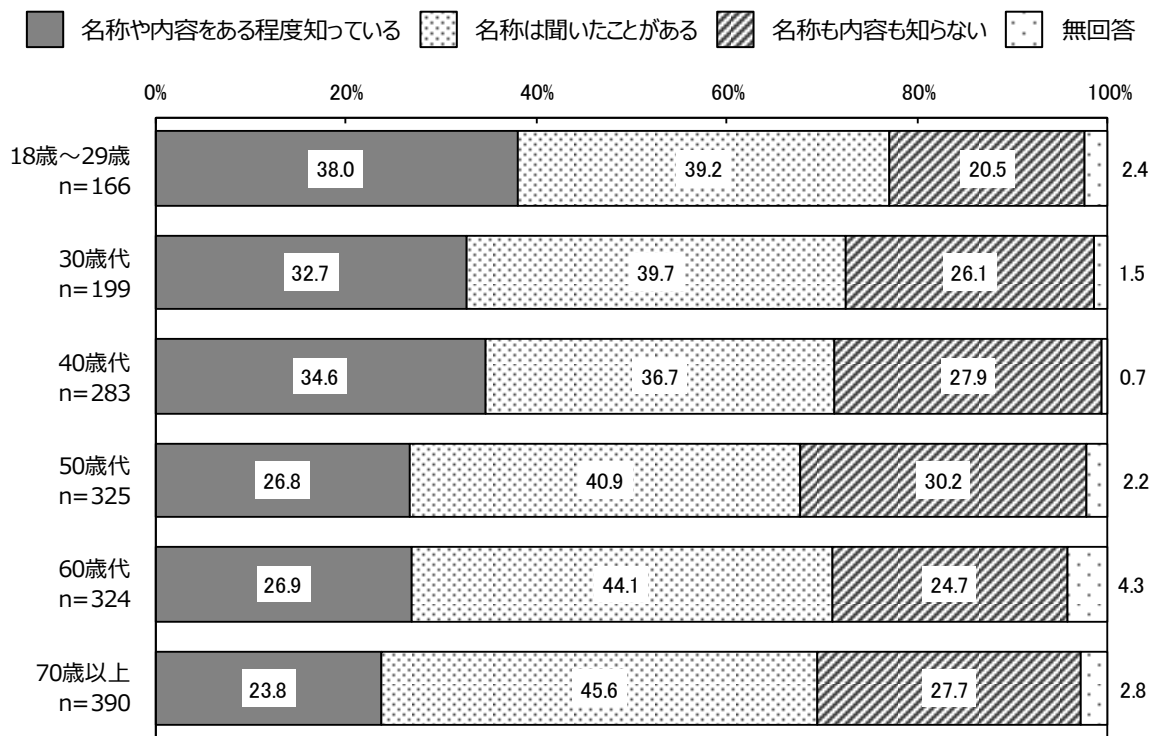
「生物多様性」を『知っている』人は70.8%



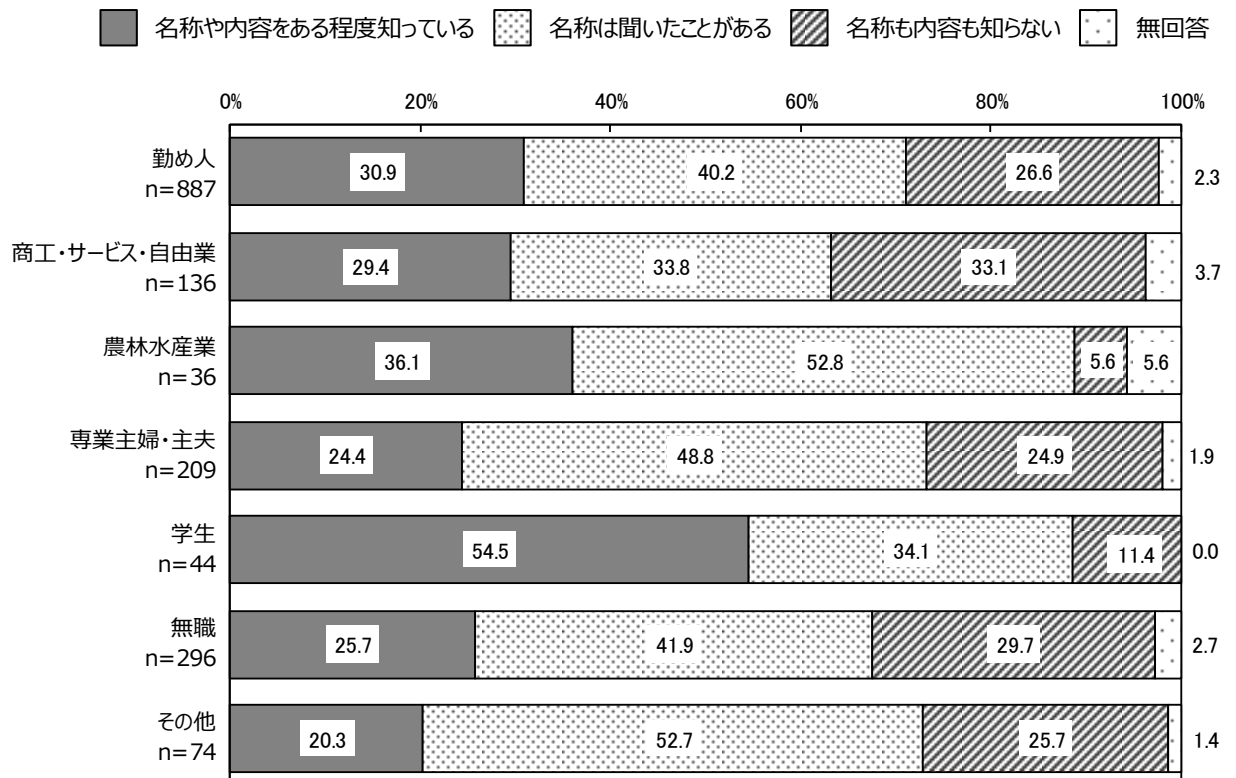
※ 令和3年度以前の調査では、「名称や内容のある程度知っている」が「名称も内容も知っている」、「名称は聞いたことがある」は「名称だけは知っている」となっている。

- 「名称や内容のある程度知っている」と「名称は聞いたことがある」を合わせた『知っている』は70.8%となり、「名称も内容も知らない」の26.7%を44.1ポイント上回った。
- 年代別でみると、「名称や内容のある程度知っている」と回答した割合は18歳～29歳の38.0%が最も高く、次いで40歳代が34.6%となった。「名称も内容も知らない」と回答した割合は50歳代が30.2%と、唯一3割を超えた。
- 職業別では、「名称や内容のある程度知っている」と「名称は聞いたことがある」を合わせた『知っている』は、農林水産業（自営・家族従事者）が88.9%、次いで学生が88.6%となった。最も低い商工・サービス・自由業（自営・家族従事者）が63.2%となり、最も高い農林水産業（自営・家族従事者）とは25.7ポイントの差がみられた。

## 【年代別】



## 【職業別】

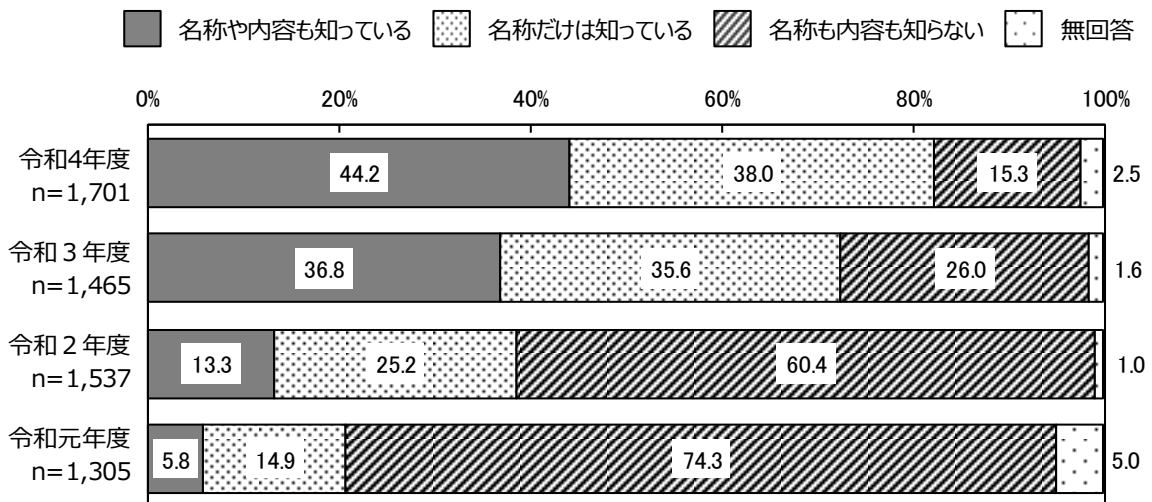


## 2 SDGsの達成に向けて

### 2-1 SDGsの認知度

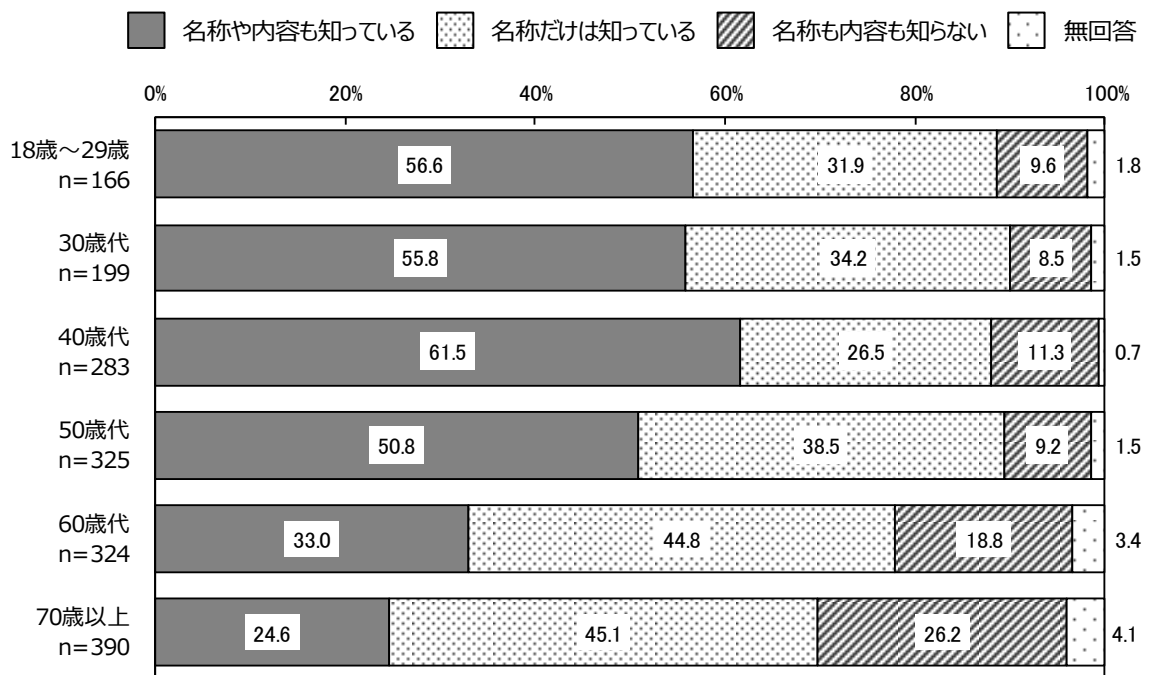
問2 あなたは「SDGs」をご存じですか。(1つだけ○を付けてください)

「SDGs」を『知っている』人は82.2%

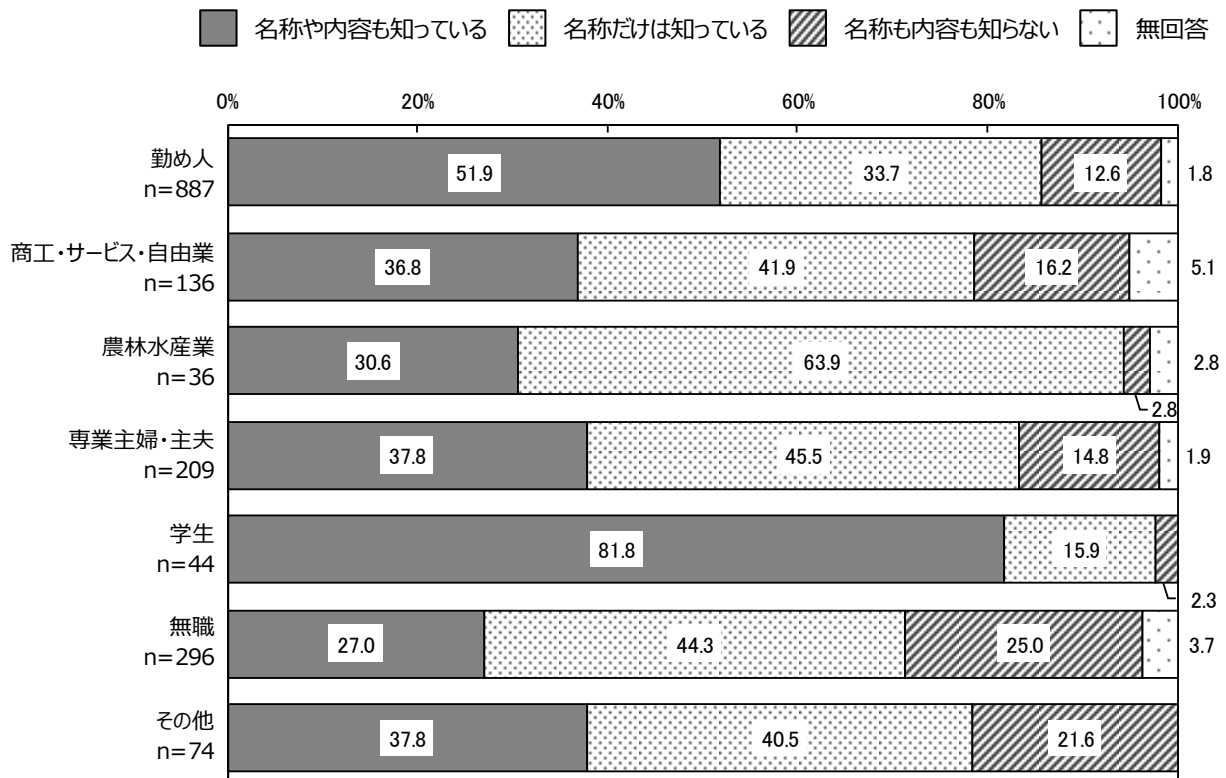


- 「名称や内容も知っている」と「名称だけは知っている」を合わせた『知っている』は82.2%となり、「名称も内容も知らない」の15.3%を66.9ポイント上回った。令和3年度との比較では、『知っている』は9.8ポイント増加となった。市をはじめとし、教育機関や民間企業など、多様な主体の取り組みやメディアへの露出増加による社会全体への浸透がうかがえる。
- 年代別でみると、「名称や内容も知っている」と回答した割合は40歳代の61.5%が最も高く、次いで18歳～29歳が56.6%となった。最も低い70歳以上が24.6%となり、最も高い40歳代とは、36.9ポイントの差がみられた。
- 職業別でみると、「名称や内容も知っている」と回答した割合は学生の81.8%が最も高く、次いで勤め人が51.9%となった。SDGsを『知っている』は、すべての職業で7割を超えている。
- SDGsを『知っている』は近年急激に高まっている。前回と比較して18歳～29歳では9.1ポイント増、60歳代以外の年代では9ポイント超の増加となっており、年代を問わず、学校教育や社会におけるSDGsへの意識の高まりがみられる。

### 【年代別】



### 【職業別】



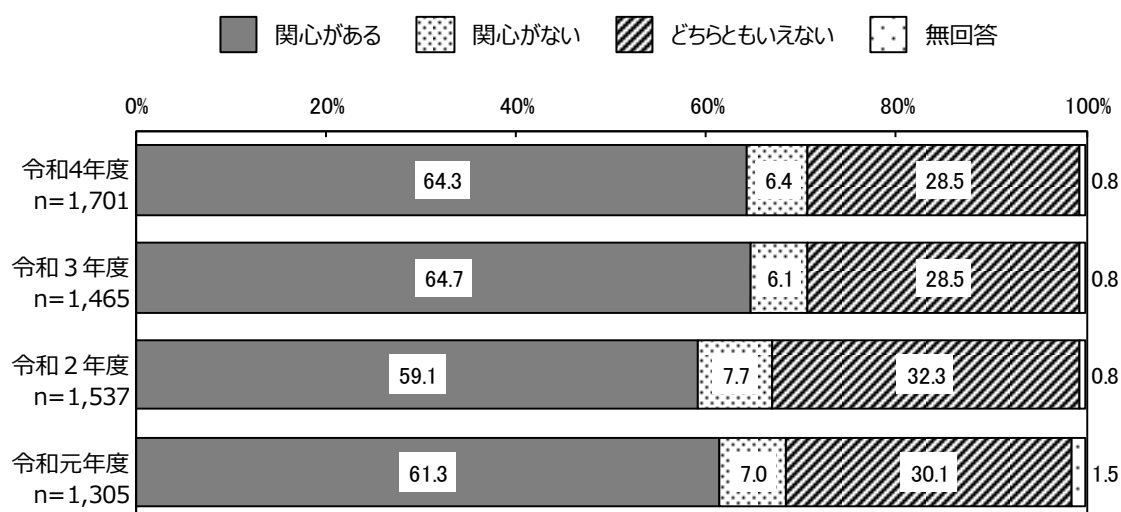
## 2-2 再生可能エネルギーについて

問3 あなたは「再生可能エネルギー※」について関心がありますか。

(1つだけ○を付けてください)

※ 再生可能エネルギーとは、石油などの化石エネルギーではなく、太陽光・風力・水力・地熱・太陽熱・大気中の熱その他の自然界に存在する熱・バイオマスなど非化石エネルギー由来のエネルギーのことです。

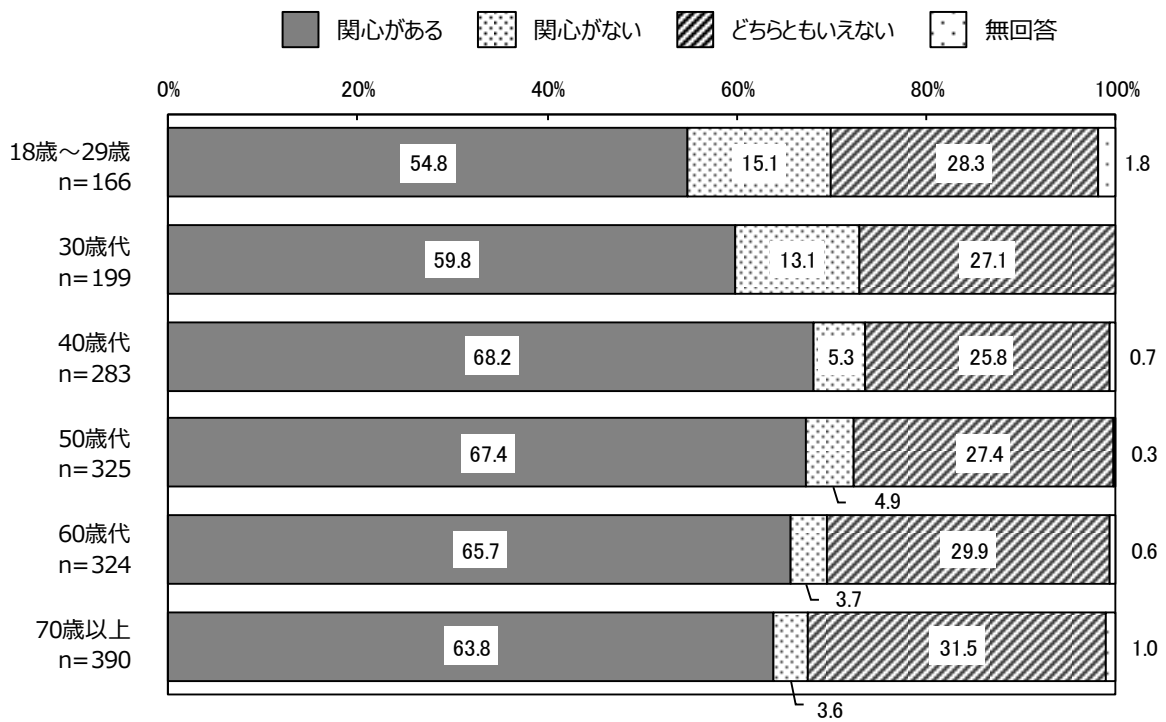
「再生可能エネルギー」について「関心がある」人は 64.3%



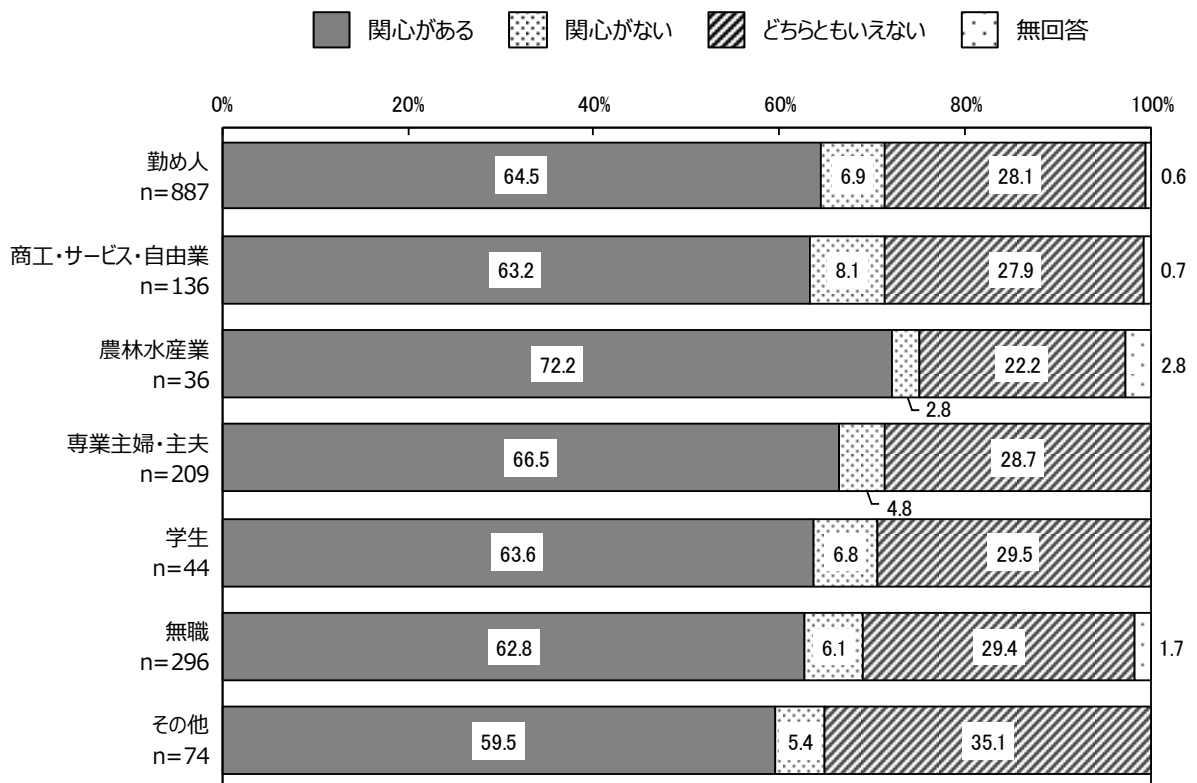
- 「関心がある」が 64.3%となり、「関心がない」の 6.4%を 57.9 ポイント上回った。令和3年度との比較では、「関心がある」が 0.4 ポイント減少となった。
- 年代別でみると、「関心がある」と回答した割合は、40 歳代の 68.2%が最も高く、次いで 50 歳代が 67.4%となった。年齢が低いほど「関心がない」割合が高い傾向がみられ、30 歳代以下では 1 割を超えた。
- 職業別でみると、「関心がある」と回答した割合は、農林水産業の 72.2%が唯一 7 割を超えて最も高く、次いで専業主婦・主夫が 66.5%となった。すべての職業で「関心がある」と回答した割合は 5 割を超え、「関心がない」を大きく上回った。



### 【年代別】

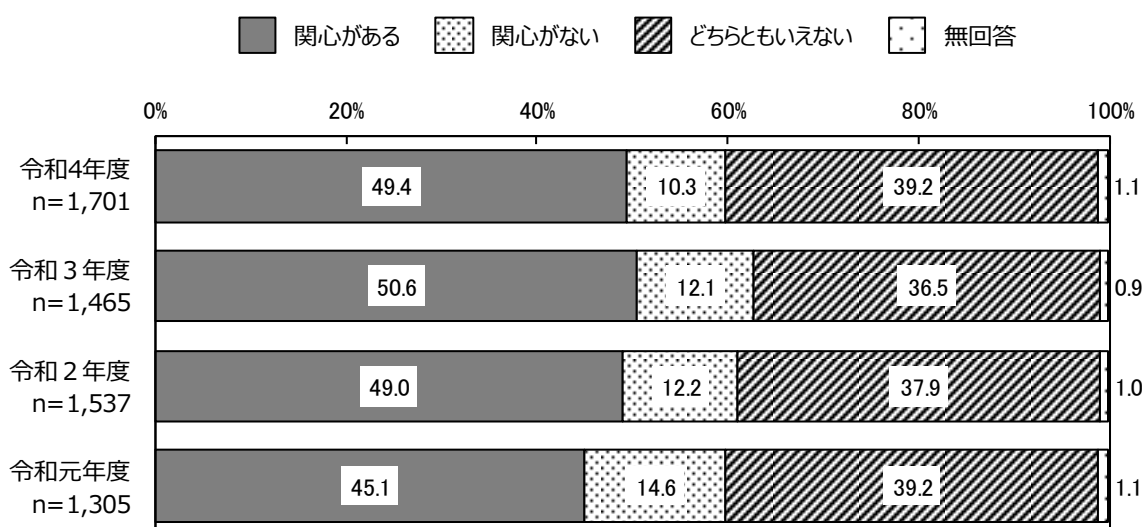


### 【職業別】



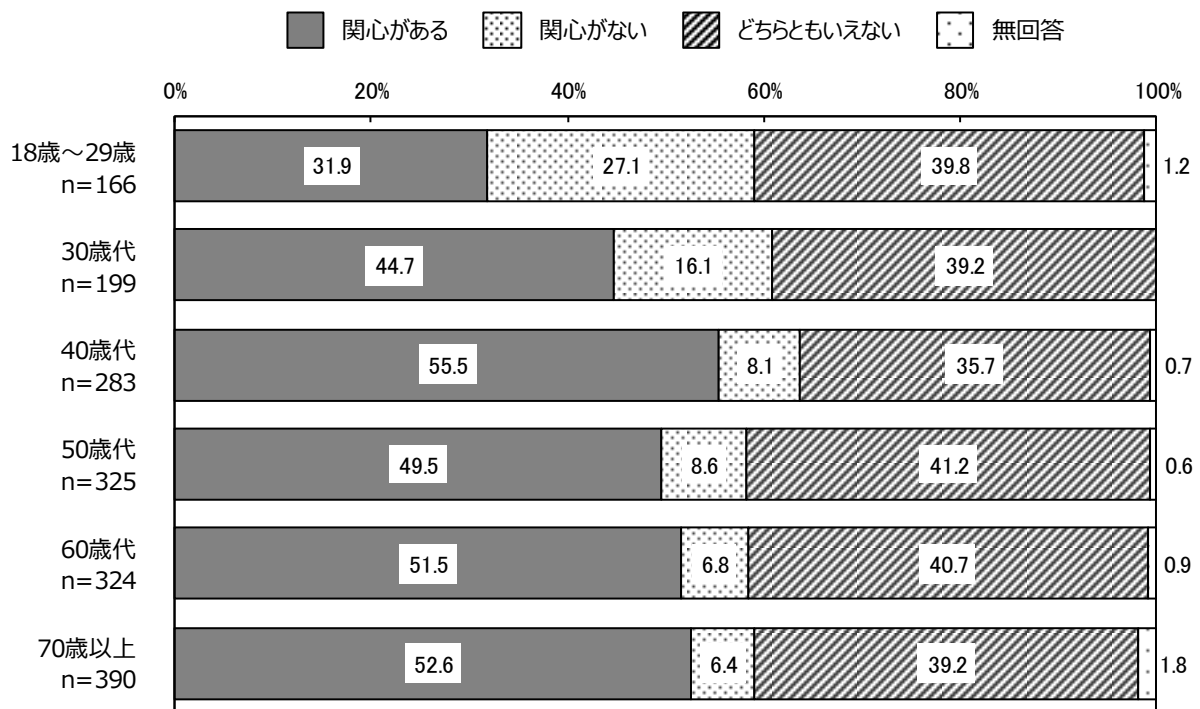
問4 あなたのご家庭では、「再生可能エネルギー」から作られた電気や熱を使用することについて関心がありますか。(1つだけ○を付けてください)

「再生可能エネルギー」から作られた電気や熱を使用することに「関心がある」人は49.4%

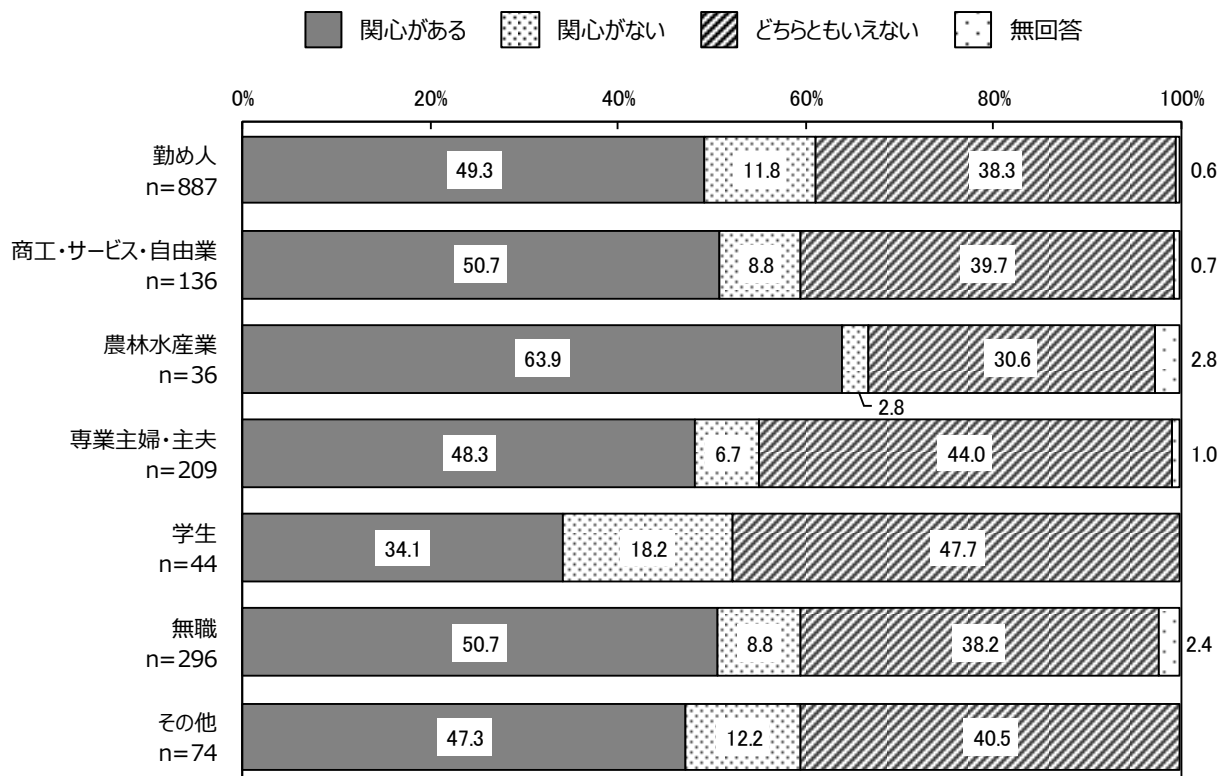


- 「関心がある」が49.4%となり、「関心がない」の10.3%を39.1ポイント上回った。令和3年度との比較では、「関心がある」が1.2ポイント減少となった。
- 年代別でみると、「関心がある」と回答した割合は、40歳代の55.5%が最も高く、次いで70歳以上が52.6%となった。問3「再生可能エネルギー」の関心度と同様、年齢が低いほど「関心がない」割合が高い傾向がみられ、18歳～29歳では27.1%となった。
- 職業別でみると、「関心がある」と回答した割合は、農林水産業の63.9%が最も高く、次いで商工・サービス・自由業と無職の50.7%となった。「関心がない」と回答した割合は学生の18.2%が最も高い。
- 問3の「再生可能エネルギー」への関心度については64.3%が「関心がある」と回答しているのに対し、家庭における再生可能エネルギーの利用については、関心がある人は49.4%にとどまる。取り組みを推進するためには、浜松市におけるエネルギー政策や、家庭利用における具体的な事例や効果、補助金制度など、さまざまな情報を発信するとともに、ボトルネックとなる要因を把握し、解決することが必要である。

【年代別】

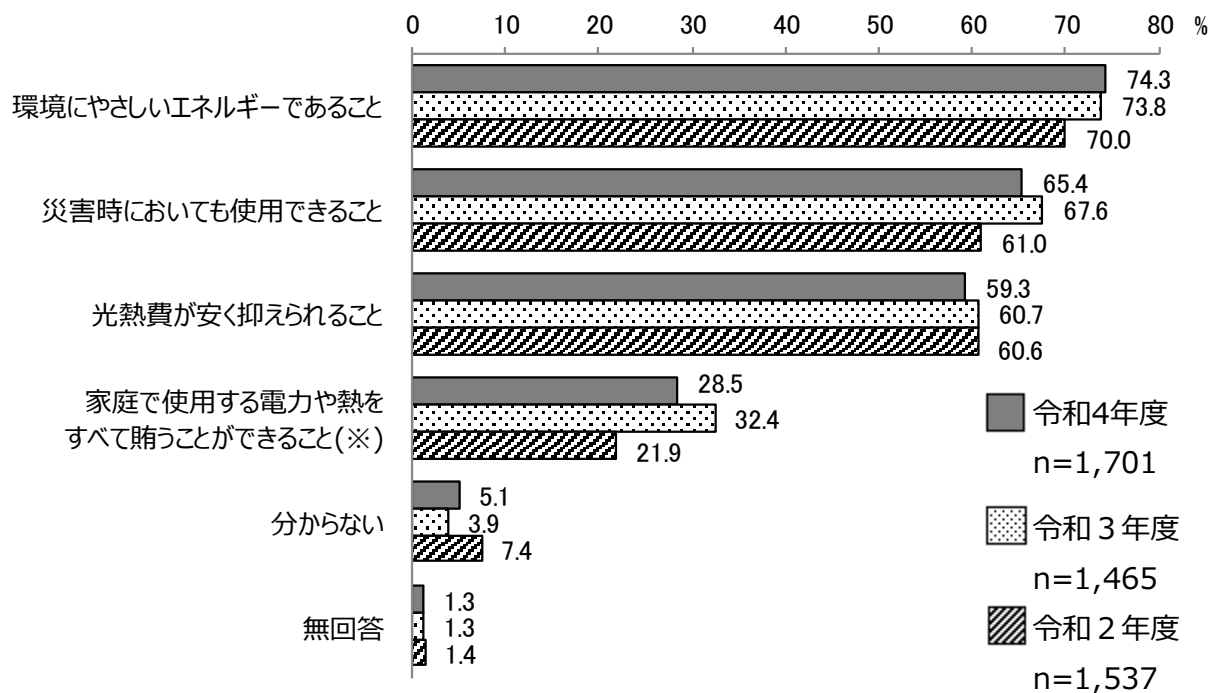


【職業別】



問5 問4について、「再生可能エネルギー」から作られた電気や熱を使用するにあたっての判断材料となるものは何ですか。(あてはまるものすべてに○を付けてください)

「再生可能エネルギー」から作られた電気や熱を使用するにあたっての判断材料は、「環境にやさしいエネルギーであること」が74.3%



※ 令和2年度調査では、「再生可能エネルギーで使用する電力や熱をすべて賄えること」となっている。

- 「再生可能エネルギー」から作られた電気や熱を使用するにあたっての判断材料は、「環境にやさしいエネルギーであること」が74.3%と最も高く、次いで「災害時においても使用できること」が65.4%、「光熱費が安く抑えられること」が59.3%となった。令和3年度との比較では、「家庭で使用する電力や熱をすべて賄うことができること」が3.9ポイント減少となった。
- 年代別で見ると、18歳～29歳と50歳代以上では「環境にやさしいエネルギーであること」が最も高い。30歳代と40歳代では「災害時においても使用できること」が最も高い。すべての年代で「家庭で使用する電力や熱をすべて賄うことができること」は、3割半ばを下回り低くなっている。
- 職業別で見ると、すべての職業で「環境にやさしいエネルギーであること」が7割を超え最も高い。専業主婦・主夫では「災害時においても使用できること」が72.2%と、他の職業と比較して高い。

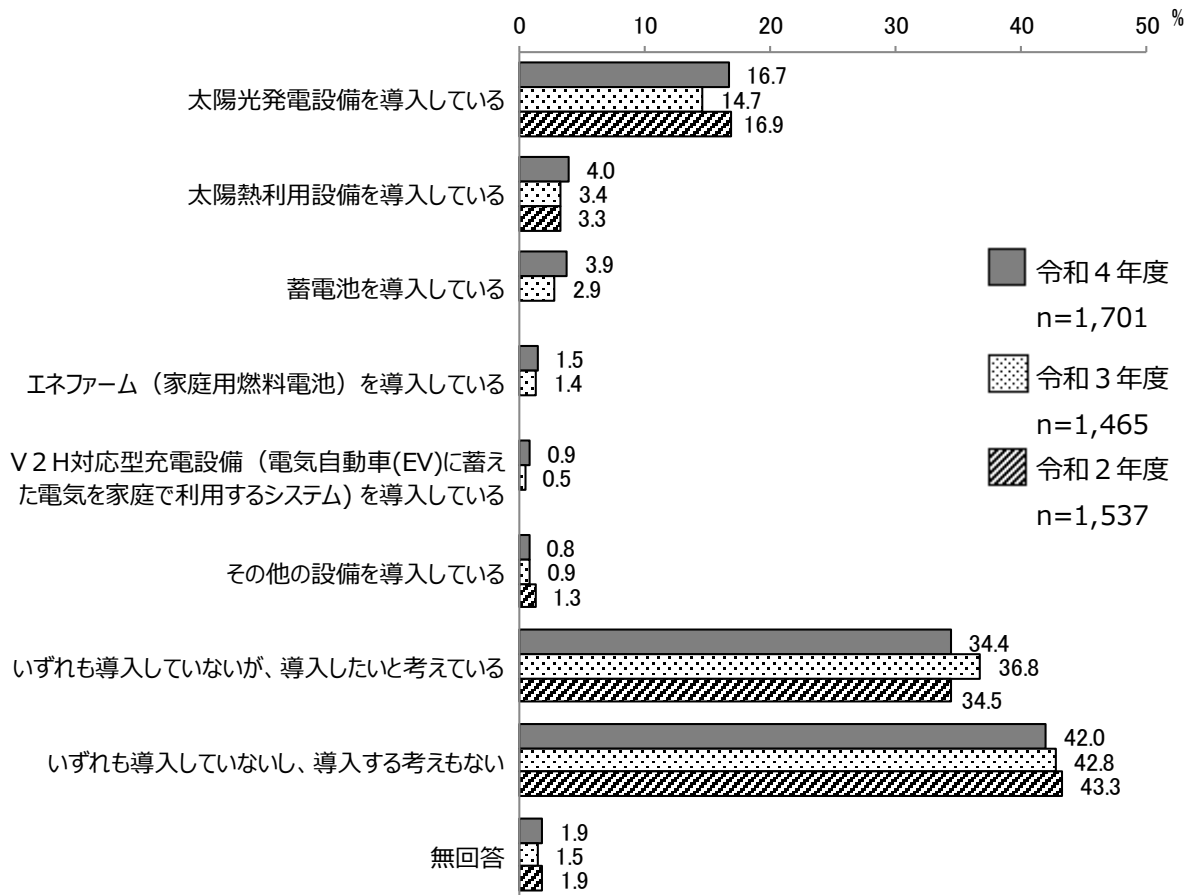
【年代別・職業別】

(単位：%)

		ある環境にやさしいエネルギーで	災害時においても使用できること	光熱費が安く抑えられること	すべて家庭で使用することが電力や熱を賄うことができること	分からない	無回答
年代別	18歳～29歳 n=166	62.0	54.2	60.8	18.1	6.6	1.2
	30歳代 n=199	63.3	68.3	63.8	30.2	5.0	0.5
	40歳代 n=283	73.5	74.2	68.6	33.6	3.5	0.7
	50歳代 n=325	76.3	72.0	65.8	26.2	3.7	0.6
	60歳代 n=324	80.2	64.5	56.5	28.4	5.2	1.9
	70歳以上 n=390	79.2	58.5	47.2	30.0	6.9	1.8
	職業別	勤め人 n=887	71.3	68.3	64.5	27.7	4.1
商工・サービス・自由業 n=136		76.5	64.7	54.4	25.7	5.9	1.5
農林水産業 n=36		91.7	63.9	52.8	38.9	0.0	2.8
専業主婦・主夫 n=209		80.4	72.2	54.1	32.5	5.7	0.5
学生 n=44		77.3	47.7	61.4	18.2	0.0	0.0
無職 n=296		75.7	56.1	50.7	29.7	8.8	2.4
その他 n=74		75.7	67.6	60.8	25.7	6.8	1.4

問6 あなたのご家庭では、「再生可能エネルギー」の活用機器（太陽光発電、太陽熱利用など）を既に導入していますか。（あてはまるものすべてに○を付けてください）

「再生可能エネルギー」の活用機器の導入について、「太陽光発電設備を導入している」人は16.7%



- 導入済の中では「太陽光発電設備を導入している」が16.7%と最も高く、次いで「太陽熱利用設備を導入している」が4.0%、「蓄電池を導入している」が3.9%となった。回答割合の中では「いずれも導入していないし、導入する考えもない」が42.0%と最も高いが、次いで「いずれも導入していないが導入したいと考えている」が34.4%と、前向きな回答も高くなっている。令和3年度との比較では、「太陽光発電設備を導入している」は2.0ポイント増加となった。
- 年代別で見ると、「太陽光発電設備を導入している」と回答した割合は、40歳代が27.6%と最も高く、次いで30歳代の23.1%となった。他の年代ではいずれも1割台となった。「いずれも導入していないが、導入したいと考えている」と回答した割合は、60歳代が39.8%と高い。
- 職業別で見ると、「太陽光発電設備を導入している」と回答した割合は、商工・サービス・自由業の19.9%が最も高く、次いで勤め人の19.4%となった。「いずれも導入していないが、導入したいと考えている」と回答した割合は、農林水産業の50.0%が最も高く、次いで商工・サービス・自由業の41.9%となった。

【年代別・職業別】

(単位：%)

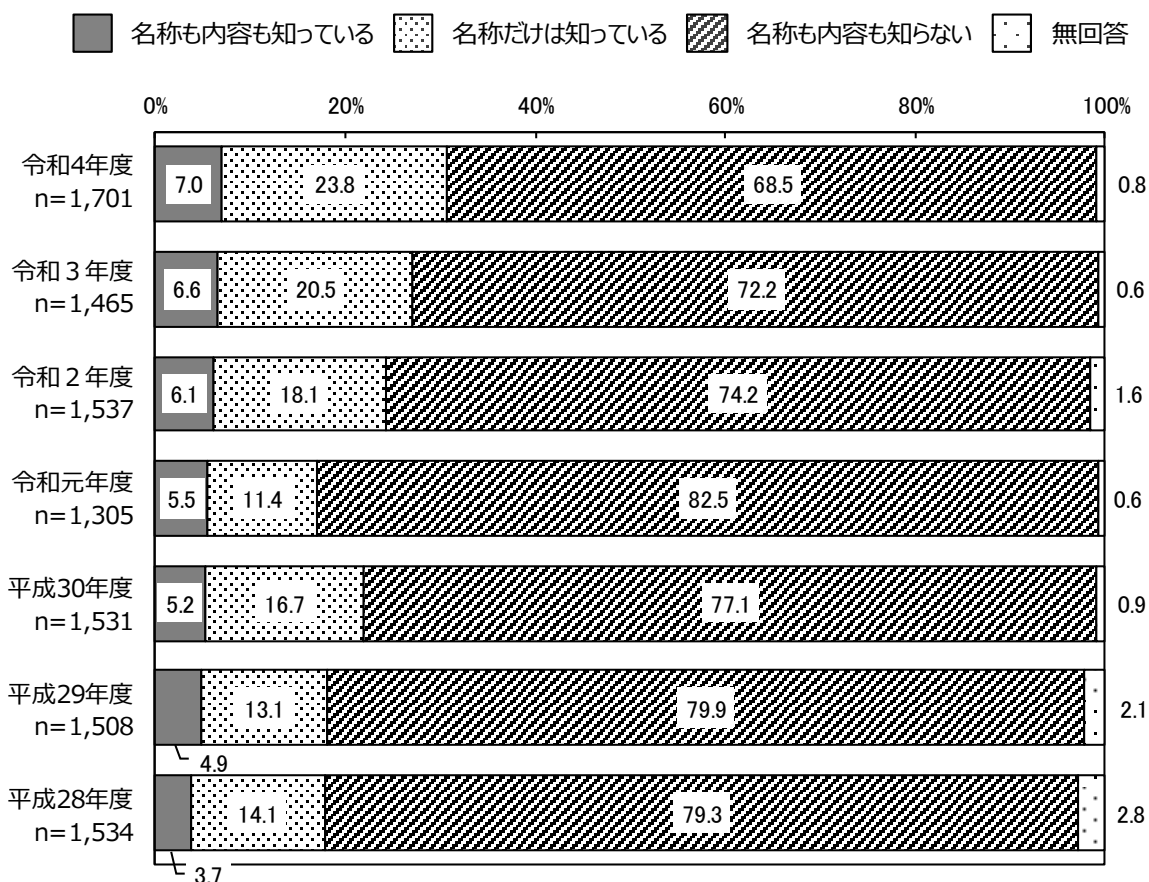
		太陽光発電設備を導入している	太陽熱利用設備を導入している	蓄電池を導入している	エネファームを導入している	V2H対応型充電設備を導入している	その他の設備を導入している	導入したいと考えているが	導入する考えもないし、	無回答
年代別	18歳～29歳 n=166	16.3	2.4	3.0	0.6	1.8	0.6	27.7	50.6	1.2
	30歳代 n=199	23.1	3.0	4.0	0.5	1.0	1.0	31.2	41.7	1.0
	40歳代 n=283	27.6	3.5	4.9	3.5	0.7	0.4	30.7	37.5	0.4
	50歳代 n=325	13.5	4.9	4.9	1.2	1.2	0.9	35.4	43.4	1.5
	60歳代 n=324	13.3	4.6	3.1	1.5	0.6	1.2	39.8	38.6	2.2
	70歳以上 n=390	11.0	4.1	3.1	1.3	0.5	0.8	36.7	44.1	3.3
職業別	勤め人 n=887	19.4	3.3	4.2	1.1	0.8	1.2	32.0	43.2	1.2
	商工・サービス・自由業 n=136	19.9	5.1	5.9	2.2	2.2	0.7	41.9	30.1	1.5
	農林水産業 n=36	16.7	13.9	5.6	5.6	2.8	0.0	50.0	22.2	2.8
	専業主婦・主夫 n=209	13.4	3.8	4.8	3.8	1.0	0.0	35.9	40.7	3.3
	学生 n=44	18.2	2.3	2.3	0.0	2.3	2.3	27.3	50.0	0.0
	無職 n=296	9.8	4.1	2.0	1.0	0.3	0.0	35.5	47.6	2.7
	その他 n=74	16.2	6.8	1.4	0.0	0.0	1.4	37.8	37.8	1.4

## 2-3 FSC森林認証について

問7 あなたは「FSC森林認証※」をご存じですか。(1つだけ○を付けてください)

※ 「FSC森林認証」とは森林が適切に管理されているかを、世界基準に沿って審査、認証する仕組みです。

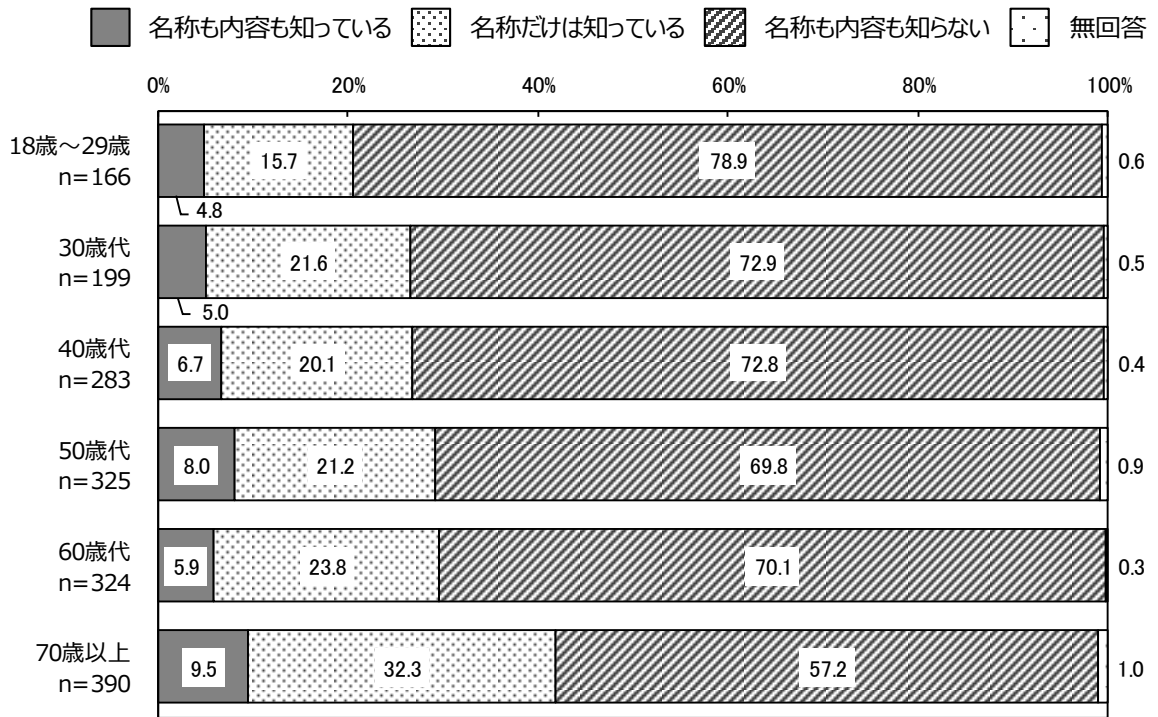
「FSC森林認証」を『知っている』人は30.8%



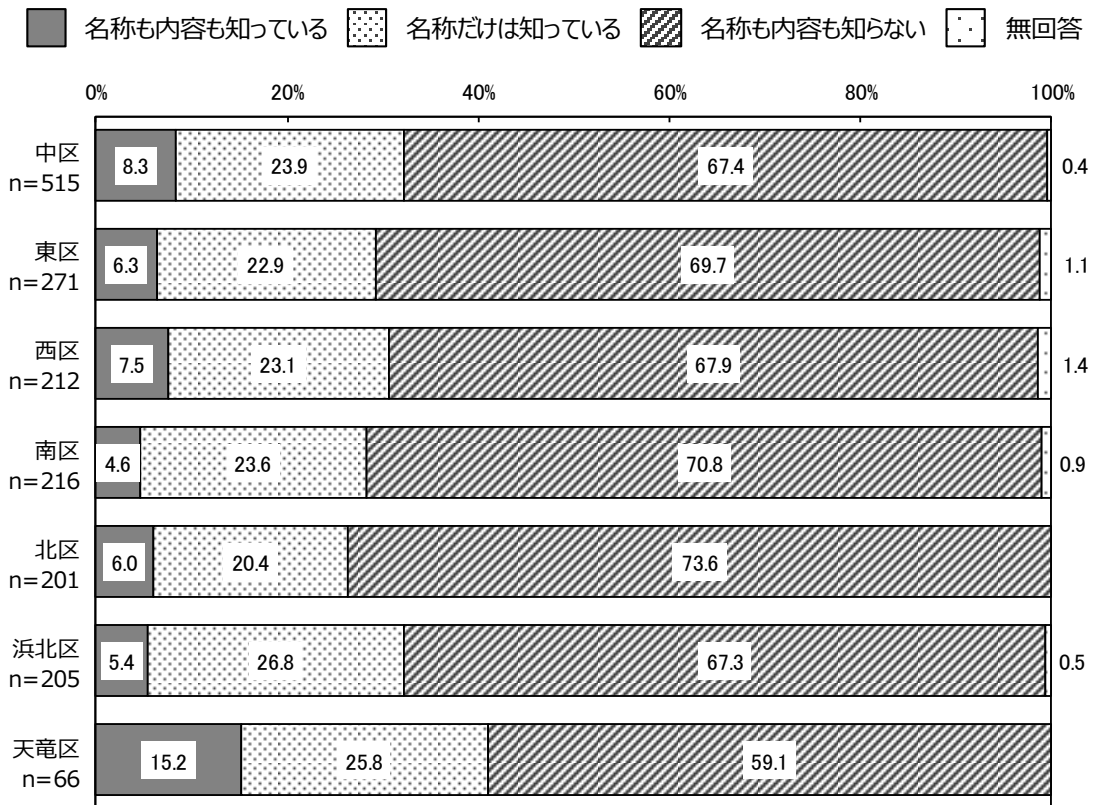
- 「名称や内容も知っている」と「名称だけは知っている」を合わせた『知っている』は30.8%となり、「名称も内容も知らない」の68.5%を37.7ポイント下回った。令和3年度との比較では、『知っている』は3.7ポイント増加となった。
- 年代別でみると、『知っている』の回答割合は、70歳以上が41.8%と最も高く、次いで60歳代が29.7%となった。最も低い18歳～29歳が20.5%となり、最も高い70歳以上とは、21.3ポイントの差がみられた。
- 行政区別でみると、天竜区の『知っている』が41.0%と最も高い。天竜区はFSC森林認証に関連が強い地域であるためと考えられる。次いで中区と浜北区が32.2%、西区が30.6%と続いた。他の行政区についてはいずれも2割台であった。近年FSCマークはさまざまな商品に印字され、目にする機会が増えている。今後も引き続き、認証マークの正しい知識や情報共有を促進し、認知度の向上に努める必要がある。



【年代別】

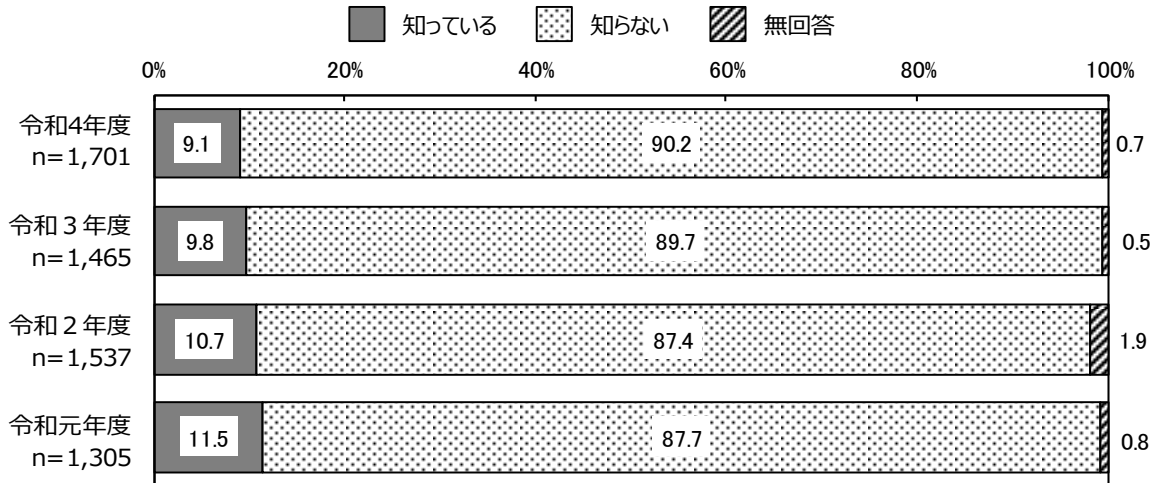


【行政区別】



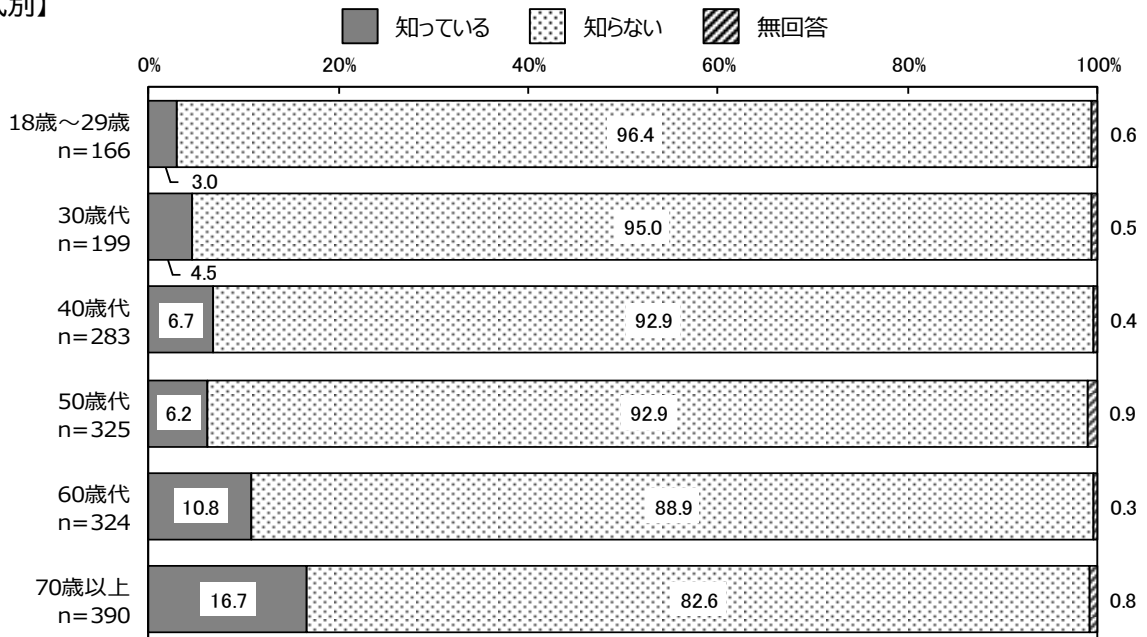
問8 あなたは「F S C森林認証」の森林を、浜松市が市町村別で最も広い面積（約49,441ha（令和4年4月1日現在））を有していることをご存じですか。（1つだけ○を付けてください）

浜松市が市町村別で最も広いF S C森林認証面積を有していることを「知っている」人は9.1%

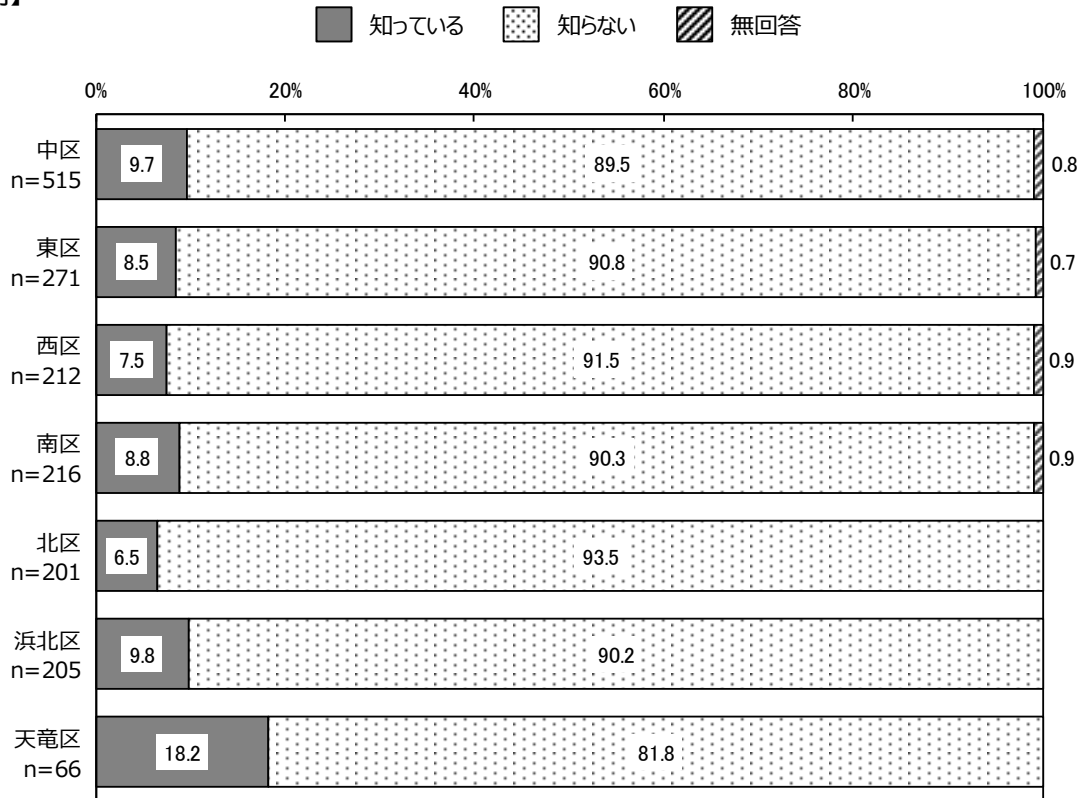


- 「知っている」が9.1%となり、「知らない」の90.2%を81.1ポイント下回った。令和元年度から減少傾向となっている。また、問7のF S C森林認証の認知度と比べて21.7ポイント低い回答結果となった。
- 年代別で見ると、「知っている」と回答した割合は70歳以上の16.7%が最も高く、次いで60歳代が10.8%となった。他の年代ではいずれも1割未満となった。
- 行政区別で見ると、「知っている」と回答した割合は天竜区の18.2%が最も高く、他の行政区では1割未満となった。
- F S C森林認証の認知度と、市町村別で最も広いF S C森林認証面積を有していることの認知度の関連性は高く、F S C森林認証の認知度を高めていくことが必要である。

【年代別】

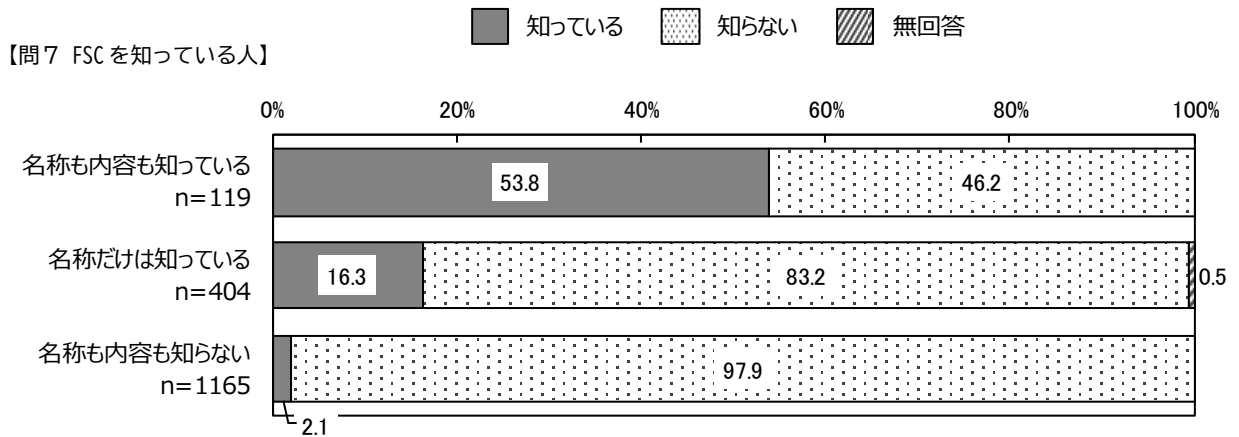


【行政区別】



【問7と問8の設問間クロス集計】

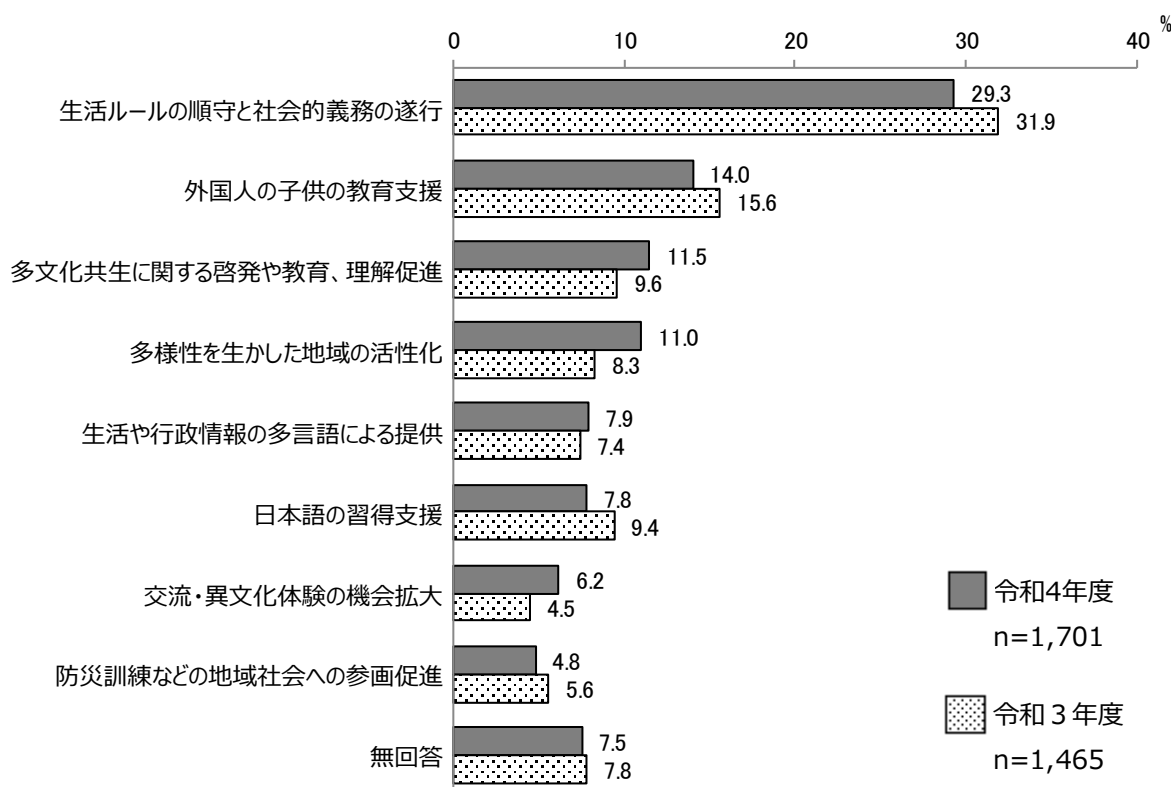
【問8 浜松市が市町村別で最も広いFSC森林認証面積を有していることを知っている人】



## 2-4 多文化共生について

問9 あなたは、浜松市が行っている多文化共生の取り組みのうち、最も力を入れるべき取り組みはどれだと考えますか。(1つだけ○を付けてください)

最も力を入れるべき取り組みは「生活ルールの順守と社会的義務の遂行」が29.3%



- 「生活ルールの順守と社会的義務の遂行」が29.3%と最も高く、次いで「外国人の子供の教育支援」が14.0%、「多文化共生に関する啓発や教育、理解促進」が11.5%となった。
- 年代別で見ると、すべての年代で「生活ルールの順守と社会的義務の遂行」が最も高い。70歳以上では37.2%となった一方で、40歳代では21.6%となり、15.6ポイントの差がみられた。「外国人の子供の教育支援」と「多文化共生に関する啓発や教育、理解促進」はどの年代も1割以上となっており、年代に関係なく求められている取り組みであることがうかがえる。
- 居住形態別で見ると、すべての居住形態で「生活ルールの順守と社会的義務の遂行」が最も高い。なかでも社宅・寮は唯一5割を超え、全体と比較して25.2ポイント高い。

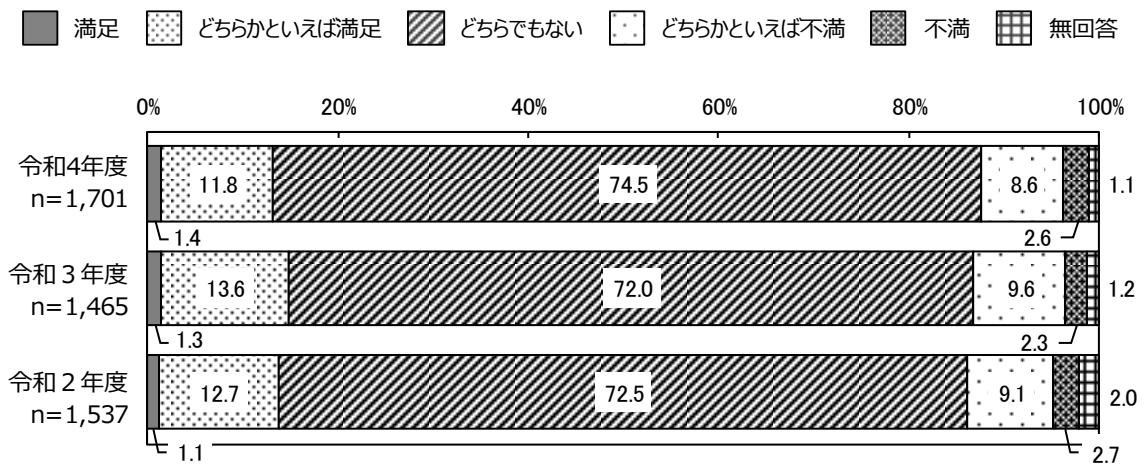
【年代別・居住形態別】

(単位：%)

		生活 ルールの 順守と社会的 義務の遂行	外国人の 子供の教育 支援	促進 多文化共生 に関する啓発 や教育、理解	多 様性を生かした 地域の活性化	生活や行政 情報の多言語 による提供	日本語の 習得支援	交流・異文化 体験の機会 拡大	防災訓練 などの地域 社会への参画 促進	無 回答
年代別	18歳～29歳 n=166	23.5	13.9	11.4	16.9	9.0	4.8	9.0	6.0	5.4
	30歳代 n=199	23.6	12.6	11.1	13.6	11.1	5.0	10.1	4.0	9.0
	40歳代 n=283	21.6	18.4	11.7	12.0	9.9	7.4	8.1	3.5	7.4
	50歳代 n=325	31.7	12.3	15.4	9.5	6.8	8.6	5.8	2.5	7.4
	60歳代 n=324	31.2	17.9	10.2	6.8	7.4	9.6	4.9	4.3	7.7
	70歳以上 n=390	37.2	10.3	10.0	10.3	5.9	8.5	3.1	7.7	7.2
	居住 形態別	持ち家（一戸建て） n=1297	30.5	14.2	10.9	10.5	8.0	8.3	5.9	4.5
持ち家（集合住宅） n=82		24.4	13.4	13.4	7.3	6.1	7.3	12.2	6.1	9.8
借家 n=38		31.6	7.9	13.2	13.2	10.5	7.9	5.3	5.3	5.3
賃貸アパート・賃貸マンション n=232		24.1	16.4	15.5	12.5	7.8	4.3	6.0	5.2	8.2
公営住宅 n=17		23.5	0.0	5.9	11.8	11.8	17.6	5.9	11.8	11.8
社宅・寮 n=11		54.5	9.1	0.0	27.3	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0
その他 n=6		16.7	16.7	0.0	16.7	16.7	16.7	0.0	0.0	16.7

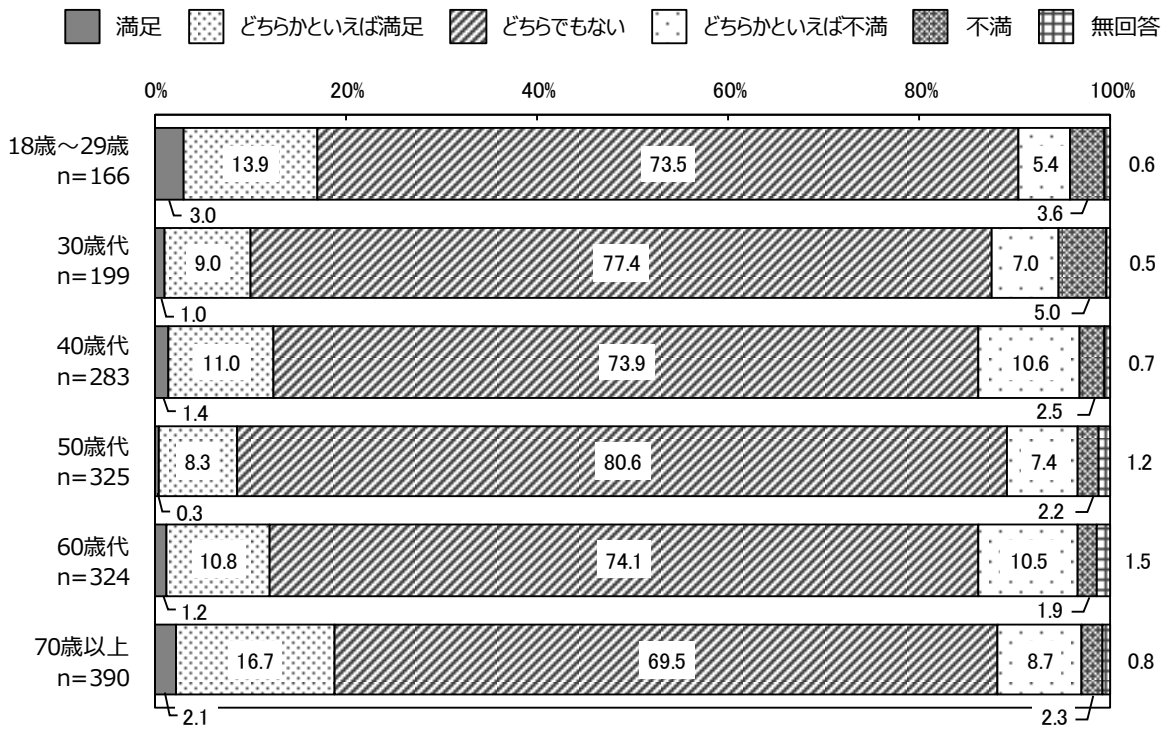
問10 外国人市民との相互理解や交流を深める共生社会づくりに向けた浜松市の取り組みについて、どのように感じていますか。(1つだけ○を付けてください)

外国人市民との共生社会づくりに向けた浜松市の取り組みに『満足している』人は13.2%

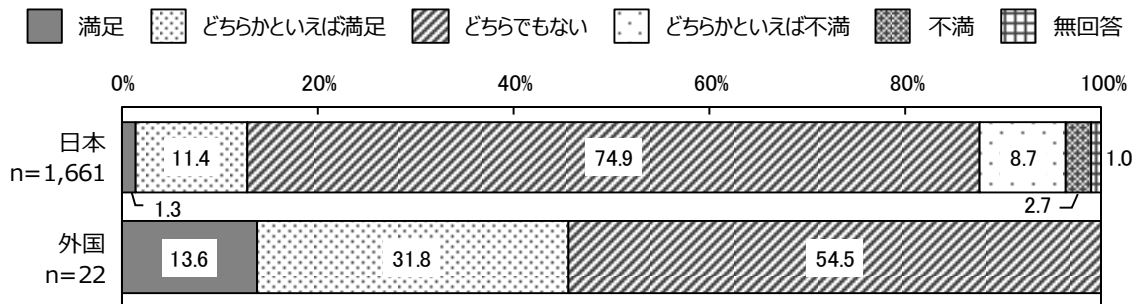


- 「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足している』は13.2%となった。「どちらかといえば不満」と「不満」を合わせた『不満である』は11.2%となり、『満足している』が『不満である』を2.0ポイント上回った。一方で「どちらでもない」は74.5%を占めた。令和3年度との比較では、大きな差はみられなかった。
- 年代別で見ると、『満足している』と回答した割合は70歳以上が18.8%と最も高く、次いで18歳～29歳の16.9%となった。また、70歳以上と18歳～29歳を除いた年代では、『不満である』が『満足している』を上回った。
- 国籍別で見ると、日本人以外の回答が少ないので留意が必要だが、『満足している』と回答した割合は、日本人が12.7%、外国人が45.4%となり、外国人からみた満足度は日本人と比べて高いことがうかがえる。

【年代別】

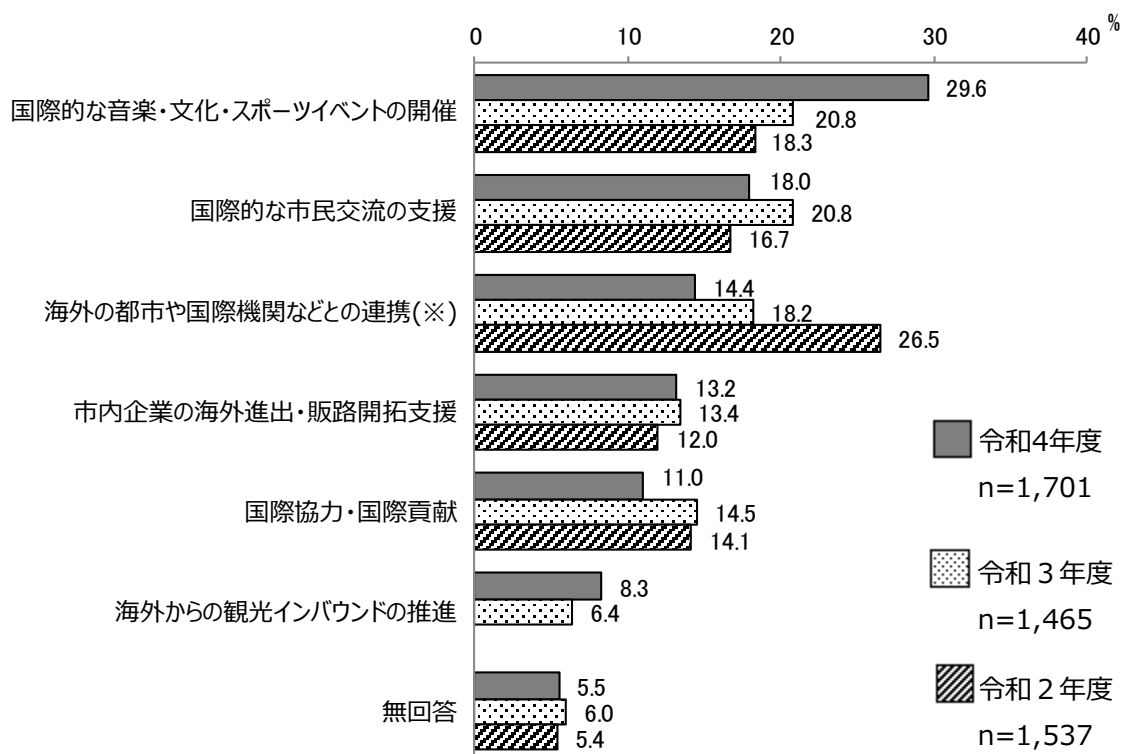


【国籍別】



問11 あなたは、浜松市が行っている国際化の取り組みのうち、最も力を入れるべきものはどれだと考えますか。(1つだけ○を付けてください)

最も力を入れるべき取り組みは、「国際的な音楽・文化・スポーツイベントの開催」が29.6%



※ 令和2年度調査では「国際的なネットワークへの参加など海外諸都市との連携」、令和3年度調査では「海外諸都市や国際機関等との連携」となっている。

- 「国際的な音楽・文化・スポーツイベントの開催」が29.6%と最も高く、次いで「国際的な市民交流の支援」が18.0%、「海外の都市や国際機関などとの連携」が14.4%となった。令和3年度との比較では、「国際的な音楽・文化・スポーツイベントの開催」は8.8ポイント増加となった。
- 前回と比較して「国際的な音楽・文化・スポーツイベントの開催」と「海外からの観光インバウンドの推進」は増加、他の項目は減少となった。新型コロナウイルス感染症の影響によるイベントの中止や、飲食店や宿泊施設におけるインバウンド需要の冷え込みから回復の兆しを受けて、回答の増加につながったのではないかと推測される。また、「海外諸都市や国際機関等との連携」については、新型コロナウイルス感染症の影響に加え、世界的な政情不安などから、取り組みの優先度が低減しているものと考えられる。



【年代別・職業別】

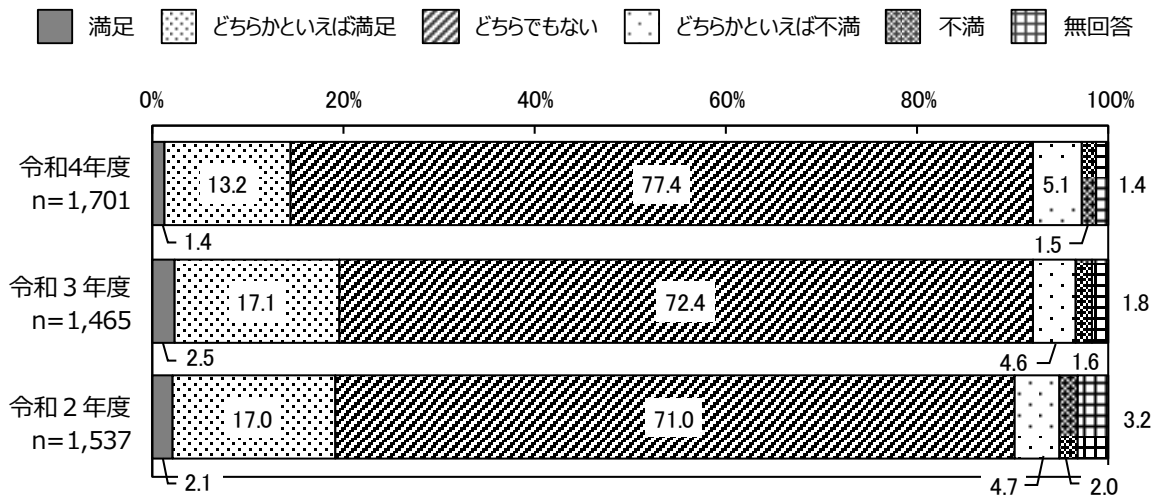
(単位：%)

		国際的な音楽・文化・スポーツイベントの開催	国際的な市民交流の支援	海外の都市や国際機関などとの連携	市内企業の海外進出・販路開拓支援	国際協力・国際貢献	海外からの観光インバウンドの推進	無回答
年代別	18歳～29歳 n=166	31.3	15.1	13.3	13.9	10.8	13.9	1.8
	30歳代 n=199	26.6	16.6	16.6	17.6	8.0	9.0	5.5
	40歳代 n=283	35.3	13.8	14.8	13.1	5.3	13.1	4.6
	50歳代 n=325	29.8	15.4	15.1	15.1	11.1	8.6	4.9
	60歳代 n=324	29.9	20.7	13.3	9.3	15.7	5.9	5.2
	70歳以上 n=390	26.2	23.3	14.1	12.1	12.6	4.1	7.7
	職業別	勤め人 n=887	31.5	15.9	14.7	14.1	10.4	9.8
商工・サービス・自由業 n=136		33.8	23.5	7.4	11.0	8.8	8.1	7.4
農林水産業 n=36		16.7	22.2	19.4	13.9	19.4	5.6	2.8
専業主婦・主夫 n=209		28.2	17.7	16.3	12.4	11.0	4.3	10.0
学生 n=44		31.8	11.4	18.2	15.9	9.1	13.6	0.0
無職 n=296		26.7	22.3	13.5	12.2	12.5	5.4	7.4
その他 n=74		20.3	23.0	18.9	9.5	13.5	12.2	2.7

- 年代別で見ると、すべての年代で「国際的な音楽・文化・スポーツイベントの開催」が最も高く、18歳～29歳と40歳代では3割を超えた。
- 職業別で見ると、農林水産業以外の職業では「国際的な音楽・文化・スポーツイベントの開催」が最も高く、農林水産業では「国際的な市民交流の支援」が最も高い。また、農林水産業では「国際協力・国際貢献」が19.4%と、他の職業と比較して高い。

問 12 姉妹都市や友好都市などの世界の人々との活発な市民交流に向けた浜松市の取り組みについて、どのように感じていますか。(1つだけ○を付けてください)

世界の人々との活発な市民交流に向けた浜松市の取り組みに『満足している』人は 14.6%



- 「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足している』は 14.6% となった。「どちらかといえば不満」と「不満」を合わせた『不満である』は 6.6% となり、『満足している』が『不満である』を 8.0 ポイント上回った。一方で、「どちらでもない」は 77.4% を占めた。令和3年度との比較では、『満足している』は 5.0 ポイント減少となった。
- 年代別でみると、『満足している』と回答した割合は 70 歳以上の 20.0% が最も高く、次いで 18 歳～29 歳の 19.9% となった。30 歳代以外の年代で『満足している』が『不満である』を上回った。
- 職業別でみると、『満足している』と回答した割合は学生の 25.0% が最も高く、次いで無職の 18.9% となった。商工・サービス・自由業が 9.5% と最も低くなり、最も高い学生とは、15.5 ポイントの差がみられた。

【年代別・職業別】

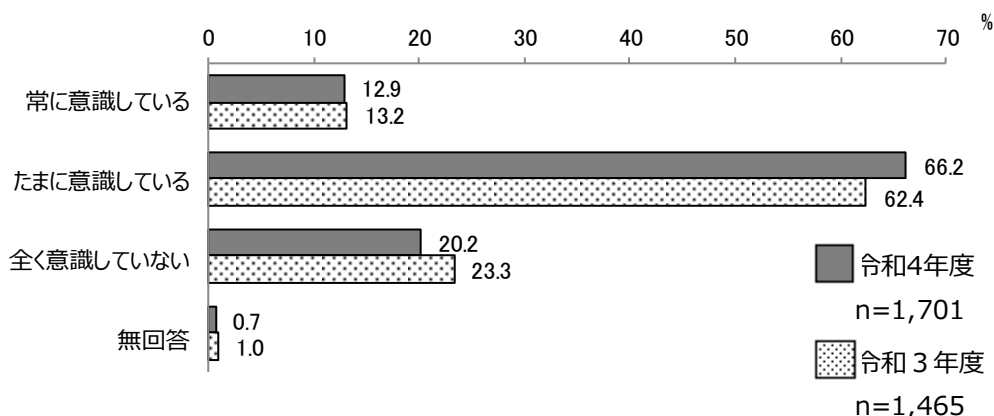
(単位：%)

		満足	どちらかといえ ば満足	どちらでも ない	どちらかといえ ば不満	不満	無 回 答
年代別	18歳～29歳 n=166	4.2	15.7	71.7	4.2	3.0	1.2
	30歳代 n=199	1.5	7.5	78.9	8.5	3.0	0.5
	40歳代 n=283	1.8	13.8	77.4	4.9	1.1	1.1
	50歳代 n=325	0.3	9.2	82.2	4.9	1.2	2.2
	60歳代 n=324	0.9	12.0	80.2	4.9	0.6	1.2
	70歳以上 n=390	1.3	18.7	73.1	4.4	1.3	1.3
	職業別	勤め人 n=887	1.1	11.8	78.7	5.5	1.6
商工・サービス・自由業 n=136		0.7	8.8	80.9	5.1	3.7	0.7
農林水産業 n=36		0.0	13.9	72.2	11.1	2.8	0.0
専業主婦・主夫 n=209		1.4	15.8	76.6	3.8	0.0	2.4
学生 n=44		6.8	18.2	65.9	6.8	2.3	0.0
無職 n=296		1.7	17.2	74.0	4.1	1.4	1.7
その他 n=74		2.7	10.8	82.4	4.1	0.0	0.0

## 2-5 消費生活について

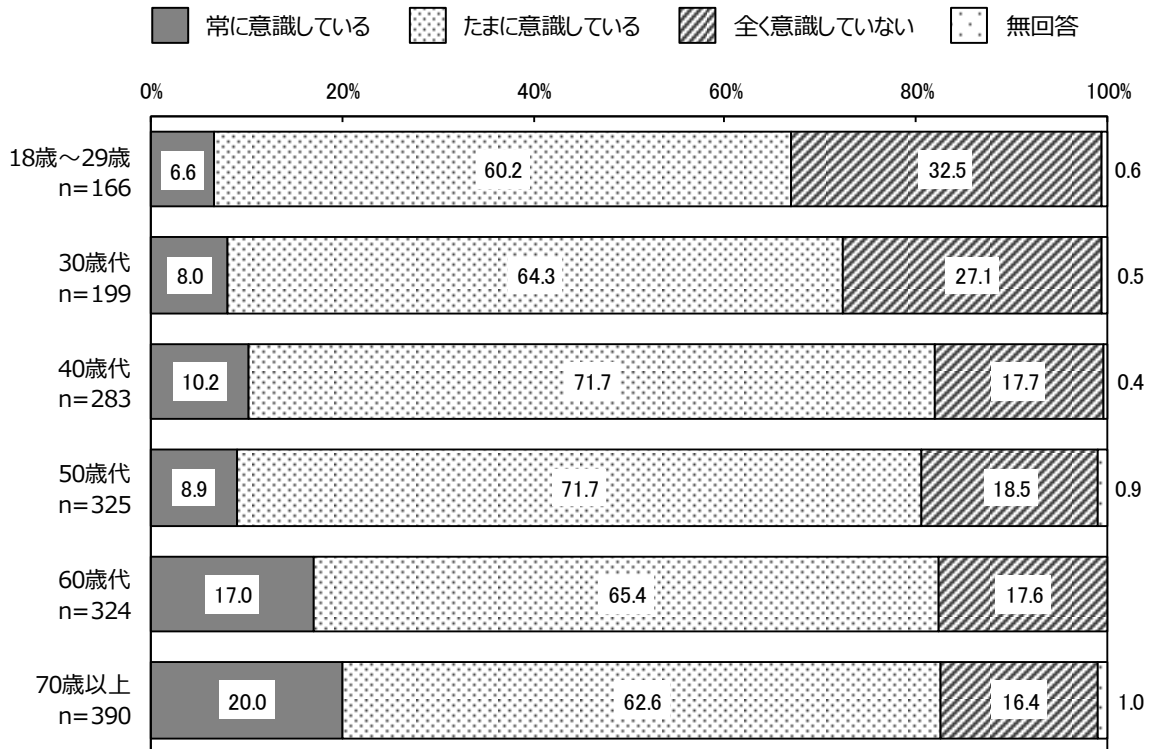
問13 あなたは買い物をするとき、人や社会、地域、環境に配慮した製品やサービスを選んで  
いますか。(1つだけ○を付けてください)

人や社会、地域、環境に配慮した製品やサービスを『意識している』人は79.1%

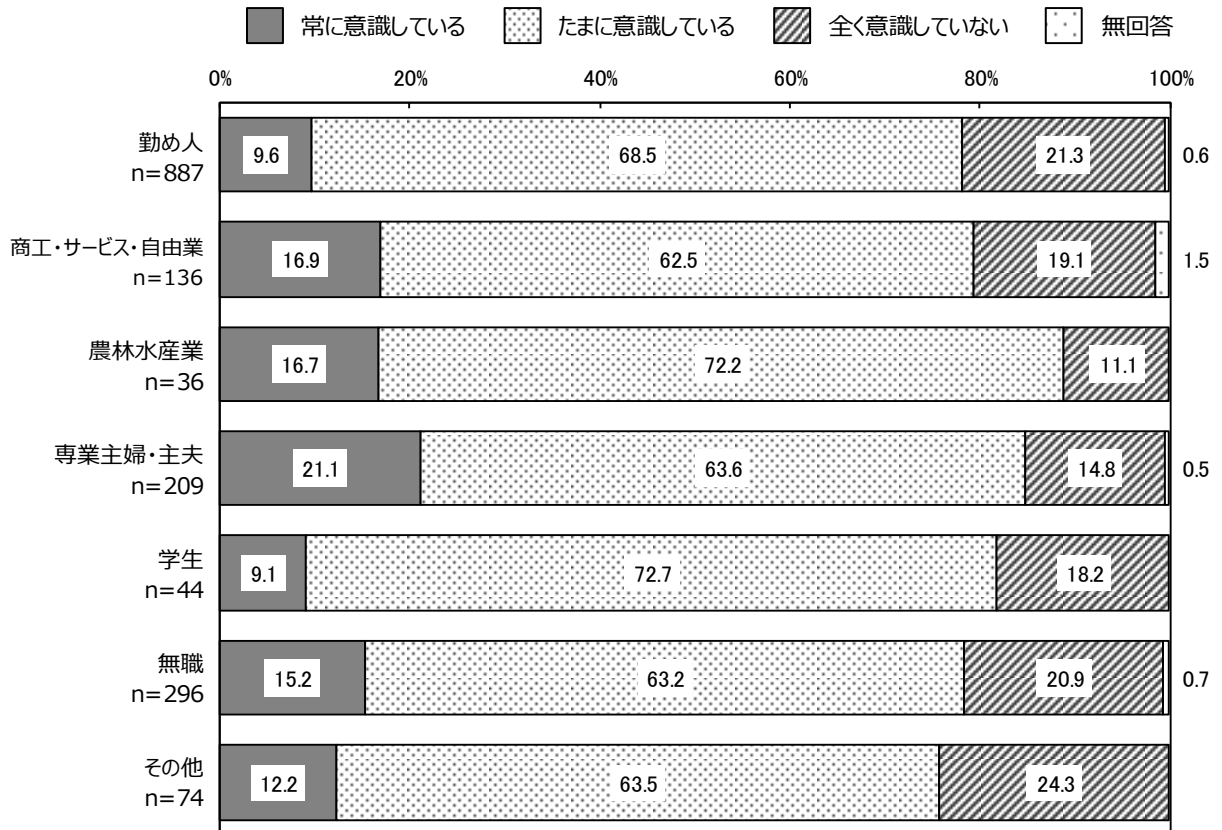


- 「常に意識している」と「たまに意識している」を合わせた『意識している』は79.1%となり、「全く意識していない」の20.2%を58.9ポイント上回った。
- 年代別で見ると、『意識している』は70歳以上の82.6%が最も高く、次いで60歳代の82.4%となった。「全く意識していない」と回答した割合は18歳~29歳の32.5%が最も高く、唯一3割を超えた。
- 職業別で見ると、『意識している』は農林水産業の88.9%が最も高く、次いで専業主婦・主夫の84.7%となった。「全く意識していない」と回答した割合はその他の24.3%が最も高い。
- 前回と比較すると、「常に意識している」層は変化が見られないものの、「たまに意識している」を合わせた『意識している』は3.5ポイント増加となった。問14のエシカル消費の『認知度』も0.8ポイント増となり、少しずつではあるが理解が進んでいることがうかがえる。

【年代別】

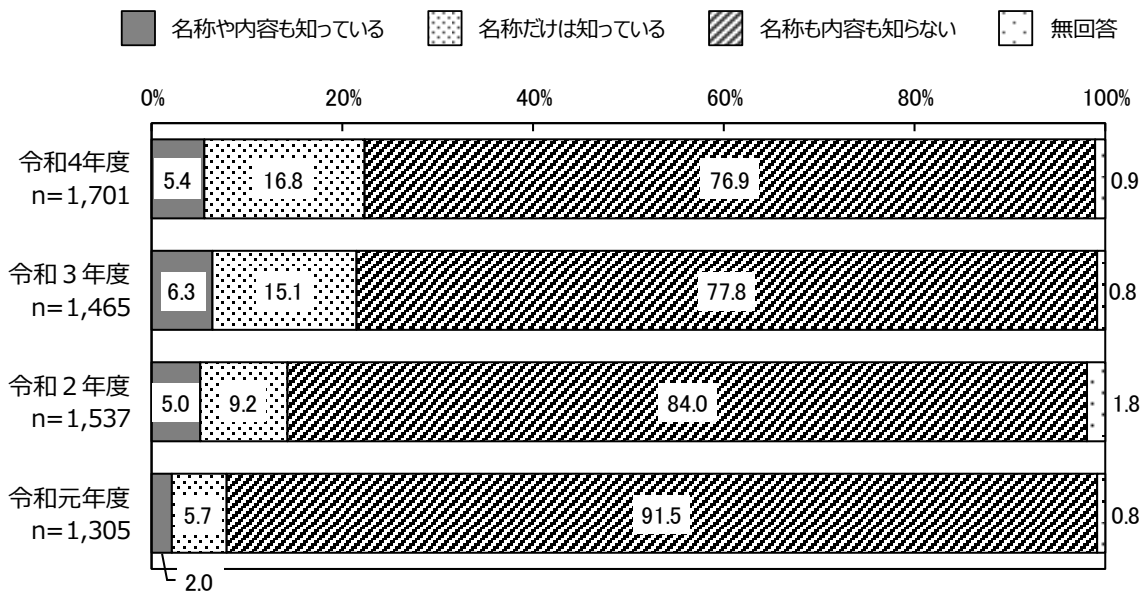


【職業別】



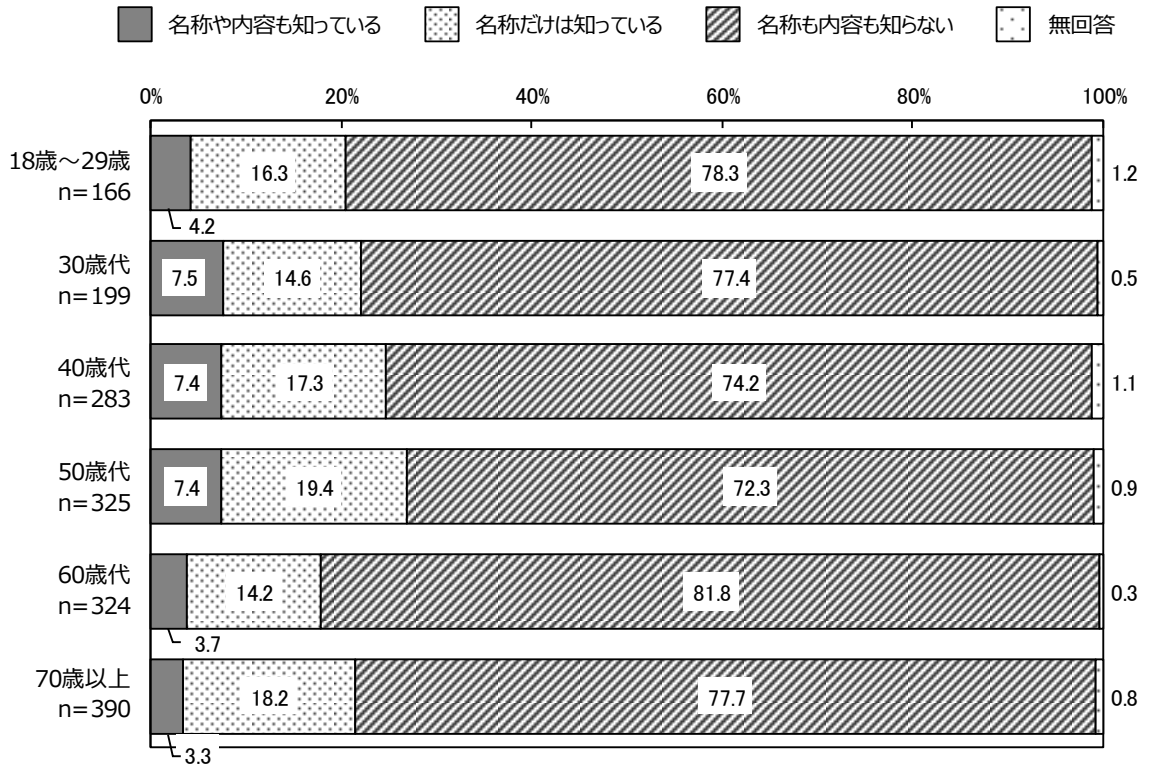
問14 問13のことを「エシカル消費」といいますが、あなたをご存じですか。  
 (1つだけ○を付けてください)

「エシカル消費」を『知っている』人は22.2%

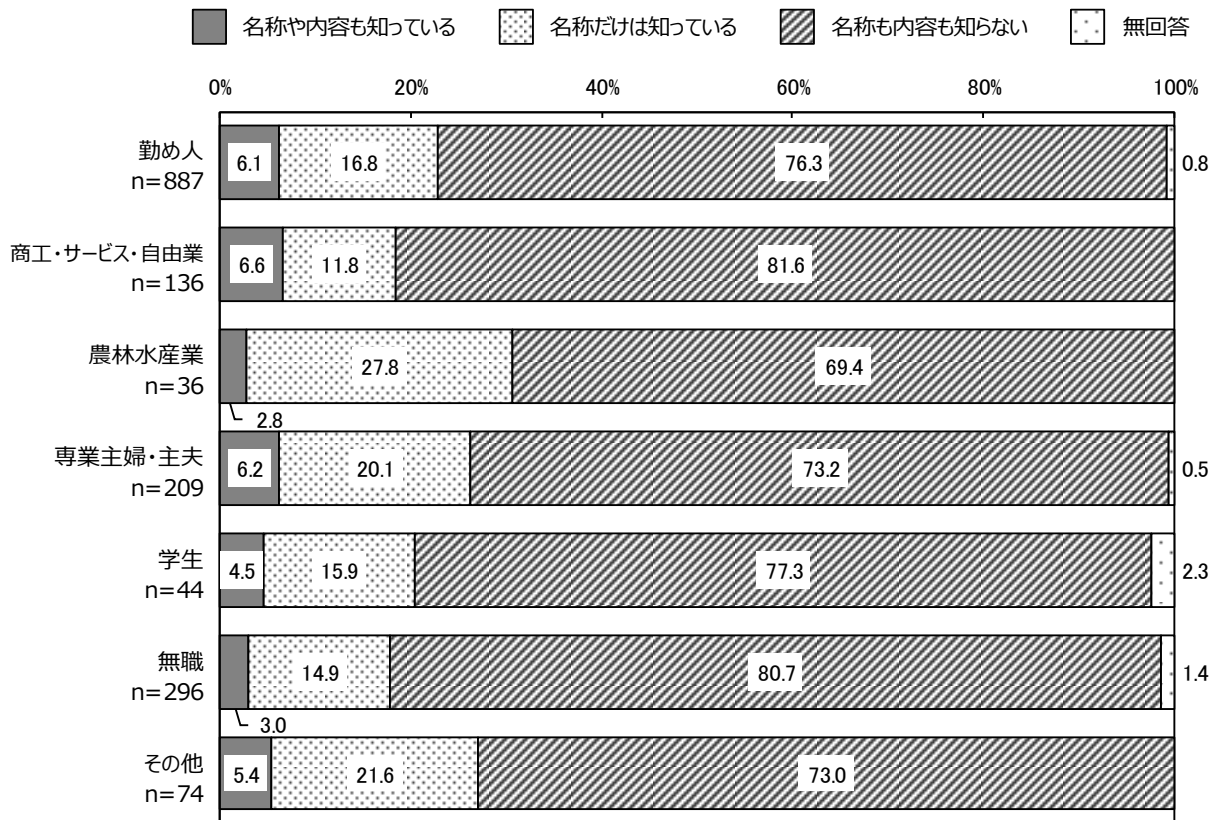


- 「名称や内容も知っている」が5.4%、「名称だけは知っている」が16.8%、「名称も内容も知らない」が76.9%となった。「名称や内容も知っている」と「名称だけは知っている」を合わせた『知っている』は22.2%となった。令和3年度との比較では、『知っている』は0.8ポイント増加となった。
- 年代別で見ると、『知っている』は50歳代の26.8%が最も高く、次いで40歳代の24.7%となった。「名称も内容も知らない」と回答した割合は60歳代で81.8%と唯一8割を超えた。
- 職業別で見ると、『知っている』は農林水産業の30.6%が最も高く、次いで専業主婦・主夫の26.3%となった。「名称も内容も知らない」と回答した割合は商工・サービス・自由業、無職で8割を超えた。

【年代別】



【職業別】

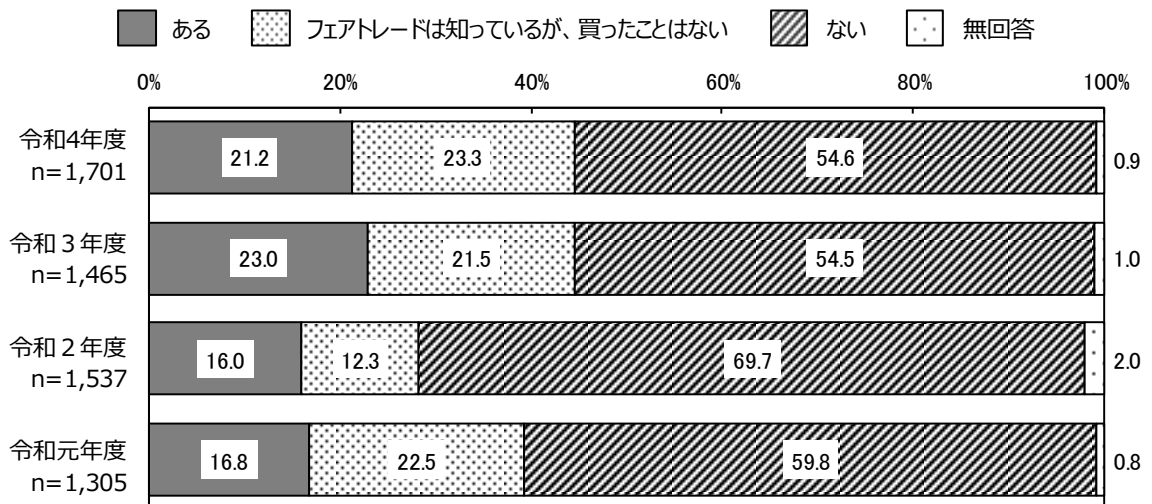


問15 あなたは、フェアトレード※商品を買ったことがありますか。

(1つだけ○を付けてください)

※ フェアトレードとは、開発途上国で作られた作物や製品を「適正な価格」で「継続的に取り引き」する「貿易のしくみ」により、立場の弱い小規模生産者や労働者の生活改善と自立を目指す取り組みです。

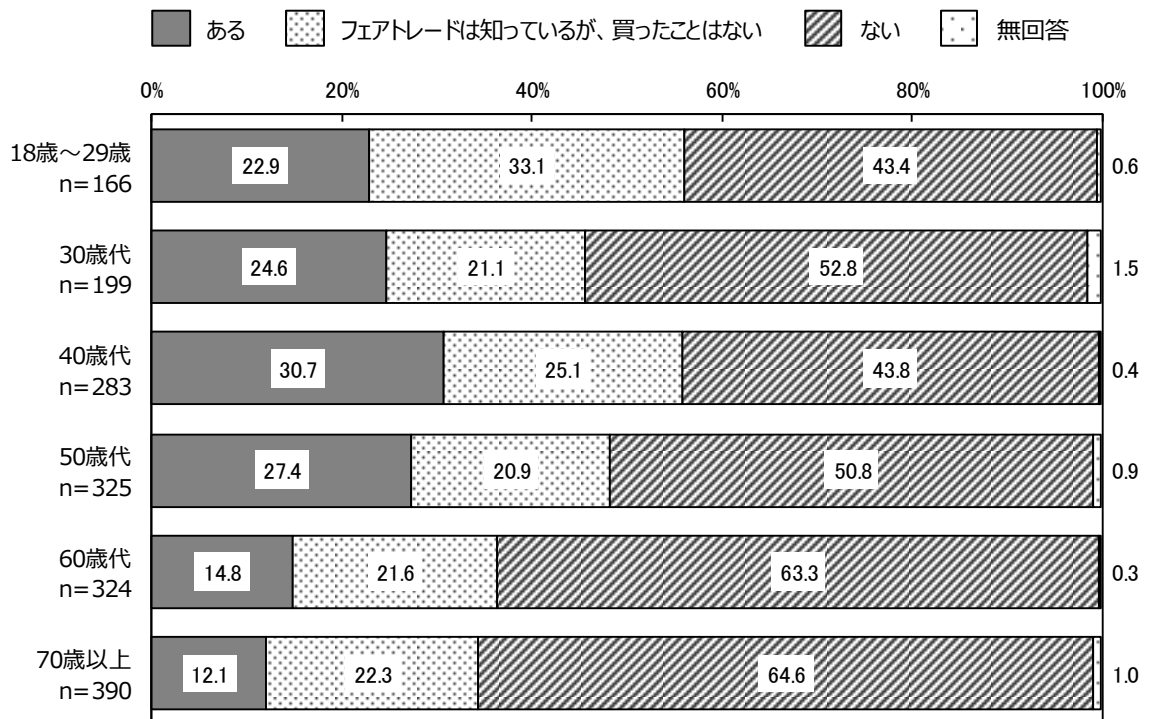
フェアトレード商品を買ったことが「ある」人は21.2%



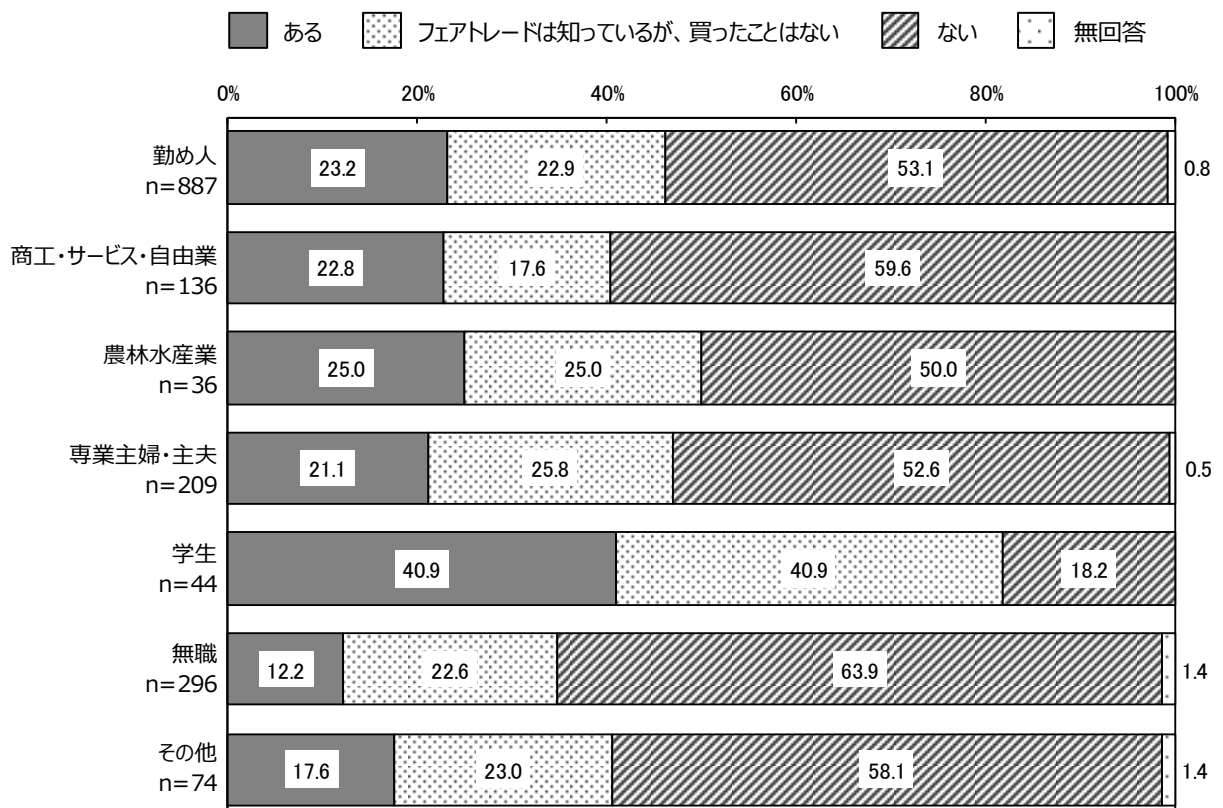
- 買ったことが「ある」が21.2%、「フェアトレードは知っているが、買ったことはない」が23.3%であり、この2項目を合わせたフェアトレードについての『認知度』は44.5%となった。一方で、買ったことが「ない」は54.6%と5割を超えた。令和3年度との比較では、大きな差はみられなかった。
- 年代別で見ると、『認知度』は18歳~29歳の56.0%が最も高く、次いで40歳代の55.8%となった。他の年代は5割未満となった。「ない」と回答した割合は70歳以上の64.6%が最も高い。
- 職業別で見ると、『認知度』は学生の81.8%が突出して高く、次いで農林水産業の50.0%となった。「ない」と回答した割合は学生を除いた職業で5割を超えた。
- 問14の「エシカル消費」の認知度の低さもあり、8割弱で購入経験がないという回答となった。認知度は60歳代以上や、無職といった属性で4割を下回り、特に低くなっている。



### 【年代別】



### 【職業別】

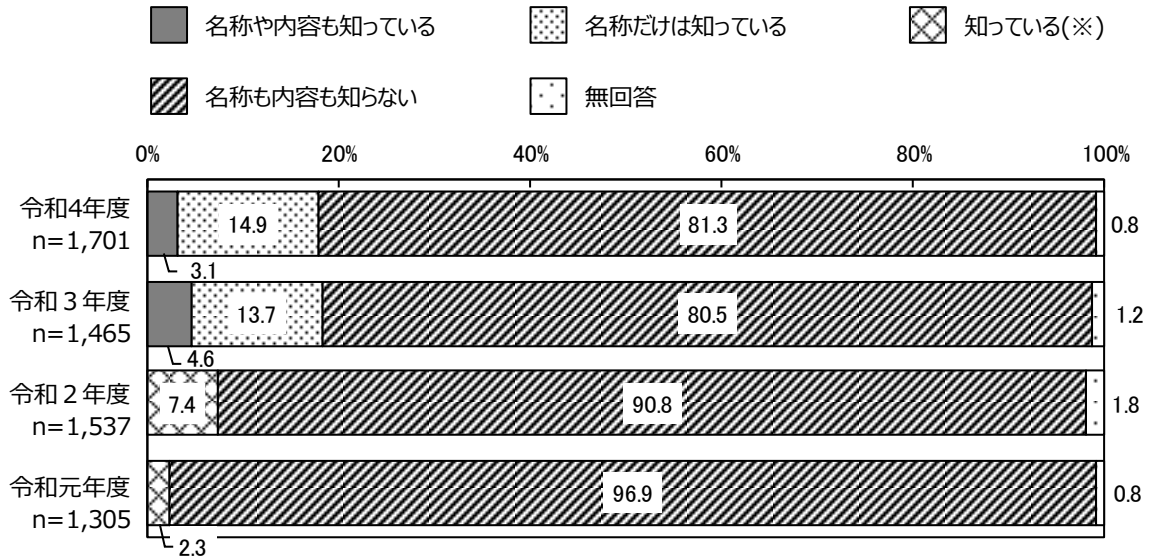


問 16 浜松市がフェアトレードタウン<sup>※</sup>であることをご存じですか。

(1つだけ○を付けてください)

※ フェアトレードタウンとは、市民団体や商店・企業・行政などが連携し、「まちぐるみ」でフェアトレードの輪を広げていく自治体のことです。

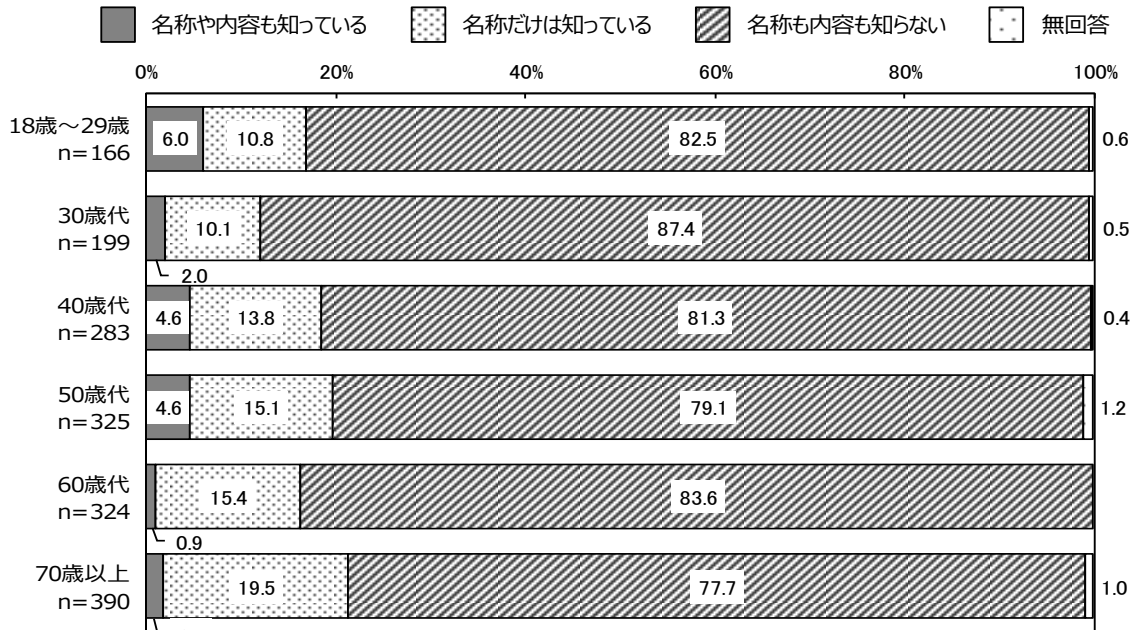
浜松市がフェアトレードタウンであることを『知っている』人は18.0%



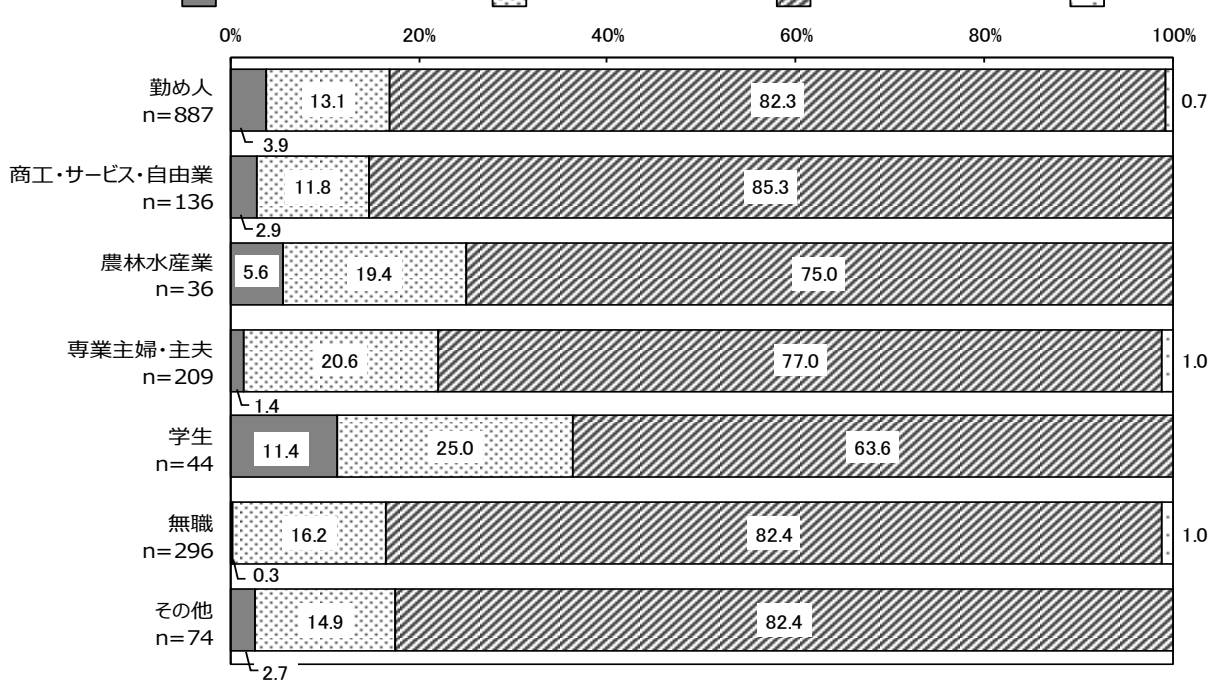
※ 令和2年度調査、令和元年度調査では、「知っている」に集約されている。

- 「名称や内容も知っている」と「名称だけは知っている」を合わせた『知っている』は18.0%となり、「名称も内容も知らない」の81.3%を大きく下回った。令和3年度との比較では、大きな差はみられなかった。
- 年代別で見ると、『知っている』は70歳以上の21.3%が最も高く、次いで50歳代の19.7%となった。「名称も内容も知らない」と回答した割合はすべての年代で7割を超え、30歳代の87.4%が最も高い。
- 職業別で見ると、『知っている』は学生の36.4%が最も高く、次いで農林水産業の25.0%となった。「名称も内容も知らない」と回答した割合はすべての職業で6割を超え、商工・サービス・自由業の85.3%が最も高い。
- 令和元年度以降、増加傾向だった認知度に歯止めがかかり、問14の「エシカル消費」の認知度と同様に、浜松市がフェアトレードタウンである認知度も全体で約2割と低くなっている。

【年代別】

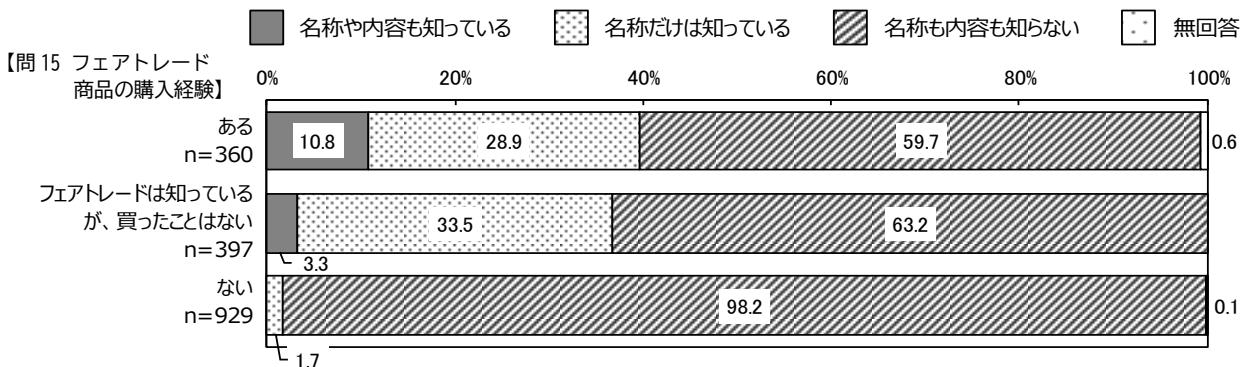


【職業別】



【問 15 と問 16 の設問間クロス集計】

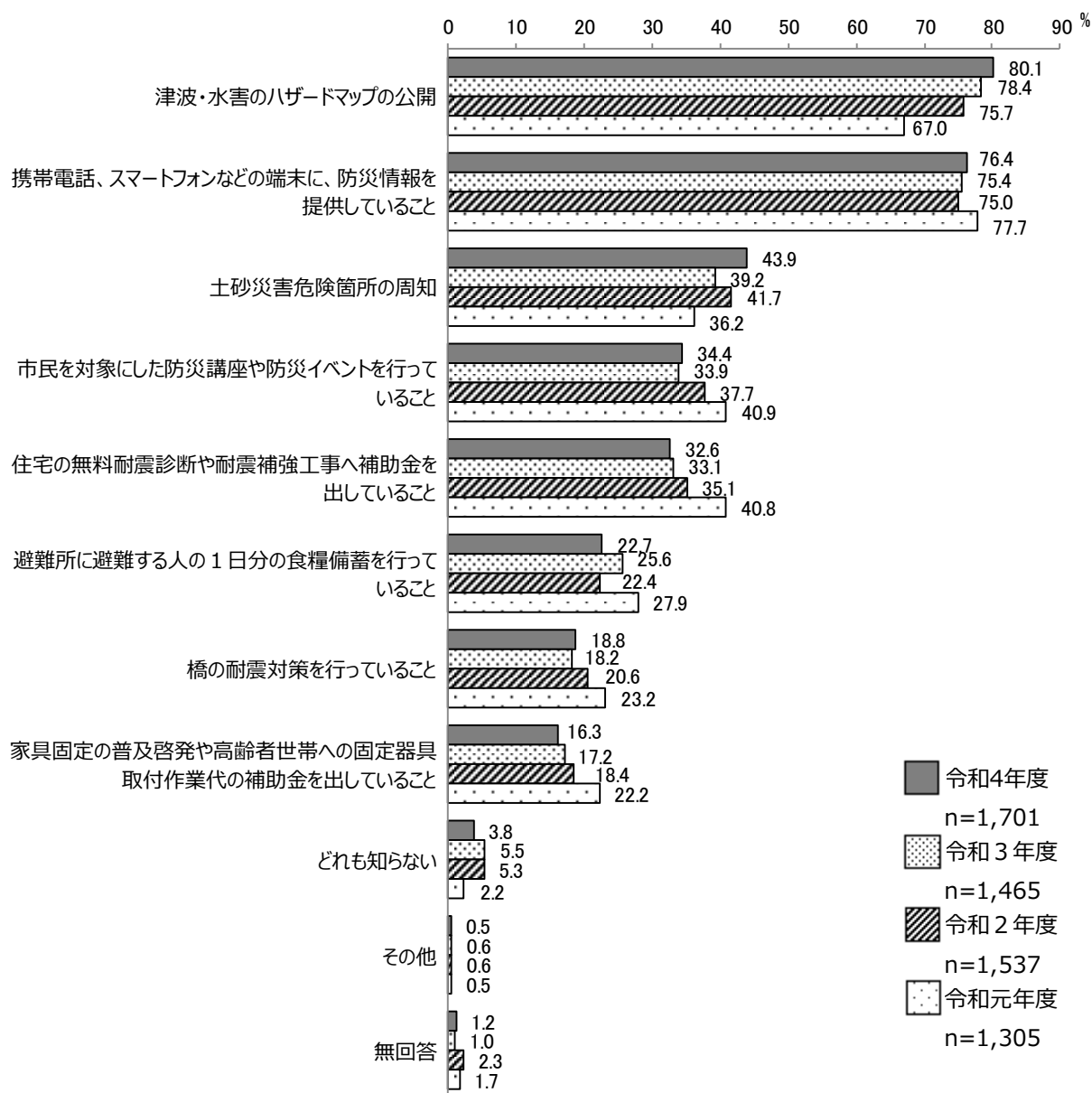
【問 16 浜松市がフェアトレードタウンであることを知っている人】



## 2-6 防災対策について

問17 浜松市が行っている防災対策のうち、あなたご存じのものをお選びください。  
(あてはまるものすべてに○を付けてください)

知っている防災対策は「津波・水害のハザードマップの公開」が80.1%



- 「津波・水害のハザードマップの公開」が80.1%と最も高く、次いで「携帯電話、スマートフォンなどの端末に、防災情報を提供していること」が76.4%となった。それ以外の項目については、5割を下回る回答結果となった。「どれも知らない」は3.8%と非常に低く、市民の防災対策への意識は比較的高いといえる。令和3年度との比較では、最も差がみられたのは「土砂災害危険箇所の周知」が4.7ポイント増加となった。

- 年代別でみると、60歳代以下では「津波・水害のハザードマップの公開」が最も高く、70歳以上では「携帯電話、スマートフォンなどの端末に、防災情報を提供していること」が最も高い。また、70歳以上では「避難所に避難する人の1日分の食糧備蓄を行っていること」が37.7%と高い。「住宅の無料耐震診断や耐震補強工事へ補助金を出していること」は年齢が高いほど回答した割合も高い傾向がみられ、60歳代以上では4割台となった。
- 行政区別でみると、北区と天竜区以外の行政区では「津波・水害のハザードマップの公開」が最も高く、北区と天竜区では「携帯電話、スマートフォンなどの端末に、防災情報を提供していること」が最も高い。また、天竜区では「土砂災害危険箇所の周知」と「橋の耐震対策を行っていること」が、全体と比較して10ポイント以上高い。
- 災害の危険を身近に感じ緊急時に備えることが、防災対策への関心にもつながる。

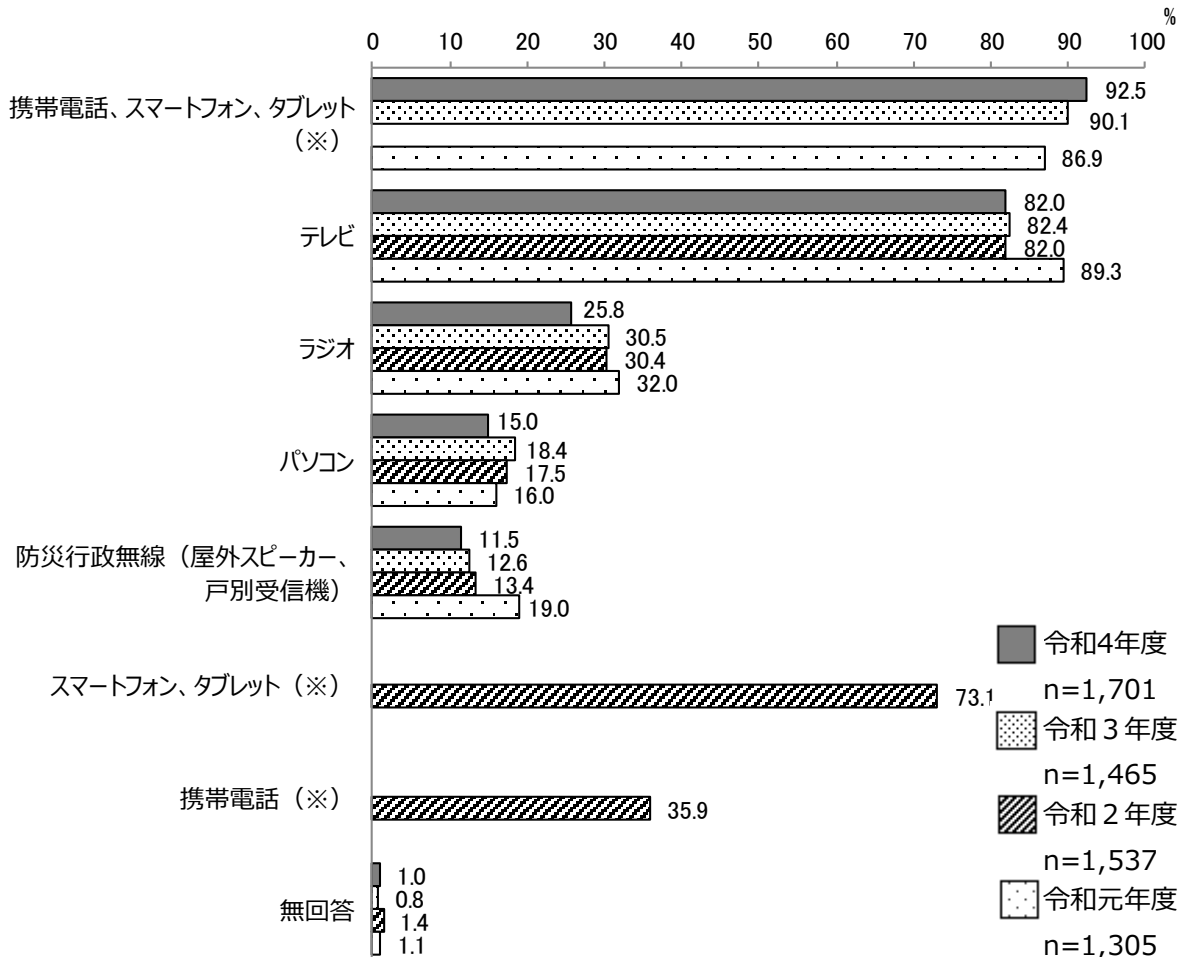
【年代別・行政区別】

(単位：%)

		津波・水害のハザードマップの公開	に携帯電話、防災情報をスマートフォンなどの端末	土砂災害危険箇所の周知	市民を対象にした防災講座や防災イベントを行っていること	住宅の無料耐震診断や耐震補強工事へ補助金を出していること	避難所に避難する人の1日分の食糧備蓄を行っていること	橋の耐震対策を行っていること	固定器具の取付作業代の補助金を出していること	家具固定の普及啓発や高齢者世帯への補助金を出していること	どれも知らない	その他	無回答
年代別	18歳～29歳 n=166	81.3	69.3	31.3	36.7	7.2	18.1	11.4	2.4	6.6	0.6	0.6	
	30歳代 n=199	84.4	71.9	41.7	27.1	20.1	15.1	19.6	10.1	6.0	0.0	0.0	
	40歳代 n=283	86.2	78.8	50.2	29.7	27.6	16.3	20.8	16.3	4.2	0.7	0.4	
	50歳代 n=325	85.5	78.8	48.0	32.0	29.5	16.6	14.8	14.5	3.1	0.0	0.3	
	60歳代 n=324	79.6	78.1	45.4	32.4	42.9	23.5	17.6	19.4	2.8	0.6	1.5	
	70歳以上 n=390	69.5	77.4	41.0	44.1	47.4	37.7	24.4	24.6	2.6	0.8	2.6	
	行政区別	中区 n=515	78.6	76.9	44.3	34.0	33.0	23.9	15.1	17.3	4.3	0.4	1.9
東区 n=271		86.3	75.6	38.0	33.6	33.6	21.0	19.6	16.2	3.3	0.4	0.0	
西区 n=212		80.2	78.3	47.6	36.3	33.5	21.7	20.3	11.8	4.7	0.5	0.9	
南区 n=216		88.0	79.6	35.2	31.5	32.9	21.8	19.0	17.1	2.3	0.5	0.5	
北区 n=201		70.6	77.6	49.8	34.8	32.3	24.4	22.4	16.4	4.0	0.5	1.0	
浜北区 n=205		82.9	71.2	42.9	38.5	29.3	24.4	18.0	16.1	2.9	1.0	1.0	
天竜区 n=66		65.2	74.2	66.7	31.8	34.8	18.2	30.3	24.2	6.1	0.0	1.5	

問 18 あなたが災害情報などの危機管理に関する情報を得る手段を教えてください。  
 (あてはまるものすべてに○を付けてください)

災害情報を得る手段として「携帯電話、スマートフォン、タブレット」は 92.5%、「テレビ」は 82.0%



※ 令和2年度の調査では、「携帯電話、スマートフォン、タブレット」の選択肢ではなく、「スマートフォン、タブレット」と「携帯電話」とわかれた選択肢となっている。

- 「携帯電話、スマートフォン、タブレット」が 92.5%と最も高く、次いで「テレビ」が 82.0%となった。それ以外の項目は3割以下となった。令和3年度との比較では、「ラジオ」は 4.7ポイント減少、「パソコン」は 3.4ポイント減少となった。
- 年代別でみると、60歳代以下では「携帯電話、スマートフォン、タブレット」が最も高く、70歳以上では「テレビ」が最も高い。また、70歳以上では「ラジオ」や「防災行政無線 (屋外スピーカー、戸別受信機)」も他の年代と比較して高く、その反面「携帯電話、スマートフォン、タブレット」はやや低い。
- 行政区別でみると、すべての行政区で「携帯電話、スマートフォン、タブレット」が最も高く、天竜区では同率で「テレビ」も高い。また、浜北区、天竜区では「防災行政無線 (屋外スピーカー、戸別受信機)」が全体と比較して 10ポイント以上高い。

【年代別・行政区別】

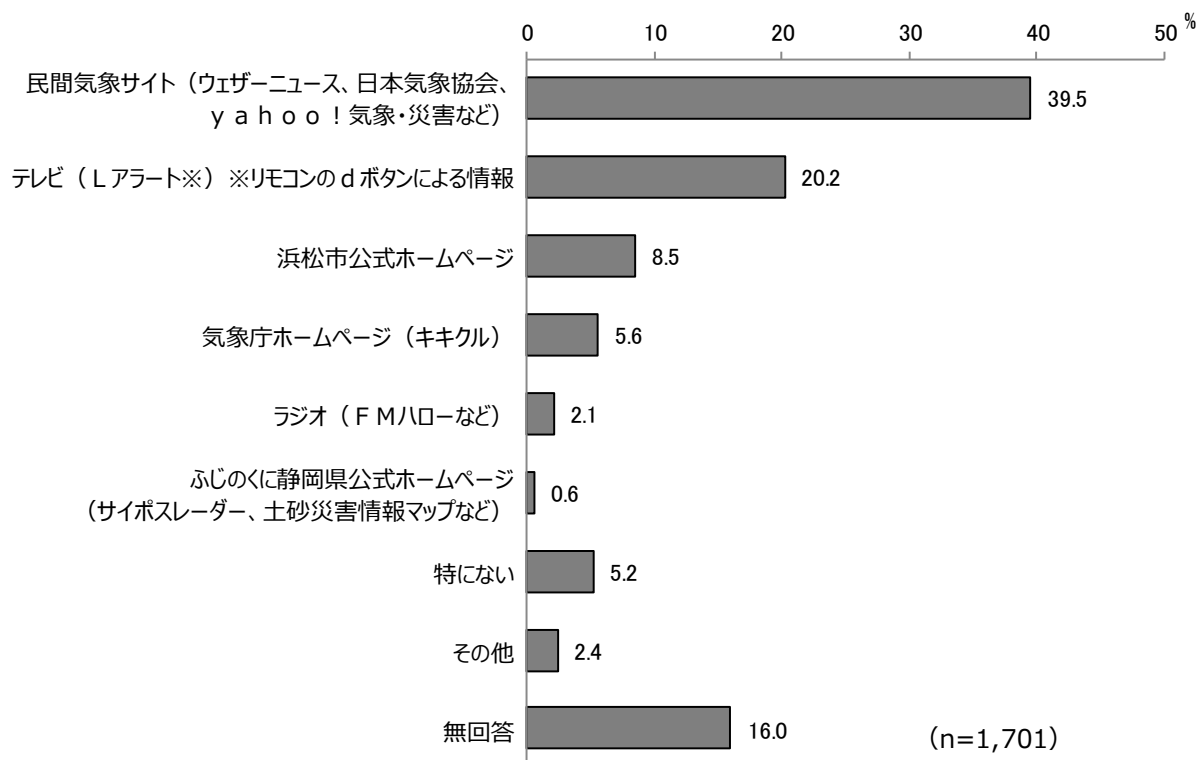
(単位：%)

		携帯電話、スマートフォン、タブレット	テレビ	ラジオ	パソコン	防災行政無線（屋外スピーカ―、戸別受信機）	無回答	
年代別	18歳～29歳 n=166	98.8	76.5	15.7	16.3	9.0	0.6	
	30歳代 n=199	99.0	73.9	17.6	18.1	8.0	0.0	
	40歳代 n=283	97.5	76.0	18.4	15.2	8.5	0.7	
	50歳代 n=325	96.3	82.2	25.5	19.1	9.8	0.3	
	60歳代 n=324	93.2	82.4	29.9	14.5	11.1	1.2	
	70歳以上 n=390	79.7	92.1	36.7	10.3	18.5	1.8	
	行政区別	中区 n=515	92.6	80.6	23.7	18.1	4.5	1.4
		東区 n=271	94.5	83.8	24.0	11.1	1.5	0.0
西区 n=212		92.5	83.5	25.0	19.3	12.7	0.9	
南区 n=216		94.9	81.0	32.4	13.0	9.3	0.5	
北区 n=201		88.1	81.6	25.4	13.9	20.4	1.0	
浜北区 n=205		93.2	80.0	28.3	13.7	24.4	1.5	
天竜区 n=66		90.9	90.9	27.3	10.6	45.5	0.0	

問19 あなたの災害情報などの主な取得先はどれですか。

(1つだけ○を付けてください)

災害情報などの主な取得先として「民間気象サイト（ウェザーニュース、日本気象協会、y a h o o ! 気象・災害など）」は39.5%



- 「民間気象サイト(ウェザーニュース、日本気象協会、y a h o o ! 気象・災害など)」が39.5%と最も高く、次いで「テレビ(Lアラート※) ※リモコンのdボタンによる情報」が20.2%となった。それ以外の項目については、1割を下回る回答結果となった。
- 年代別で見ると、60歳代以下では「民間気象サイト(ウェザーニュース、日本気象協会、y a h o o ! 気象・災害など)」が最も高く、70歳以上では「テレビ(Lアラート※) ※リモコンのdボタンによる情報」が最も高い。また、70歳以上では「民間気象サイト(ウェザーニュース、日本気象協会、y a h o o ! 気象・災害など)」が全体と比較して19.5ポイント低い。
- 行政区別で見ると、天竜区以外の行政区で「民間気象サイト(ウェザーニュース、日本気象協会、y a h o o ! 気象・災害など)」が最も高く、天竜区では「テレビ(Lアラート※) ※リモコンのdボタンによる情報」が最も高い。また、天竜区では「民間気象サイト(ウェザーニュース、日本気象協会、y a h o o ! 気象・災害など)」が全体と比較して15.3ポイント低い。



【年代別・行政区別】

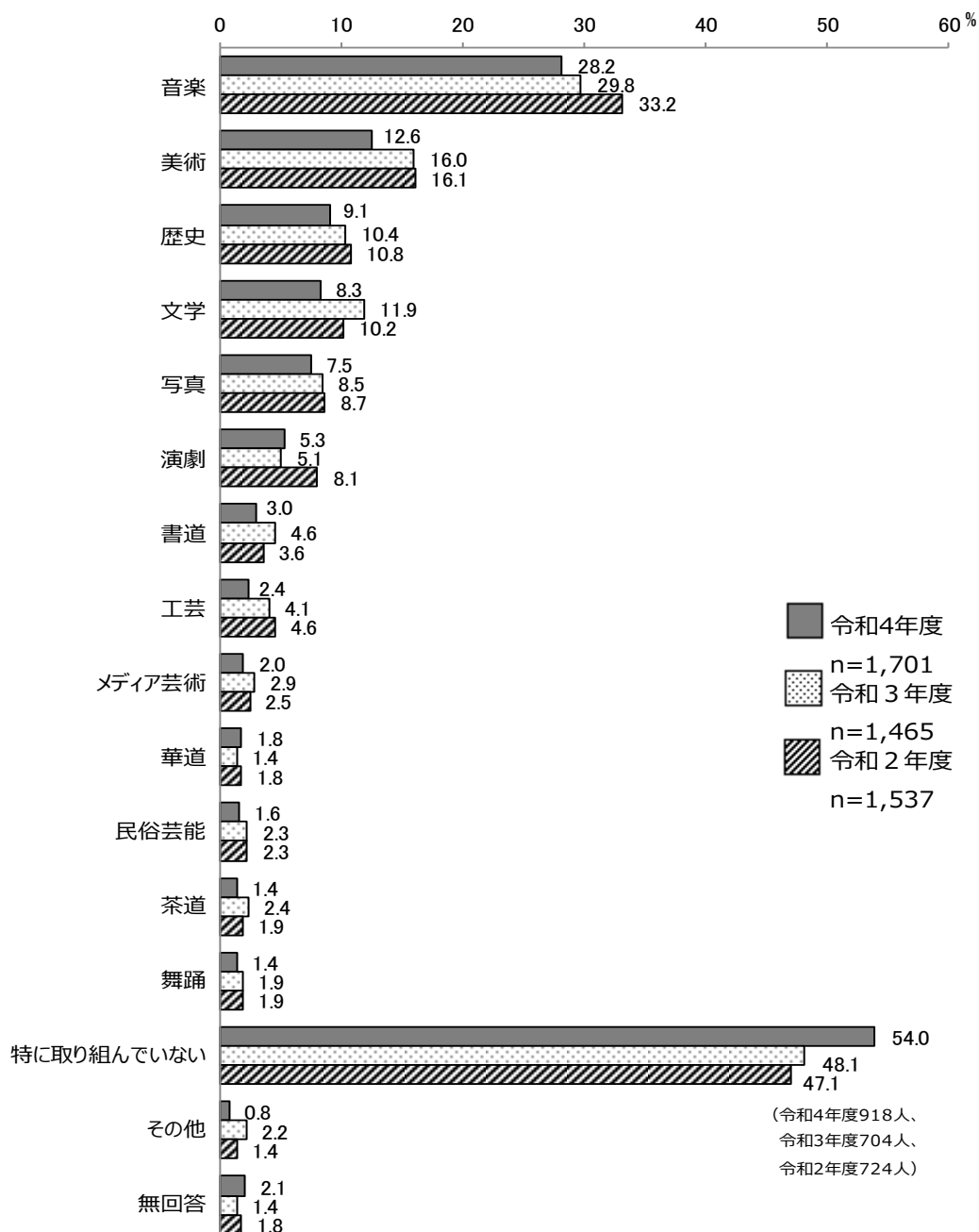
(単位：%)

		民間気象協会、Yahoo!気象・災害など)	テレビ（アラート※）※リモコンのdポタ	浜松市公式ホームページ	気象庁ホームページ（キキクル）	ラジオ（FMハローなど）	ふじのくに静岡県公式ホームページ（サイボスリーダー、土砂災害情報マップなど）	特にない	その他	無回答
年代別	18歳～29歳 n=166	45.8	12.7	9.0	4.8	1.2	0.6	6.0	5.4	14.5
	30歳代 n=199	46.2	14.6	7.5	7.5	0.0	0.5	5.0	6.5	12.1
	40歳代 n=283	48.4	10.6	9.9	5.7	1.8	1.1	5.3	2.1	15.2
	50歳代 n=325	51.1	14.8	9.5	5.5	1.2	0.9	4.3	1.8	10.8
	60歳代 n=324	36.7	21.0	7.4	5.9	2.8	0.3	3.7	1.2	21.0
	70歳以上 n=390	20.0	36.7	8.2	4.9	3.6	0.5	6.9	0.5	18.7
行政区	中区 n=515	42.3	16.5	8.3	6.0	2.1	0.6	3.7	2.7	17.7
	東区 n=271	37.3	24.4	10.7	5.2	1.8	0.4	4.8	0.4	15.1
	西区 n=212	37.7	23.1	5.7	6.6	2.4	0.5	8.5	3.3	12.3
	南区 n=216	41.7	14.8	9.7	6.0	1.9	1.4	6.0	2.3	16.2
	北区 n=201	45.3	20.9	7.5	4.0	1.0	0.5	4.5	2.0	14.4
	浜北区 n=205	34.6	22.9	8.3	5.9	2.0	1.0	4.4	3.4	17.6
	天竜区 n=66	24.2	28.8	10.6	4.5	4.5	0.0	10.6	3.0	13.6

## 2-7 文化振興について

問 20 あなたは、過去1年間にどのような文化芸術に取り組みましたか。鑑賞などサービスの受け手として楽しんだものを含みます。  
(あてはまるものすべてに○を付けてください)

過去1年間に取り組んだ文化芸術は「音楽」が28.2%



- 取り組んだ芸術は、「音楽」が28.2%と最も高く、次いで「美術」が12.6%、「歴史」が9.1%となった。一方で、「特に取り組んでいない」については54.0%と半数を超える回答結果となった。令和3年度との比較では、最も差がみられたのは「特に取り組んでいない」が5.9ポイント増加、次いで「文学」が3.6ポイント減少、「美術」が3.4ポイント減少となった。

- 年代別でみると、すべての年代で「音楽」が最も高い。他の文化芸術はいずれも2割以下となった。また、30歳代以上では「特に取り組んでいない」が5割を超えた。
- 職業別でみると、すべての職業で「音楽」が最も高い。特に学生では54.5%と突出して高い。また、勤め人、商工・サービス・自由業、無職、その他で「特に取り組んでいない」が5割を超えた。

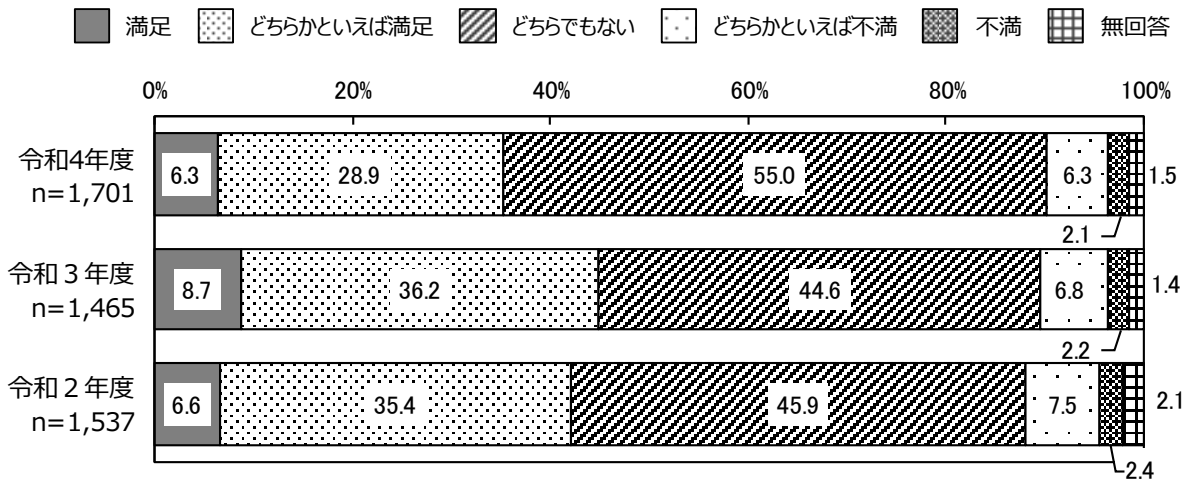
### 【年代別・職業別】

(単位：%)

		音楽	美術	歴史	文学	写真	演劇	書道	工芸	メディア芸術	華道	民俗芸能	茶道	舞踊	特に取り組んでいない	その他	無回答
年代別	18歳～29歳 n=166	44.0	14.5	4.2	10.2	10.2	7.8	2.4	1.8	4.2	0.0	1.2	1.2	1.2	44.6	0.0	0.6
	30歳代 n=199	33.2	10.1	8.5	10.1	12.6	4.0	3.5	2.0	4.0	0.5	0.5	1.0	0.5	52.8	0.5	0.0
	40歳代 n=283	30.7	13.8	11.3	10.2	7.1	6.7	3.2	3.2	2.1	1.8	1.4	2.8	1.4	52.7	0.0	0.7
	50歳代 n=325	28.9	13.2	7.1	7.1	6.2	4.3	1.5	0.9	0.9	1.2	1.5	0.9	1.2	55.4	1.5	0.9
	60歳代 n=324	21.9	10.8	10.8	8.6	6.5	4.9	3.1	3.1	2.5	4.0	2.2	1.2	0.9	54.6	1.2	3.4
	70歳以上 n=390	22.1	13.3	10.3	6.4	6.4	5.4	3.8	3.1	0.5	1.8	2.1	1.3	2.3	57.7	0.8	4.1
職業別	勤め人 n=887	29.5	10.8	8.9	7.1	7.1	5.1	2.5	1.6	1.9	1.2	1.1	1.5	0.7	56.0	0.3	0.7
	商工・サービス・自由業 n=136	25.7	15.4	11.8	7.4	8.8	7.4	2.9	2.9	1.5	1.5	2.9	2.2	4.4	54.4	1.5	2.2
	農林水産業 n=36	38.9	22.2	11.1	13.9	19.4	0.0	0.0	8.3	11.1	2.8	8.3	2.8	2.8	47.2	0.0	2.8
	専業主婦・主夫 n=209	31.6	17.7	9.6	12.4	9.1	7.7	4.8	4.3	2.9	6.2	1.0	0.5	2.9	44.5	1.4	3.3
	学生 n=44	54.5	20.5	4.5	18.2	13.6	6.8	4.5	2.3	6.8	0.0	4.5	2.3	0.0	27.3	0.0	0.0
	無職 n=296	19.3	11.1	9.8	7.8	5.7	4.1	2.4	1.7	0.7	0.7	2.0	1.0	0.7	59.8	1.0	5.1
	その他 n=74	21.6	12.2	4.1	9.5	5.4	5.4	6.8	6.8	0.0	1.4	0.0	2.7	2.7	52.7	2.7	1.4

問 21 あなたは音楽のまちづくりをはじめとする文化事業の浜松市の取り組みについて、どのように感じていますか。(1つだけ○を付けてください)

音楽のまちづくりをはじめとする文化事業の取り組みについて『満足している』人は35.2%



- 「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足している』は35.2%となった。「どちらかといえば不満」と「不満」を合わせた『不満である』は8.4%となり、『満足している』が『不満である』を26.8ポイント上回った。一方で「どちらでもない」は55.0%と半数を超えた。
- 年代別でみると、『満足している』と回答した割合は18歳～29歳の43.4%が最も高く、次いで70歳以上の39.2%となった。最も低い30歳代では25.6%となり、最も高い18歳～29歳とは17.8ポイントの差がみられた。

【年代別】

		(単位：%)					
		満足	どちらかといえば満足	どちらでもない	どちらかといえば不満	不満	無回答
年代別	18歳～29歳 n=166	12.7	30.7	50.0	3.6	2.4	0.6
	30歳代 n=199	4.5	21.1	67.3	4.0	2.0	1.0
	40歳代 n=283	6.0	30.0	53.0	4.9	4.2	1.8
	50歳代 n=325	3.4	29.2	55.4	9.5	1.5	0.9
	60歳代 n=324	7.7	26.5	55.2	8.3	0.9	1.2
	70歳以上 n=390	5.9	33.3	51.8	5.1	1.8	2.1

【問 20 と問 21 の設問間クロス集計】

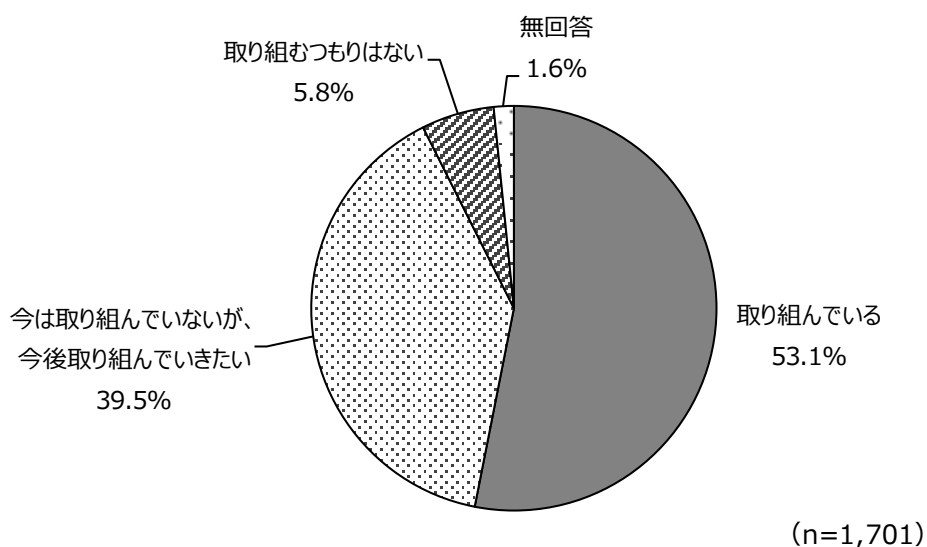
(単位：%)

		問21 音楽のまちづくりをはじめとする文化事業の取り組み					
		満 足	ど ち ら か と い え ば 満 足	ど ち ら で も な い	ど ち ら か と い え ば 不 満	不 満	無 回 答
問 20 過 去 1 年 間 に 取 り 組 ん だ 文 化 芸 術	文学 n=142	8.5	35.2	42.3	8.5	4.2	1.4
	音楽 n=480	9.0	39.0	40.6	7.3	3.3	0.8
	美術 n=214	7.5	43.0	35.0	10.3	3.7	0.5
	写真 n=128	10.2	37.5	38.3	7.8	4.7	1.6
	演劇 n=91	7.7	41.8	39.6	2.2	6.6	2.2
	舞踊 n=23	13.0	34.8	34.8	4.3	13.0	0.0
	民俗芸能 n=27	11.1	22.2	48.1	7.4	7.4	3.7
	茶道 n=24	8.3	45.8	37.5	0.0	4.2	4.2
	華道 n=30	20.0	20.0	50.0	6.7	0.0	3.3
	書道 n=51	11.8	35.3	47.1	3.9	2.0	0.0
	工芸 n=41	7.3	41.5	41.5	4.9	4.9	0.0
	メディア芸術 n=34	2.9	32.4	50.0	8.8	5.9	0.0
	歴史 n=155	10.3	40.6	36.1	9.0	3.2	0.6
	その他 n=13	0.0	23.1	53.8	23.1	0.0	0.0

## 2-8 健康づくりについて

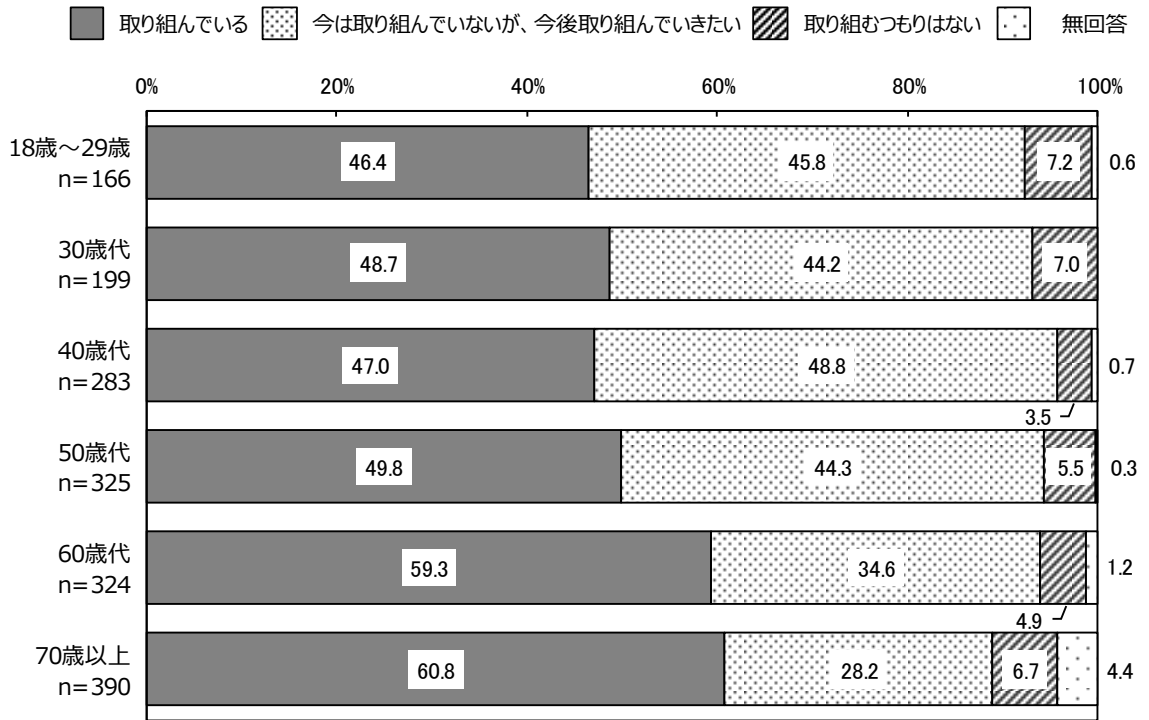
問22 あなたは、日ごろ健康のために何か取り組んでいることはありますか。  
(1つだけ○を付けてください)

日ごろ健康のために「取り組んでいる」人は53.1%

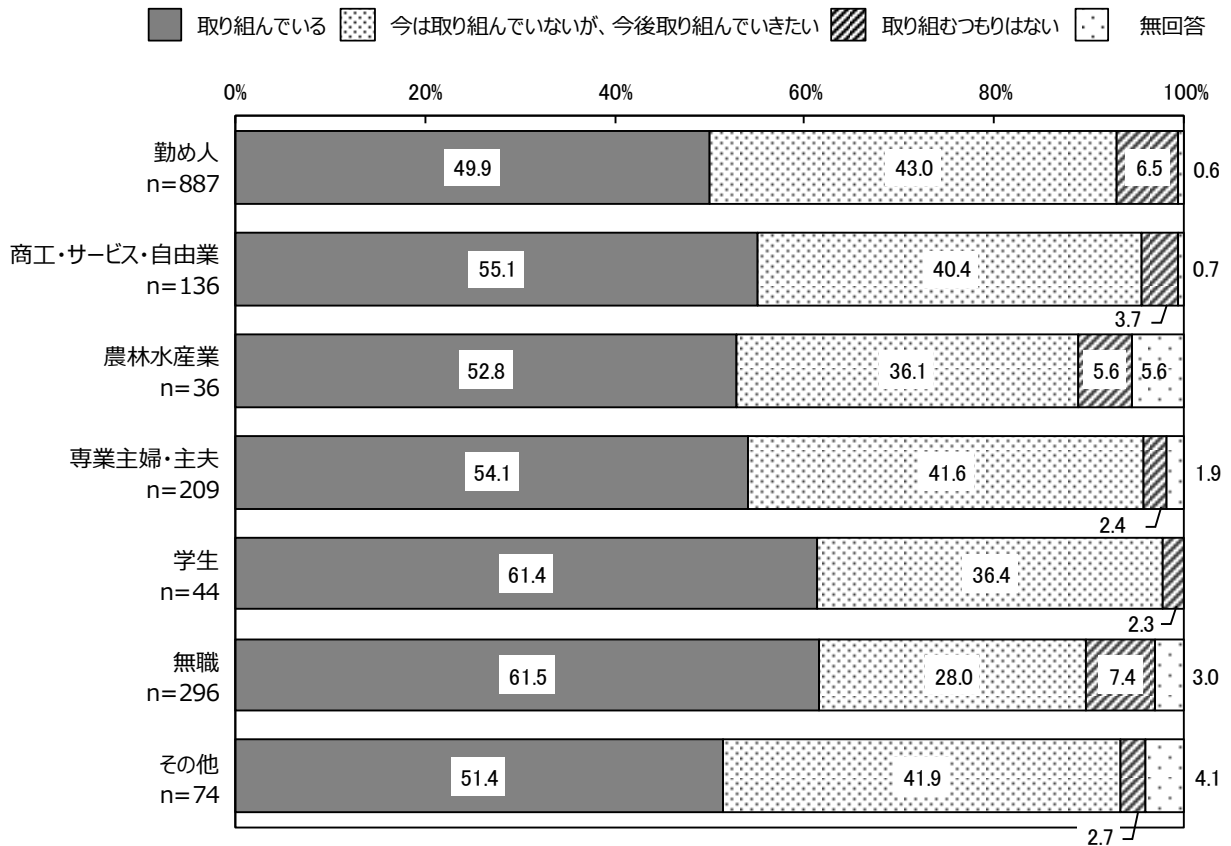


- 日ごろ健康のために「取り組んでいる」が53.1%と最も高く、次いで「今は取り組んでいないが、今後取り組んでいきたい」が39.5%、「取り組むつもりはない」が5.8%となった。
- 年代別で見ると、「取り組んでいる」と回答した割合は70歳以上の60.8%が最も高く、次いで60歳代の59.3%となった。他の年代では5割未満となった。
- 職業別で見ると、「取り組んでいる」と回答した割合は無職の61.5%が最も高く、次いで学生の61.4%となった。最も低い勤め人では49.9%となり、最も高い無職とは11.6ポイントの差がみられた。

【年代別】

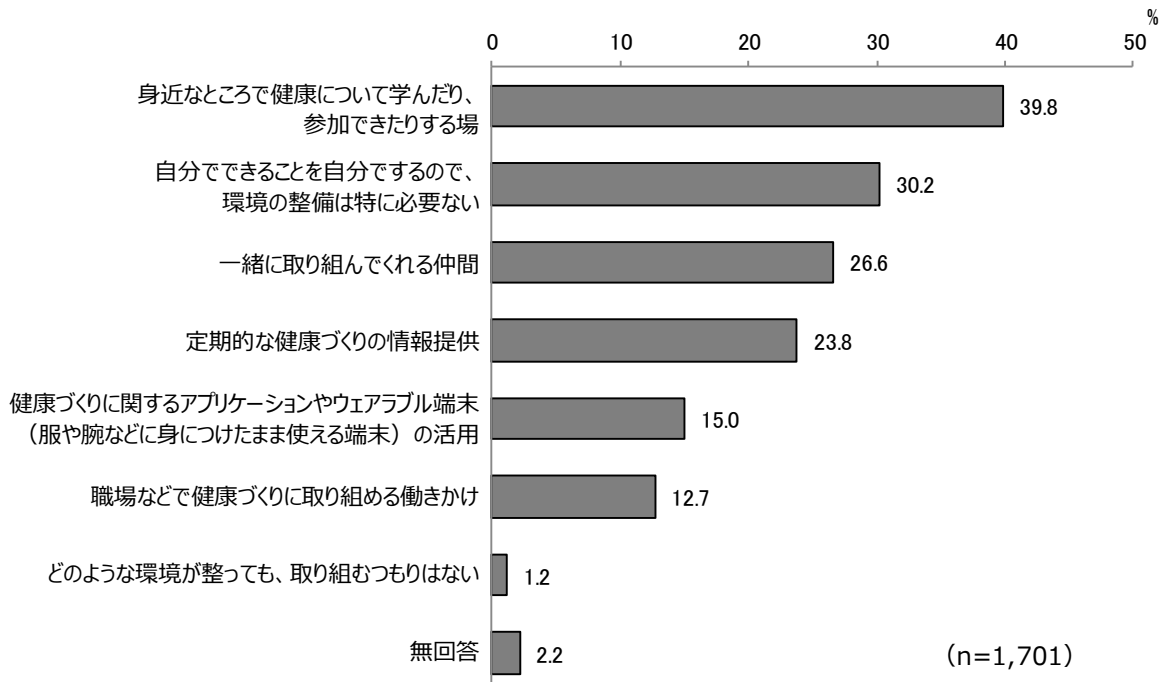


【職業別】



問 23 あなたは、どのような環境が整えば健康づくりに取り組もうと思いますか。すでに取り組んでいる方は、どのような環境が整えばさらに健康づくりに取り組もうと思いますか。  
(2つまで○を付けてください)

健康づくりに取り組もうと思う環境について「身近なところで健康について学んだり、参加できたりする場」は 39.8%



- 「身近なところで健康について学んだり、参加できたりする場」が 39.8%と最も高く、次いで「自分でできることを自分でするので、環境の整備は特に必要ない」が 30.2%、「一緒に取り組んでくれる仲間」が 26.6%となった。
- 年代別でみると、30 歳代以上では「身近なところで健康について学んだり、参加できたりする場」が最も高く、18 歳～29 歳では「一緒に取り組んでくれる仲間」が最も高い。また、「定期的な健康づくりの情報提供」では年齢が高いほど回答割合が高い傾向がみられ、「職場などで健康づくりに取り組める働きかけ」では年齢が低いほど回答割合が高い傾向がみられた。
- 職業別でみると、学生では「一緒に取り組んでくれる仲間」、商工・サービス・自由業では「自分でできることを自分でするので、環境の整備は特に必要ない」、他の職業では「身近なところで健康について学んだり、参加できたりする場」が、それぞれ最も高い。また、農林水産業では同率で「定期的な健康づくりの情報提供」と「自分でできることを自分でするので、環境の整備は特に必要ない」も高い。



【年代別・職業別】

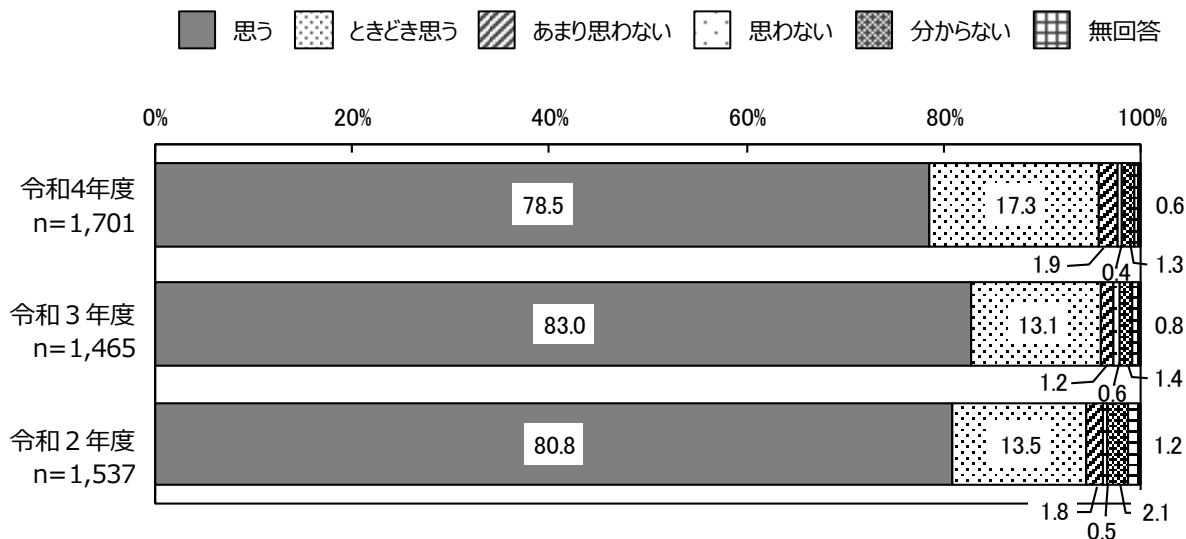
(単位：%)

		身 近 な と こ ろ で 健 康 に つ い て 学 ん だ り 、 参 加 で き た り す る 場	環 境 の 整 備 は 特 に 必 要 な い 自 分 で は 可 能 な 限 り で 自 分 で す る の で、	一 緒 に 取 り 組 ん で く れ る 仲 間	定 期 的 な 健 康 づ く り の 情 報 提 供	身 や 健 康 づ く り に 関 する ア プ リ ケ ー シ ョ ン に つ い て の 活 用 に 関 する ア プ リ ケ ー シ ョ ン の 活 用	働 き か け 場 所 な ど で 健 康 づ く り に 取 り 組 む	つ も り は な い 環 境 が 整 っ て も、 取 り 組 む	無 回 答
年 代 別	18歳～29歳 n=166	26.5	26.5	42.8	12.7	18.1	24.1	0.6	1.8
	30歳代 n=199	33.2	25.6	25.1	17.1	22.6	22.6	1.5	2.0
	40歳代 n=283	39.6	24.4	27.9	19.8	18.0	20.8	1.4	1.4
	50歳代 n=325	39.1	28.6	24.0	24.3	20.0	11.7	0.9	2.2
	60歳代 n=324	43.8	31.2	20.1	29.9	12.0	7.4	0.9	2.8
	70歳以上 n=390	46.7	38.7	26.7	29.5	6.2	2.3	1.5	2.1
職 業 別	勤め人 n=887	37.7	26.4	27.2	21.0	18.7	20.0	1.2	1.7
	商工・サービス・自由業 n=136	36.0	36.8	25.0	22.1	17.6	5.1	1.5	2.2
	農林水産業 n=36	33.3	33.3	27.8	33.3	13.9	0.0	0.0	2.8
	専業主婦・主夫 n=209	48.3	30.1	26.3	29.2	9.1	3.3	0.5	2.4
	学生 n=44	31.8	15.9	43.2	18.2	18.2	27.3	0.0	4.5
	無職 n=296	42.2	40.5	23.3	28.7	8.1	1.7	1.4	2.4
	その他 n=74	48.6	28.4	25.7	27.0	10.8	9.5	1.4	2.7

## 2-9 人権について

問24 あなたは、人権は重要なことだと思いますか。(1つだけ○を付けてください)

人権は『重要である』と思う人は95.8%



- 「思う」と「ときどき思う」を合わせた『重要である』は95.8%となり、「あまり思わない」と「思わない」を合わせた『重要でない』の2.3%を大きく上回った。令和3年度との比較では、「思う」が4.5ポイント減少、「ときどき思う」が4.2ポイント増加となった。
- 年代別で見ると、『重要である』はすべての年代で9割を超えて高い。60歳代の97.5%が最も高く、次いで40歳代の97.2%となった。
- 職業別で見ると、『重要である』はすべての職業で9割を超えて高い。農林水産業の100.0%が最も高く、次いで専業主婦・主夫の96.6%となった。

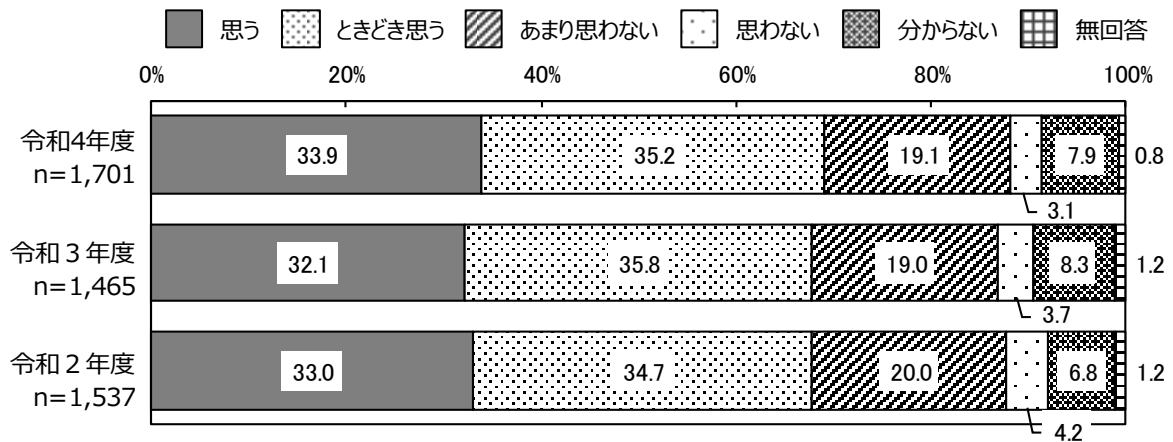
【年代別・職業別】

(単位：%)

		思う	ときどき思う	あまり思わない	思わない	分からない	無回答
年代別	18歳～29歳 n=166	74.7	19.3	2.4	1.8	1.8	0.0
	30歳代 n=199	74.9	20.1	4.0	0.5	0.0	0.5
	40歳代 n=283	80.9	16.3	1.1	0.7	0.4	0.7
	50歳代 n=325	78.5	18.2	0.6	0.0	2.2	0.6
	60歳代 n=324	83.3	14.2	1.9	0.0	0.3	0.3
	70歳以上 n=390	76.4	17.9	2.6	0.0	2.3	0.8
	職業別	勤め人 n=887	78.6	17.8	2.0	0.5	0.7
商工・サービス・自由業 n=136		80.9	14.7	0.7	0.7	2.2	0.7
農林水産業 n=36		77.8	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0
専業主婦・主夫 n=209		79.4	17.2	1.4	0.0	1.0	1.0
学生 n=44		88.6	6.8	0.0	2.3	2.3	0.0
無職 n=296		74.7	18.9	3.0	0.0	2.7	0.7
その他 n=74		81.1	14.9	2.7	0.0	1.4	0.0

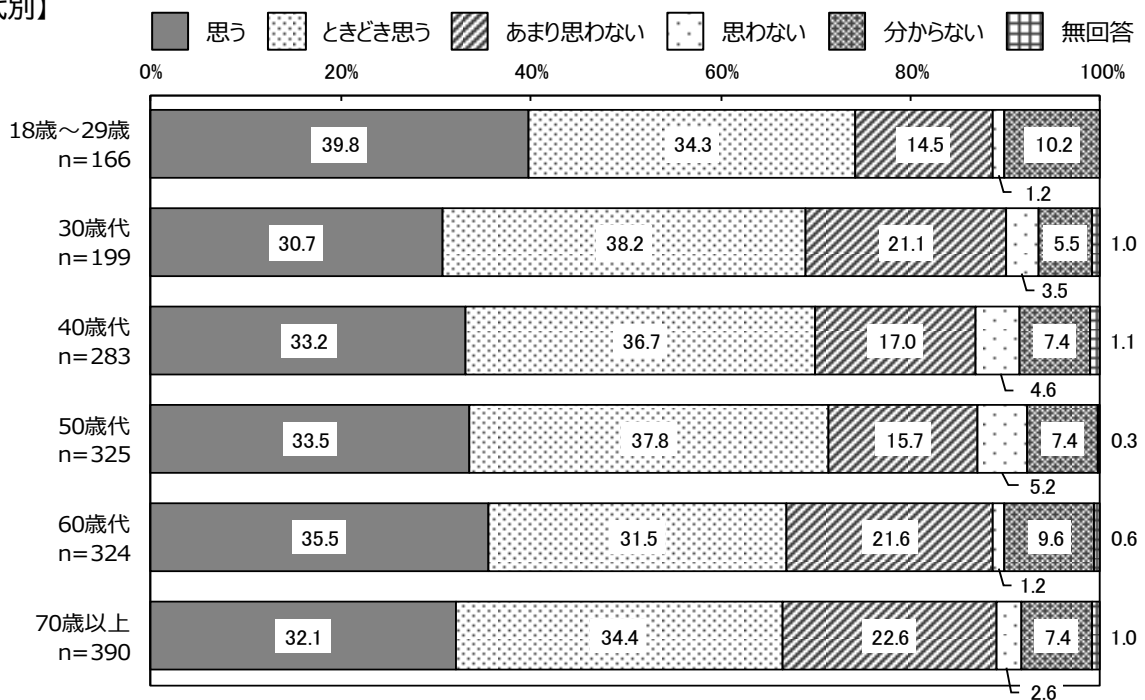
問 25 あなたの周りでは、お互いの人権を守りながら生活できていると感じますか。  
 (1つだけ○を付けてください)

お互いの人権を守りながら『生活できていると思う』人は 69.1%

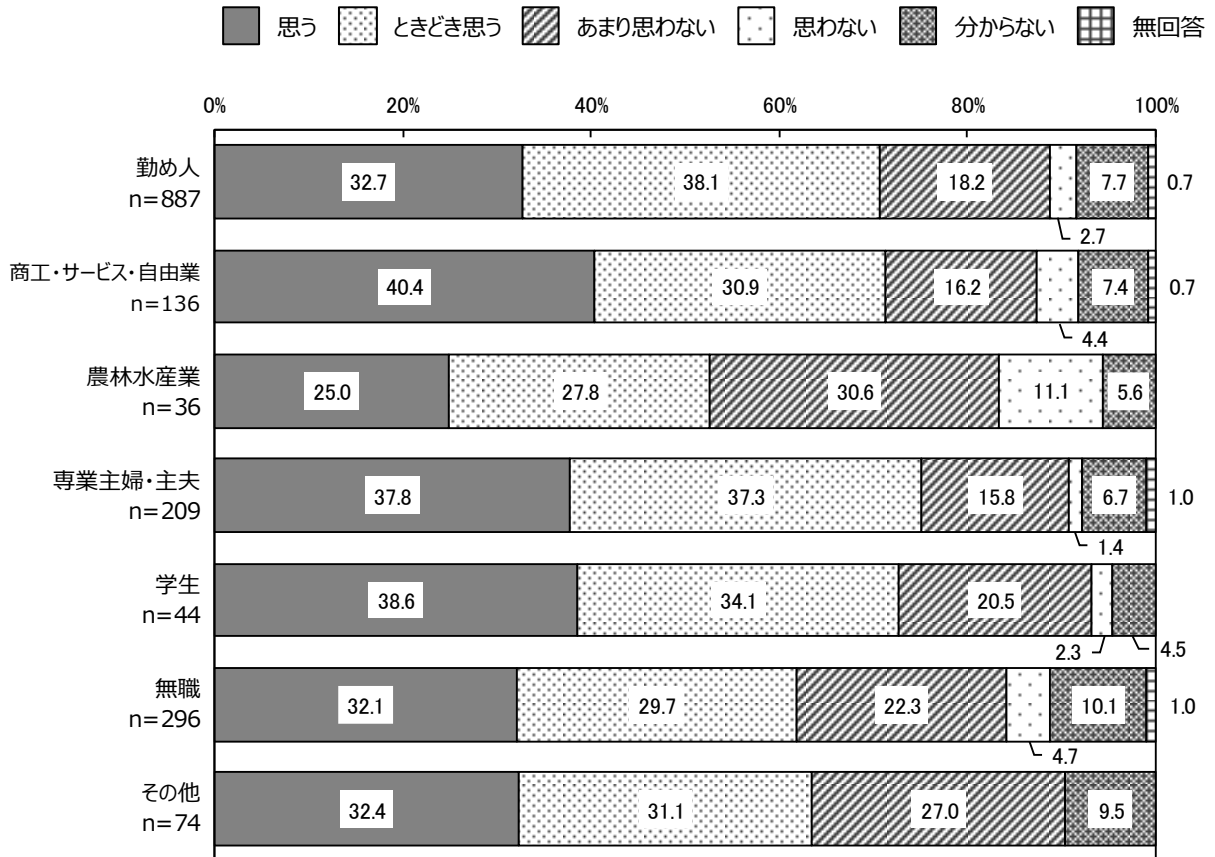


- 「思う」と「ときどき思う」を合わせた『生活できていると思う』は 69.1%となり、「あまり思わない」と「思わない」を合わせた『生活できていると思わない』の 22.2%を 46.9 ポイント上回った。令和3年度との比較では、『生活できていると思う』は 1.2 ポイント増加となった。
- 年代別でみると、『生活できていると思う』と回答した割合は、18歳～29歳の 74.1%が最も高く、次いで50歳代の 71.3%となった。他の年代では6割台となり、70歳以上が 66.5%と最も低い。
- 職業別でみると、『生活できていると思う』と回答した割合は、専業主婦・主夫が 75.1%と最も高く、次いで学生が 72.7%となった。最も低い農林水産業が 52.8%となり、最も高い専業主婦・主夫とは、22.3 ポイントの差がみられた。

【年代別】

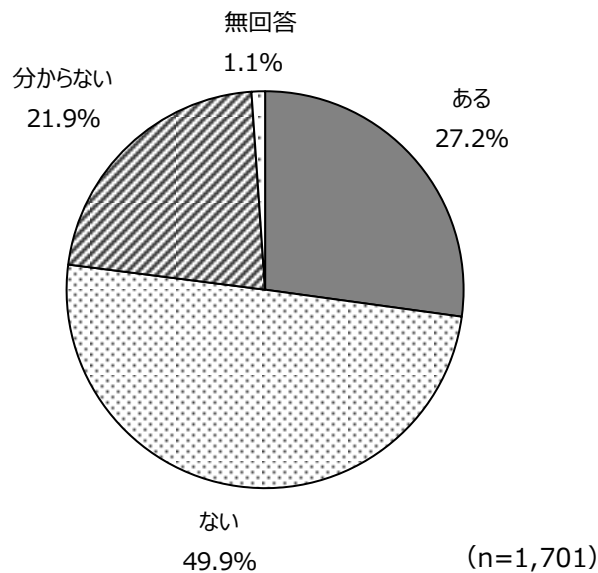


【職業別】



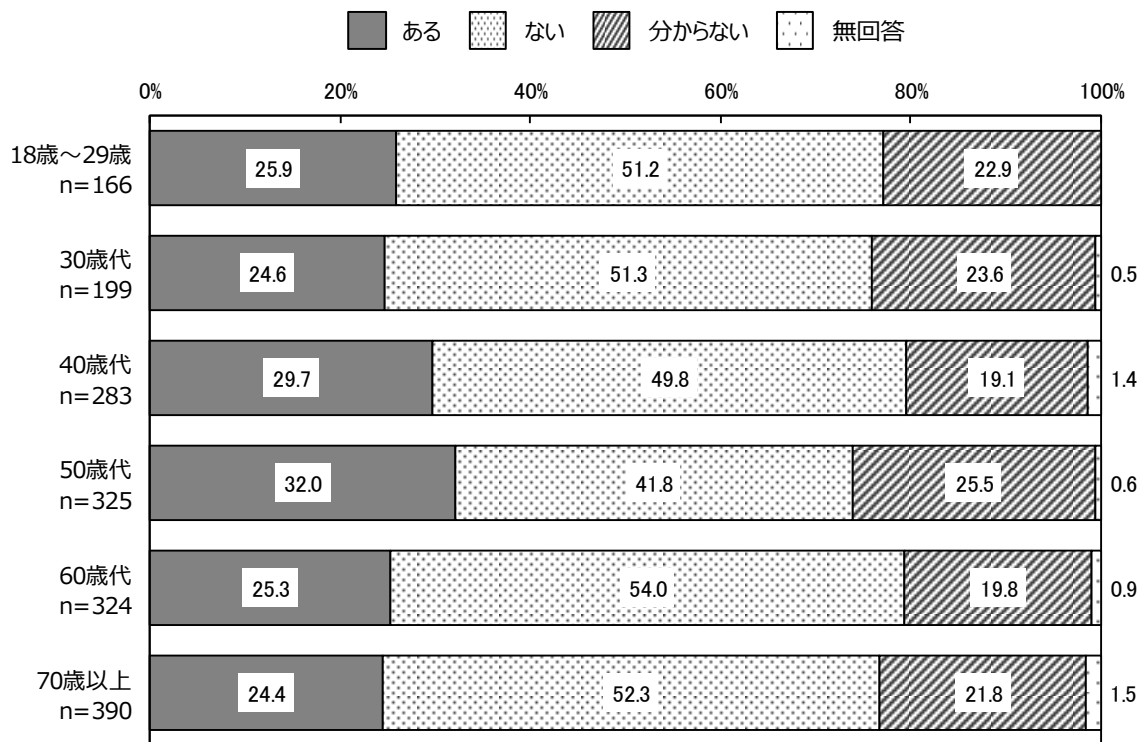
問 26 あなたは、日常生活の中で、あなた自身またはあなたの周りの方（家族や友人、職場の同僚など）の人権が侵害されたと感じたことはありますか。  
（1つだけ○を付けてください）

人権が侵害されたと感じたことが「ない」人は49.9%

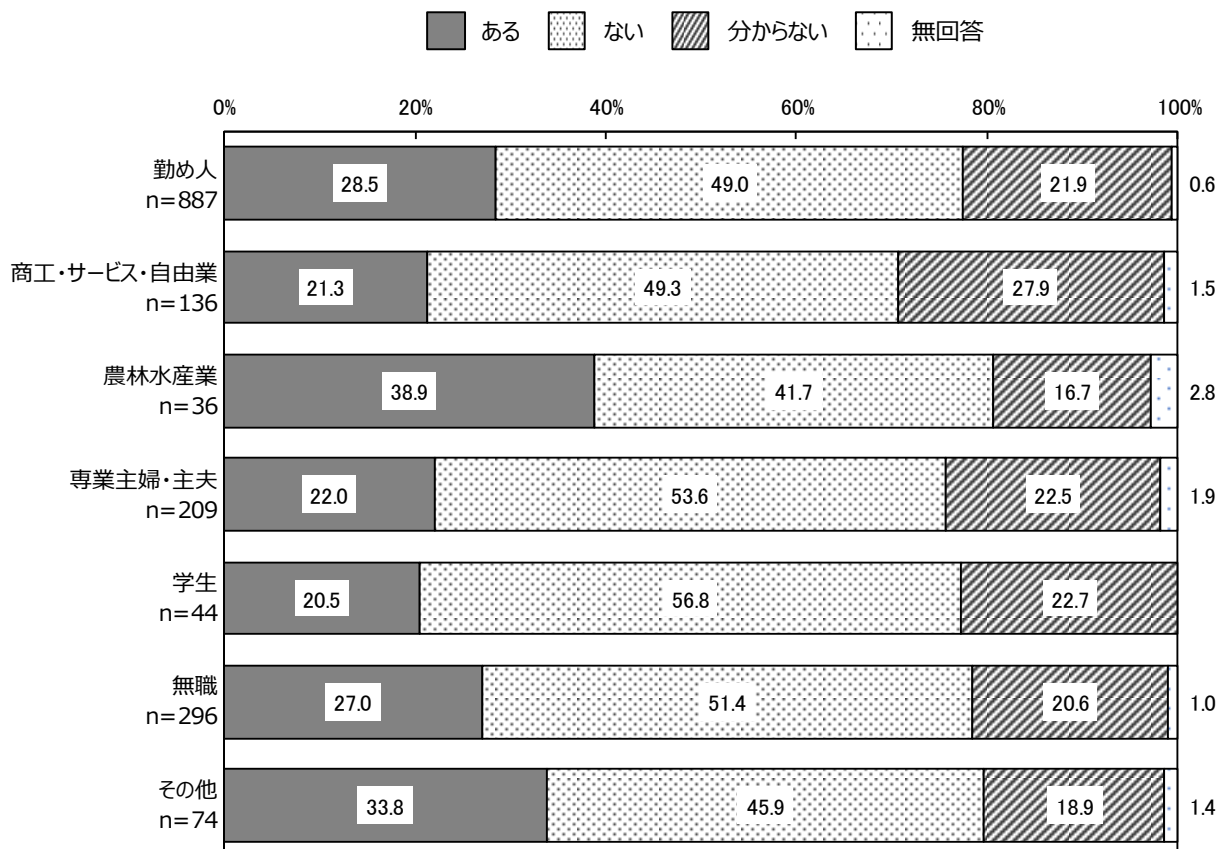


- 人権が侵害されたと感じたことは「ない」が49.9%と最も高く、次いで「ある」が27.2%、「分からない」が21.9%となった。
- 年代別でみると、「ある」と回答した割合は50歳代の32.0%が最も高く、次いで40歳代の29.7%となった。「ない」と回答した割合はいずれの年代も5割前後となった。
- 職業別でみると、「ある」は農林水産業の38.9%が最も高くなっている。「ない」と回答した割合は学生の56.8%が最も高い。

【年代別】

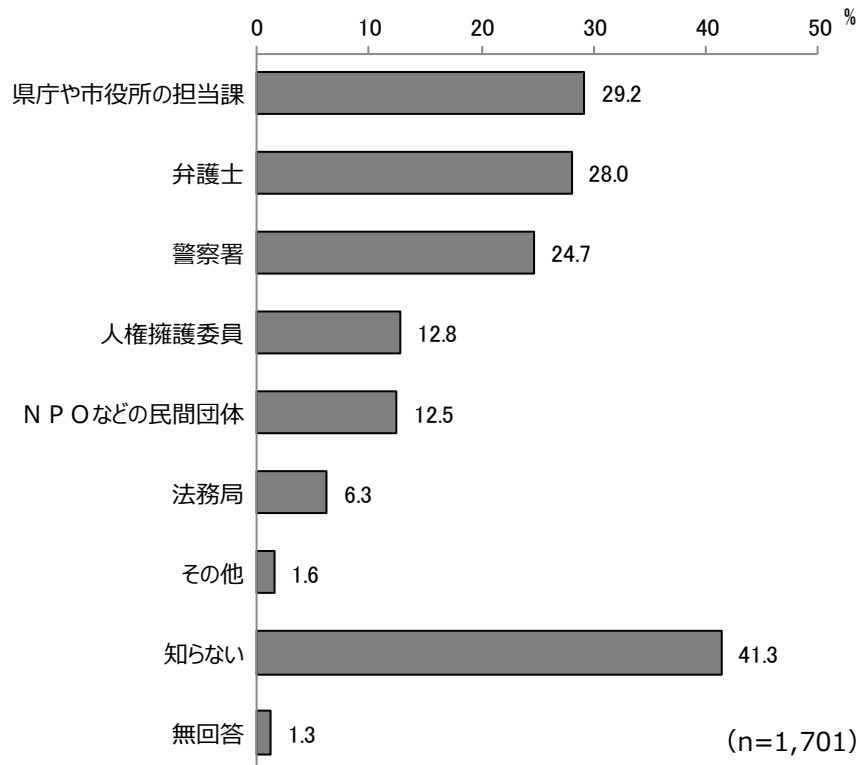


【職業別】



問 27 あなたは人権侵害や差別を受けた時に、相談できる場所を知っていますか。  
 (あてはまるものすべてに○を付けてください)

人権侵害や差別を受けた時に相談できる場所は「県庁や市役所の担当課」が 29.2%



- 「県庁や市役所の担当課」が 29.2%と最も高く、次いで「弁護士」が 28.0%、「警察署」が 24.7%となった。一方で、「知らない」が 41.3%、それ以外の項目については2割を下回る回答結果となった。
- 年代別でみると、60歳代以下の年代では「知らない」が最も高くなっている。「知らない」を除いた項目でみると、18歳～29歳は「警察署」、30歳代から50歳代では「弁護士」、60歳代以上では「県庁や市役所の担当課」がそれぞれ高い。年齢が低いほど「県庁や市役所の担当課」の割合が低い傾向がみられ、30歳代以下では2割を下回った。
- 職業別でみると、農林水産業とその他を除いた職種では「知らない」が最も高くなっている。「知らない」を除いた項目でみると、農林水産業、専業主婦・主夫、無職では「県庁や市役所の担当課」が最も高く、勤め人、商工・サービス・自由業、学生、その他では「弁護士」が最も高い。また、学生では同率で「警察署」も高い。



【年代別・職業別】

(単位：%)

		県庁や市役所の担当課	弁護士	警察署	人権擁護委員	NPOなどの民間団体	法務局	その他	知らない	無回答
年代別	18歳～29歳 n=166	15.1	24.7	25.3	8.4	13.9	6.6	1.2	53.0	0.0
	30歳代 n=199	19.1	24.6	13.6	8.5	14.6	5.0	1.5	52.3	1.0
	40歳代 n=283	23.7	31.8	21.2	8.5	14.1	6.0	1.1	44.9	1.1
	50歳代 n=325	26.5	31.7	23.7	9.5	14.8	5.8	1.2	44.6	0.6
	60歳代 n=324	35.8	29.3	25.0	17.6	11.1	7.4	1.5	36.1	1.2
	70歳以上 n=390	41.8	24.9	33.6	18.5	9.0	6.9	2.6	29.7	2.3
職業別	勤め人 n=887	26.3	29.7	22.3	11.0	14.0	5.6	1.5	44.3	0.7
	商工・サービス・自由業 n=136	25.7	34.6	26.5	8.1	11.0	12.5	0.7	43.4	0.7
	農林水産業 n=36	41.7	38.9	30.6	25.0	8.3	8.3	0.0	27.8	0.0
	専業主婦・主夫 n=209	36.8	24.4	23.4	15.8	9.1	3.8	2.4	37.8	2.4
	学生 n=44	13.6	25.0	25.0	13.6	13.6	6.8	0.0	54.5	0.0
	無職 n=296	35.1	20.3	29.4	15.9	10.8	7.1	2.7	36.1	1.7
	その他 n=74	33.8	39.2	33.8	13.5	17.6	6.8	0.0	31.1	2.7

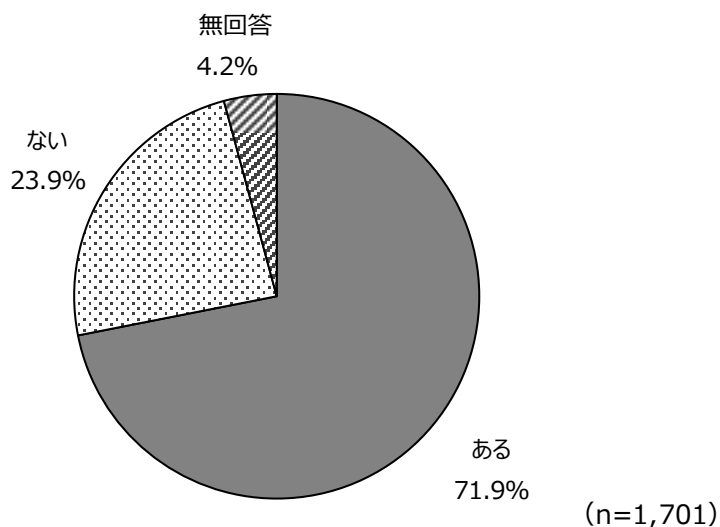
## 2-10 みどりについて

問 28 あなたは、次世代に残したいと思うみどり\*がありますか。

(「ある」に○を付けた方は、特に残したいと思うものを具体的に記入してください)

※ 参考：赤石山脈、猪鼻湖、遠州灘の海岸林、旧東海道松並木、県立森林公園、佐鳴湖、天竜川、天竜美林、富塚椎木谷、浜名湖、浜名湖ガーデンパーク、浜松城公園、姫街道松並木、フラワーパーク、フルーツパーク、万葉の森公園、都田川桜堤、都田総合公園、雄踏総合公園、四ツ池公園、その他身近なみどり など

次世代に残したいと思うみどりが「ある」人は 71.9%

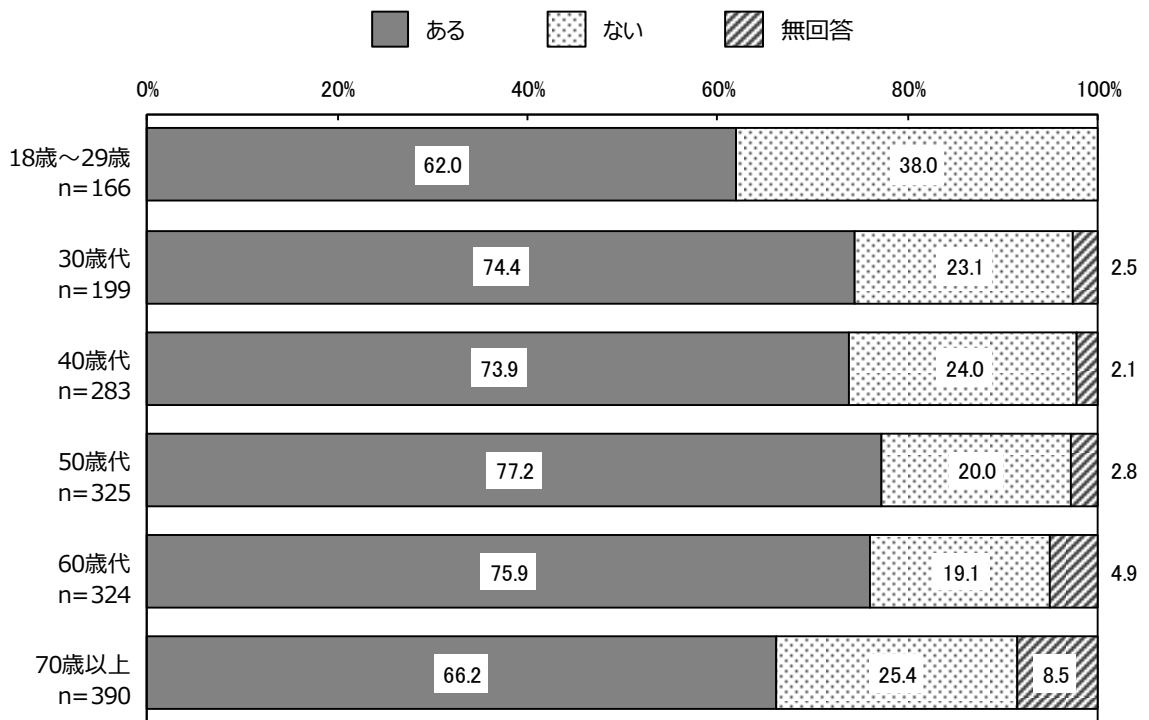


- 次世代に残したいと思うみどりが「ある」が 71.9%、「ない」が 23.9%となった。
- 年代別でみると、「ある」は 50 歳代の 77.2%が最も高く、次いで 60 歳代の 75.9%となった。18 歳～29 歳と 70 歳以上では 6 割台と、他の年代と比較してやや低い。「ない」と回答した割合は、18 歳～29 歳の 38.0%が最も高い。
- 職業別でみると、「ある」は農林水産業の 80.6%が最も高く、次いでその他の 79.7%となった。「ない」と回答した割合は、学生の 38.6%が最も高い。

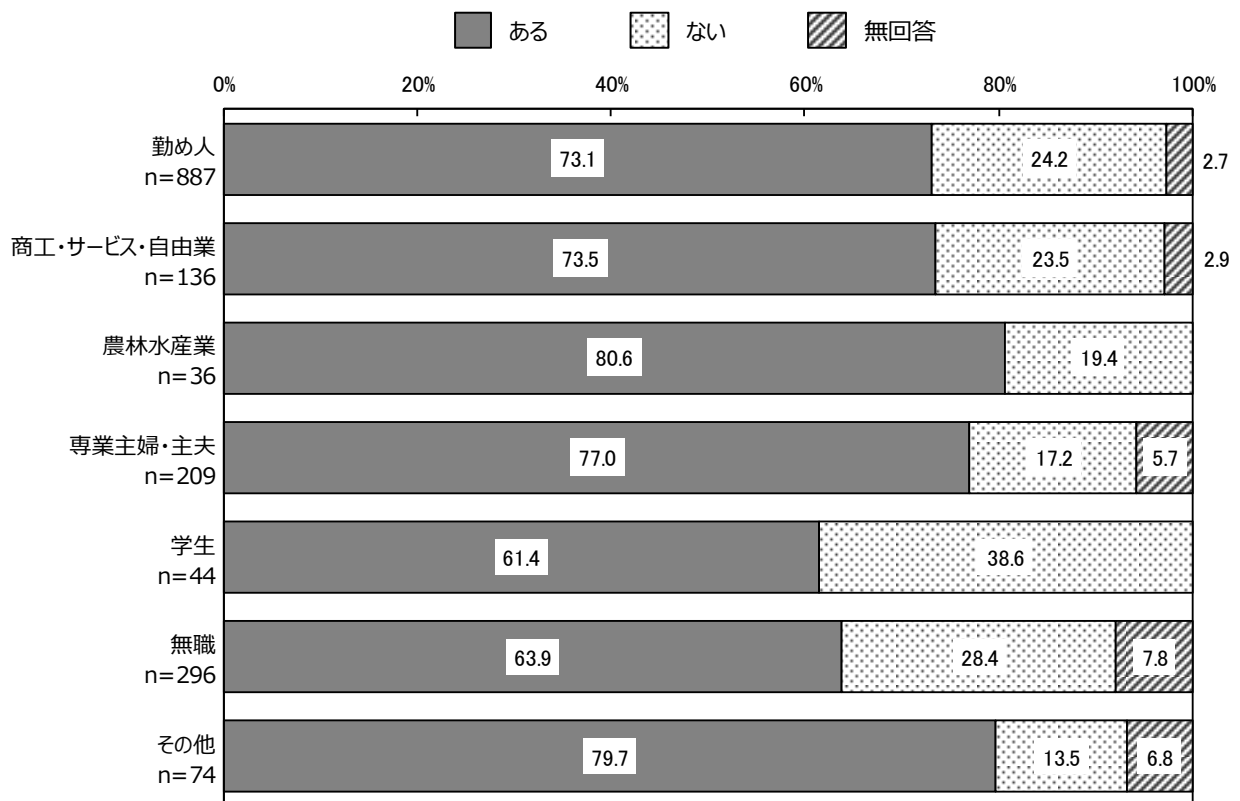
なお、具体的な名称としては、以下の回答が多数あった。

- |                               |                               |                                  |
|-------------------------------|-------------------------------|----------------------------------|
| <input type="radio"/> 浜名湖     | <input type="radio"/> 浜松城公園   | <input type="radio"/> 浜名湖ガーデンパーク |
| <input type="radio"/> 県立森林公園  | <input type="radio"/> フラワーパーク | <input type="radio"/> 天竜美林       |
| <input type="radio"/> 佐鳴湖     | <input type="radio"/> 天竜川     | <input type="radio"/> 旧東海道松並木    |
| <input type="radio"/> 遠州灘の海岸林 |                               |                                  |

【年代別】

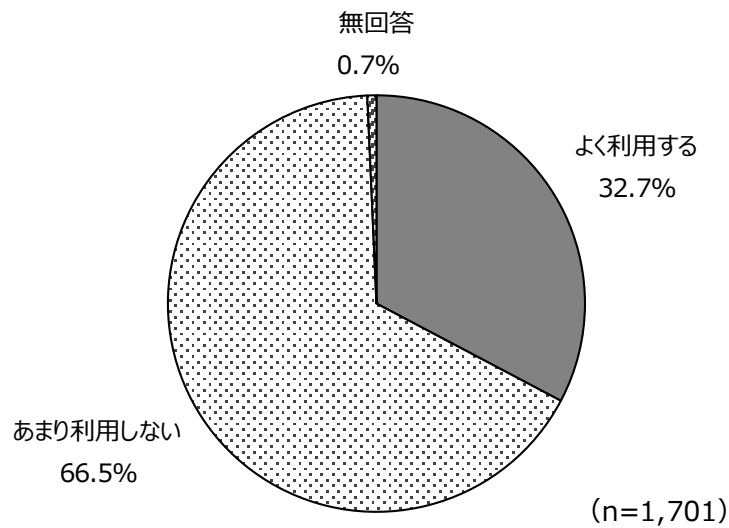


【職業別】



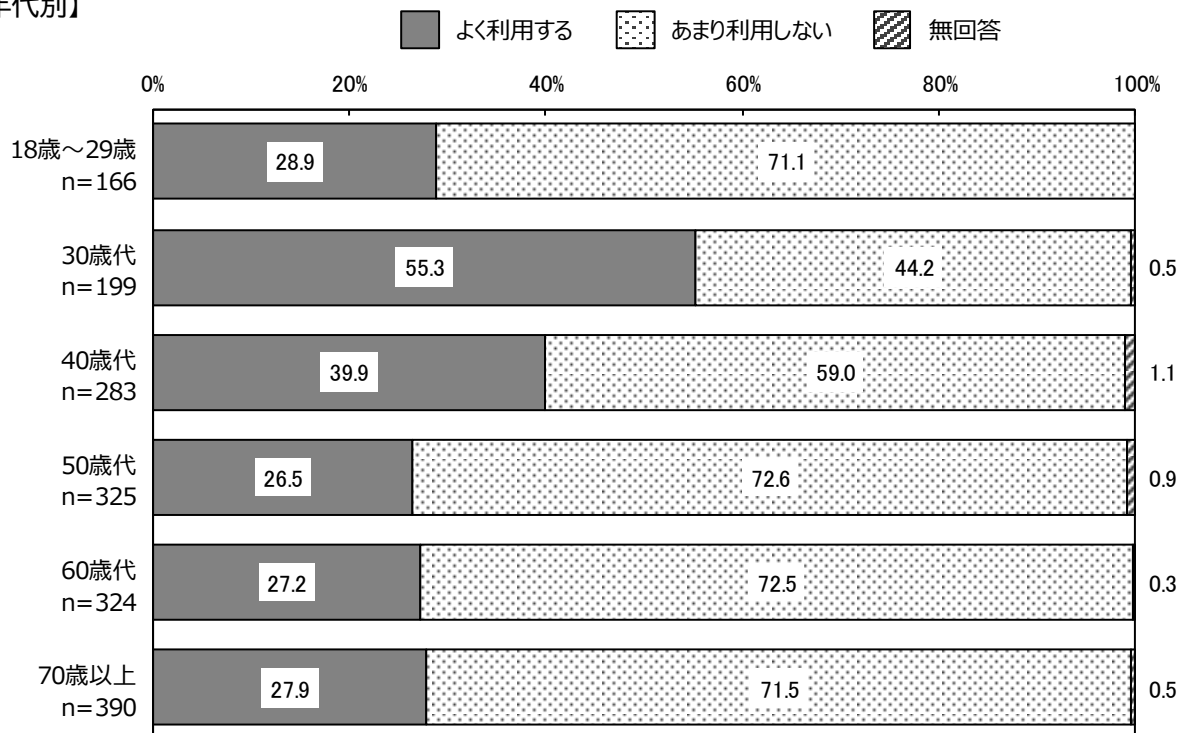
問 29 あなたは、市内の公園を利用しますか。(1つだけ○を付けてください)

市内の公園を「よく利用する」人は 32.7%

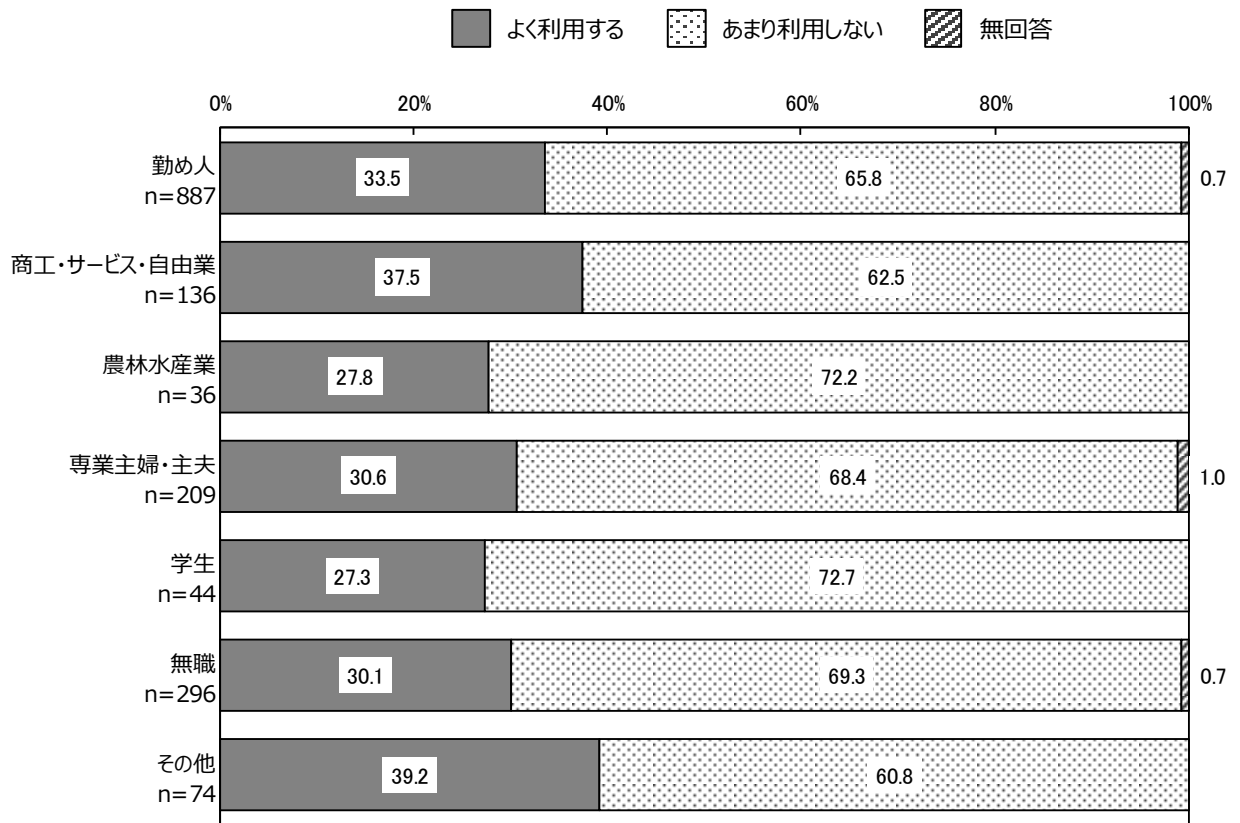


- 「よく利用する」が 32.7%、「あまり利用しない」が 66.5%となった。
- 年代別でみると、「よく利用する」と回答した割合は、30 歳代の 55.3%が最も高く、次いで 40 歳代の 39.9%となった。他の年代では 2 割台となった。「あまり利用しない」と回答した割合は、50 歳代が 72.6%と最も高い。
- 職業別でみると、「よく利用する」と回答した割合は、そのほか 39.2%と最も高く、次いで商工・サービス・自由業が 37.5%となった。「あまり利用しない」と回答した割合は、学生が 72.7%と最も高い。

【年代別】

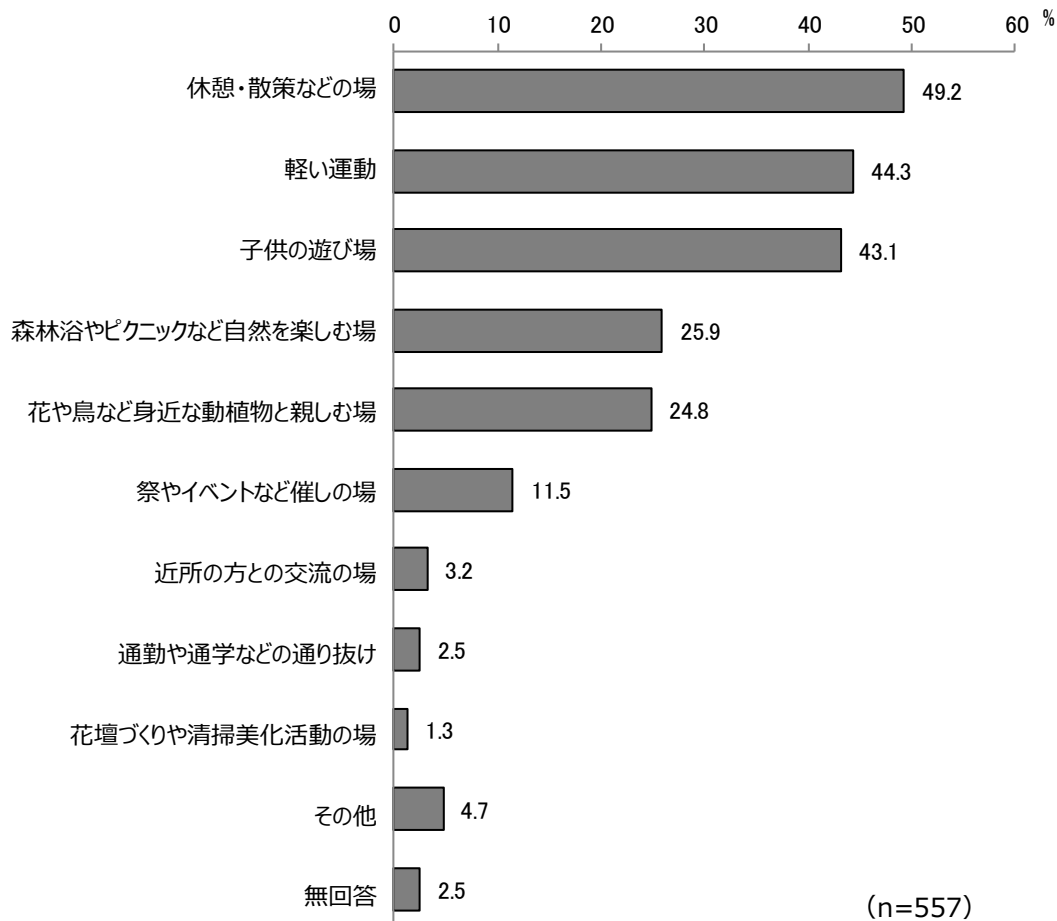


【職業別】



問 30 問 29 で「1. よく利用する」と回答された方にお聞きします。主にどのような目的で利用しますか。（3つまで○を付けてください）

市内の公園の利用目的は「休憩・散策などの場」が 49.2%



- 「休憩・散策などの場」が 49.2%と最も高く、次いで「軽い運動」が 44.3%、「子供の遊び場」が 43.1%となった。
- 年代別でみると、18 歳～29 歳では「軽い運動」、30 歳代から 40 歳代では「子供の遊び場」、50 歳代以上では「休憩・散策などの場」がそれぞれ最も高い。年齢が高いほど「花や鳥など身近な動植物と親しむ場」割合が高い傾向がみられ、70 歳以上では 41.3%となった。
- 職業別でみると、勤め人では「子供の遊び場」、農林水産業、専業主婦・主夫、その他では「休憩・散策などの場」、無職では「軽い運動」がそれぞれ最も高い。商工・サービス・自由業と学生では「軽い運動」と「休憩・散策などの場」が最も高い。

【年代別・職業別】

(単位：%)

		休憩・散策などの場	軽い運動	子供の遊び場	森林浴やピクニックなど自然を楽しむ場	親しむ場	花や鳥など身近な動植物と	祭やイベントなど催しの場	近所の方との交流の場	通勤や通学などの通り抜け	花壇づくりや清掃美化活動の場	その他	無回答
年代別	18歳～29歳 n=48	41.7	58.3	27.1	37.5	10.4	10.4	2.1	4.2	0.0	8.3	0.0	
	30歳代 n=110	24.5	25.5	74.5	27.3	13.6	9.1	2.7	1.8	0.0	1.8	2.7	
	40歳代 n=113	38.1	34.5	71.7	18.6	18.6	12.4	1.8	4.4	0.9	1.8	4.4	
	50歳代 n=86	58.1	51.2	22.1	26.7	26.7	16.3	2.3	4.7	0.0	9.3	1.2	
	60歳代 n=88	69.3	45.5	25.0	21.6	31.8	10.2	2.3	1.1	1.1	9.1	4.5	
	70歳以上 n=109	67.0	61.5	18.3	29.4	41.3	10.1	7.3	0.0	4.6	1.8	0.9	
職業別	勤め人 n=297	40.7	39.7	52.5	25.6	20.9	13.5	2.0	2.7	0.7	4.0	2.0	
	商工・サービス・自由業 n=51	51.0	51.0	25.5	21.6	29.4	11.8	5.9	0.0	3.9	7.8	2.0	
	農林水産業 n=10	60.0	20.0	40.0	40.0	30.0	10.0	0.0	0.0	0.0	10.0	10.0	
	専業主婦・主夫 n=64	60.9	37.5	50.0	20.3	31.3	12.5	3.1	1.6	1.6	6.3	0.0	
	学生 n=12	66.7	66.7	8.3	50.0	0.0	25.0	0.0	16.7	0.0	0.0	8.3	
	無職 n=89	61.8	64.0	20.2	24.7	38.2	2.2	6.7	1.1	2.2	4.5	4.5	
	その他 n=29	62.1	37.9	41.4	37.9	13.8	6.9	0.0	6.9	0.0	3.4	3.4	

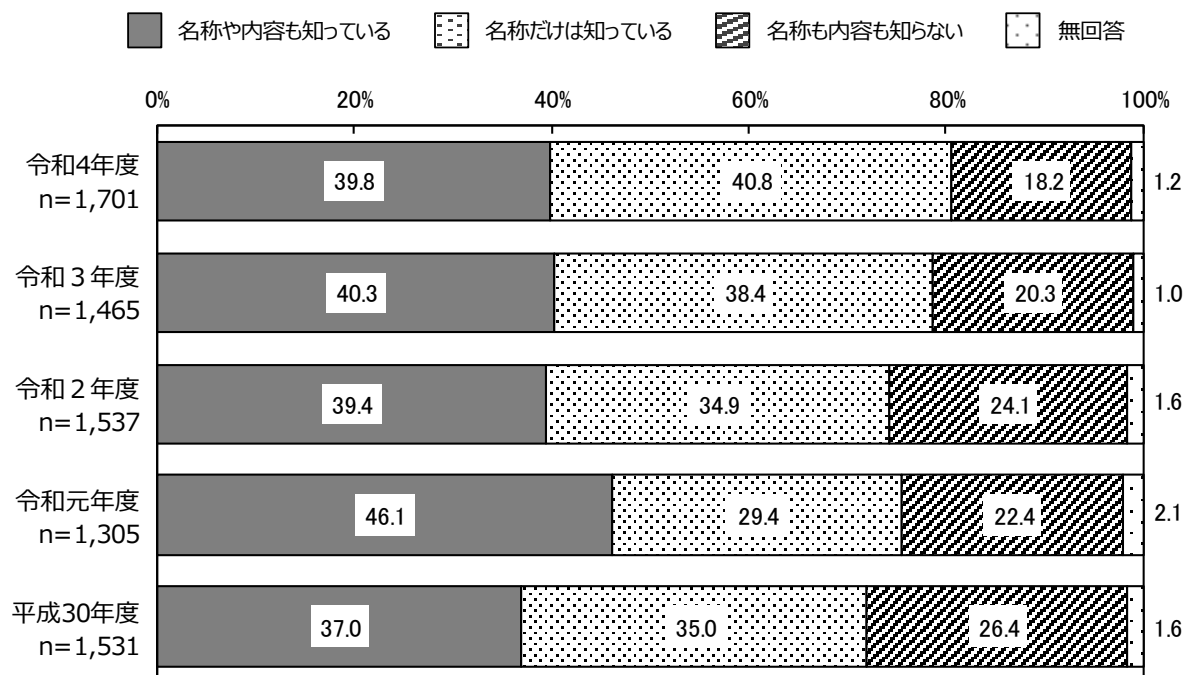
## 2-11 ユニバーサルデザイン・男女共同参画について

問 31 あなたは「ユニバーサルデザイン※」を知っていますか。

(1つだけ○を付けてください)

※ ユニバーサルデザインとは、年齢、性別、能力、国籍などに関係なく、誰もが安全、安心で、快適な暮らしができるように「人づくり」や「ものづくり」、「環境づくり」を行っていかこうとする考え方のことです。

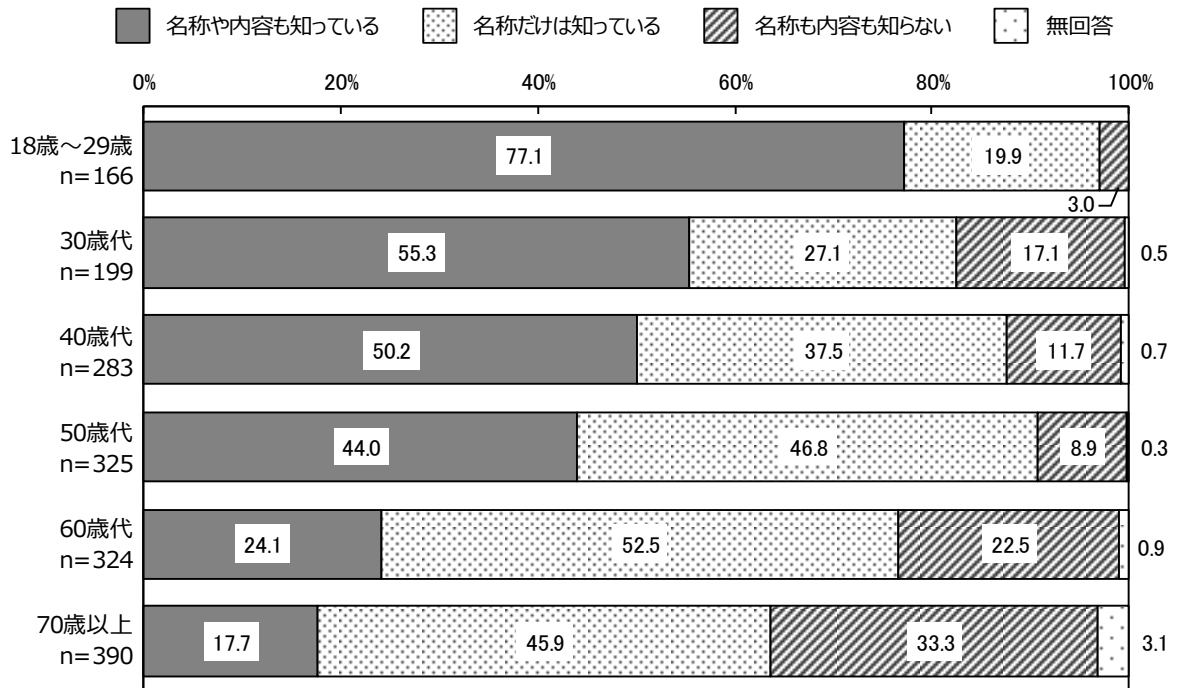
「ユニバーサルデザイン」を『知っている』人は80.6%



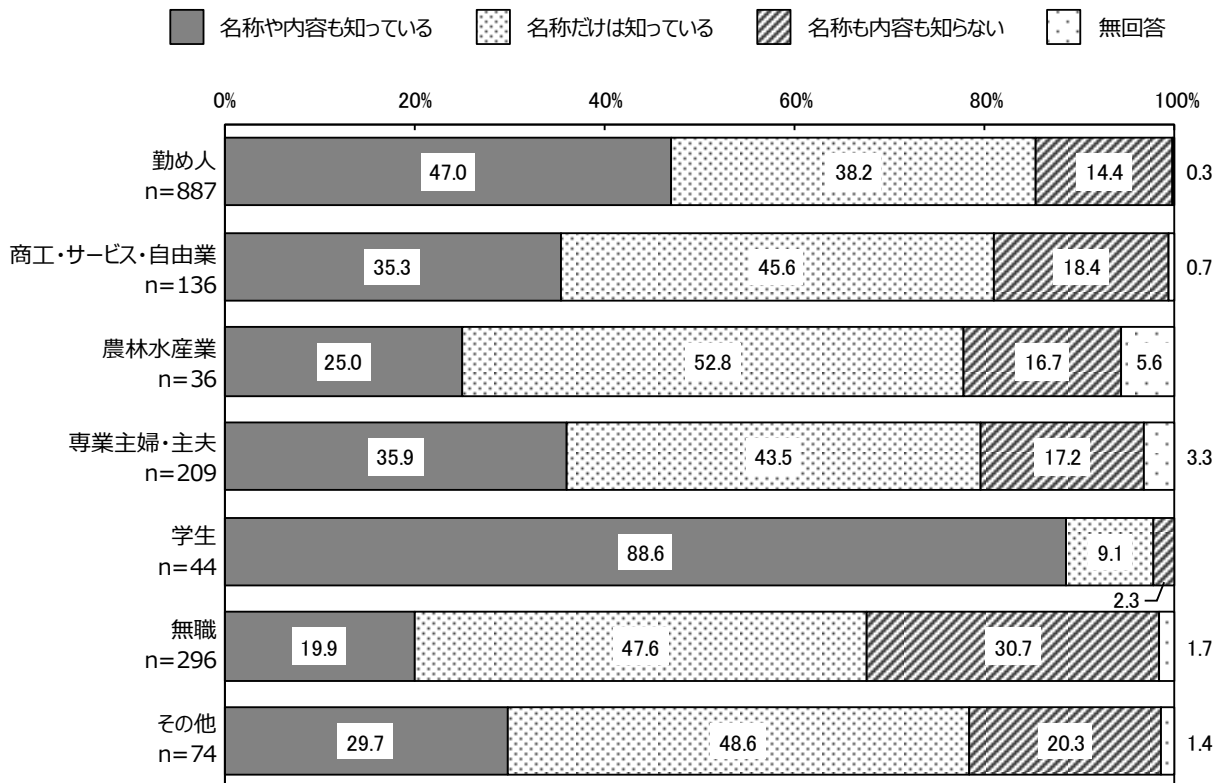
- 「名称や内容も知っている」と「名称だけは知っている」を合わせたユニバーサルデザインを『知っている』は80.6%となり、令和3年度と比較して1.9ポイントの増加となった。ユニバーサルデザインの理解度である「名称や内容も知っている」は39.8%となり、令和3年度と比較して0.5ポイントの減少となった。
- 年代別でみると、「名称や内容も知っている」と回答した割合は18歳～29歳が77.1%と最も高く、30歳代の55.3%、40歳代の50.2%と続き、年齢が高いほど「名称や内容も知っている」割合が低い傾向がみられ、70歳以上では17.7%となった。
- 職業別でみると、「名称や内容も知っている」と回答した割合は、学生が88.6%と最も高く、次いで勤め人の47.0%となった。最も低い無職では19.9%となり、最も高い学生とは68.7ポイントの差がみられた。



【年代別】



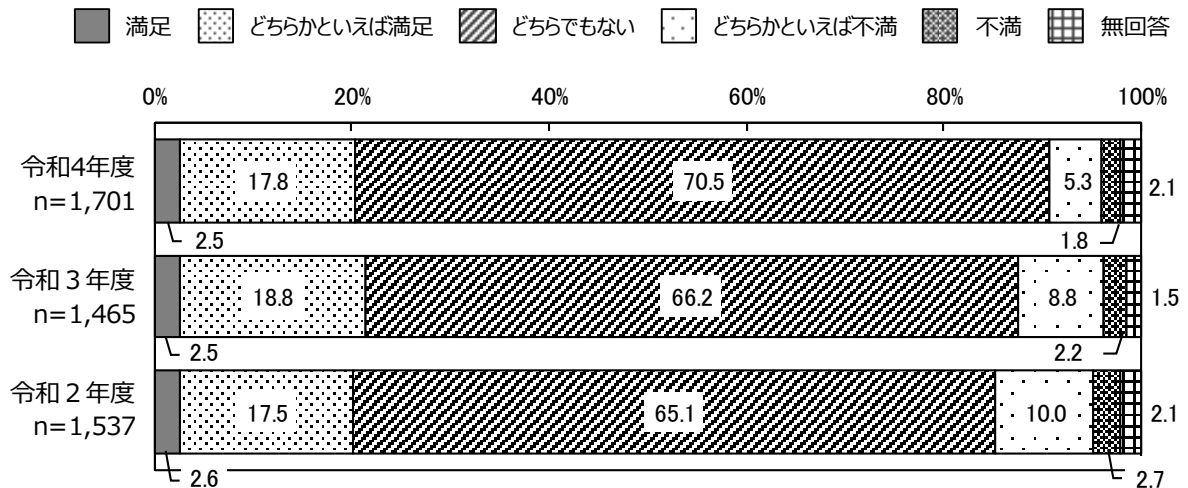
【職業別】



問 32 あなたは浜松市のユニバーサルデザインによるまちづくり※についてどのように感じていますか。(1つだけ○を付けてください)

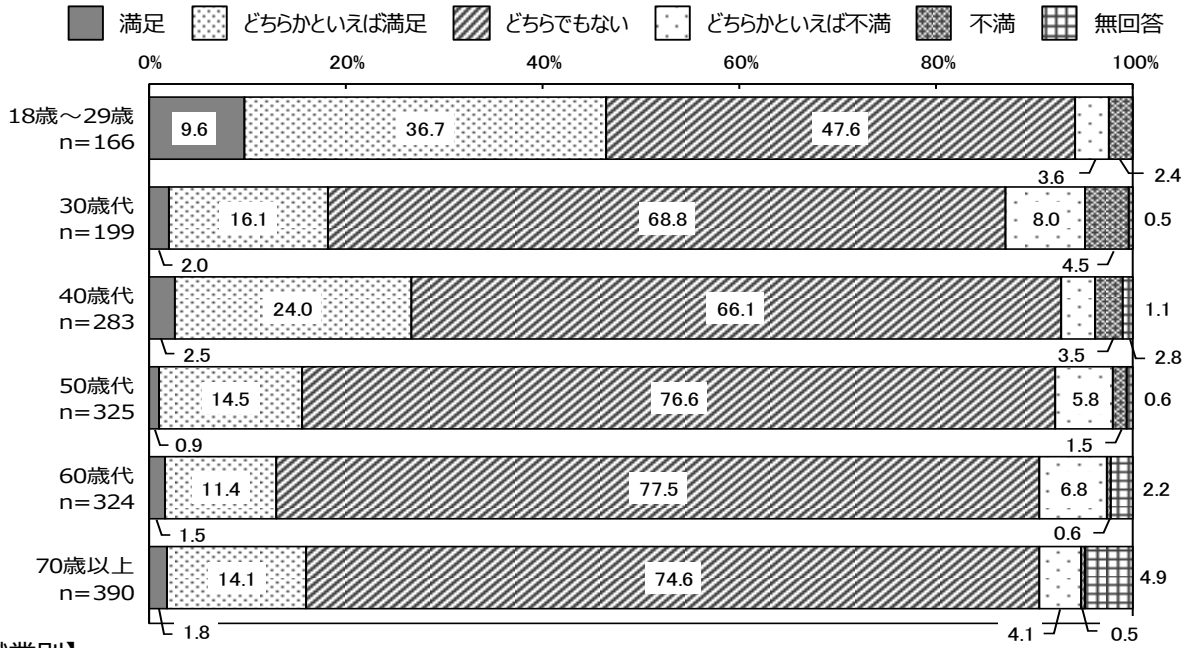
※ 浜松市では、施設や道路などにユニバーサルデザインを取り入れた環境を整備するとともに、市政情報や防災情報などの身近な生活情報を誰もが容易に受け取れるよう、さまざまな取り組みを行っています。

ユニバーサルデザインによるまちづくりに『満足している』人は 20.3%

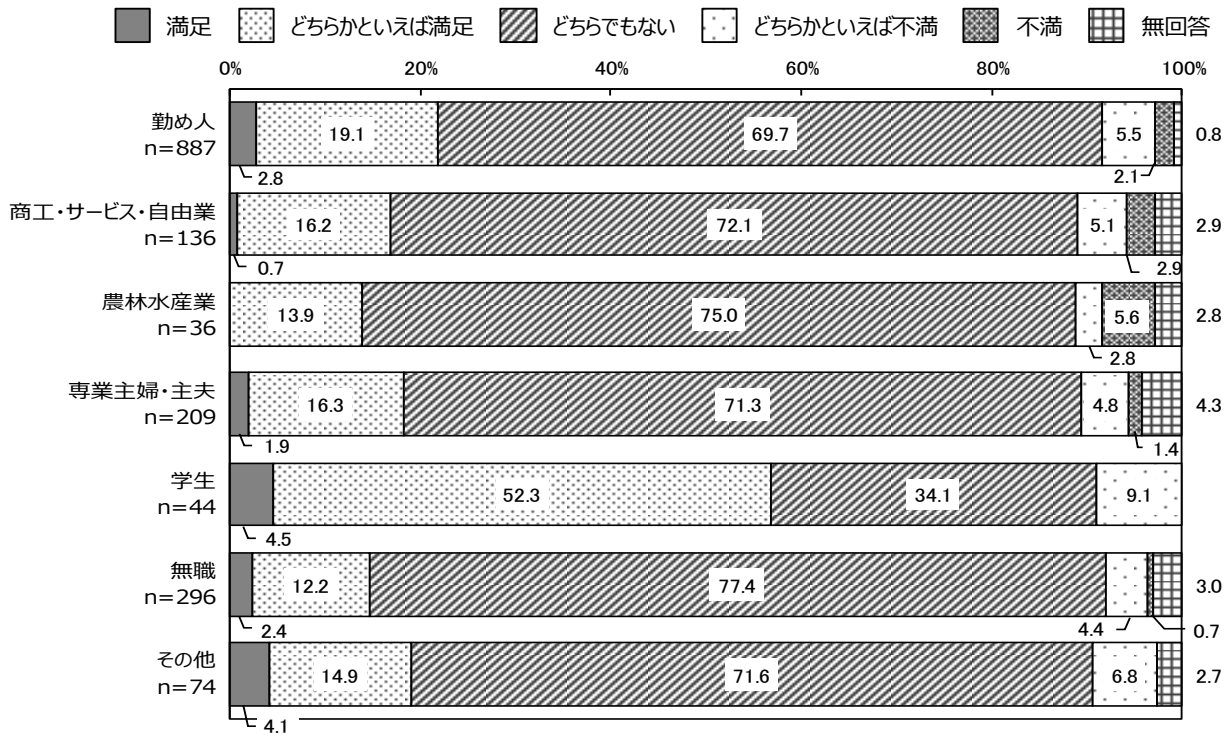


- 「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足している』は 20.3%となった。「どちらかといえば不満」と「不満」を合わせた『不満である』は 7.1%となり、『満足している』が『不満である』を 13.2 ポイント上回り、令和3年度との比較では、『不満である』は 3.9 ポイントの減少となった。一方で「どちらでもない」は 70.5%を占めた。
- 年代別でみると、『満足している』と回答した割合は 18 歳～29 歳の 46.3%が最も高く、次いで 40 歳代が 26.5%となった。他の年代では 2 割を下回った。
- 職業別でみると、『満足している』と回答した割合は学生が 56.8%と最も高く、次いで勤め人が 21.9%となった。他の職業では 2 割を下回った。
- ユニバーサルデザインの認知度別にみると、「名称や内容も知っている」層の『満足している』は 35.7%となり、「名称だけは知っている」層(12.0%)や「名称も名前も知らない」層(6.5%)の『満足している』と比較して高く、認知度・理解度が高いほど、満足度も高い傾向となったことから、今後もユニバーサルデザインにおける認知や理解を深めていく取り組みを進める必要がある。

【年代別】

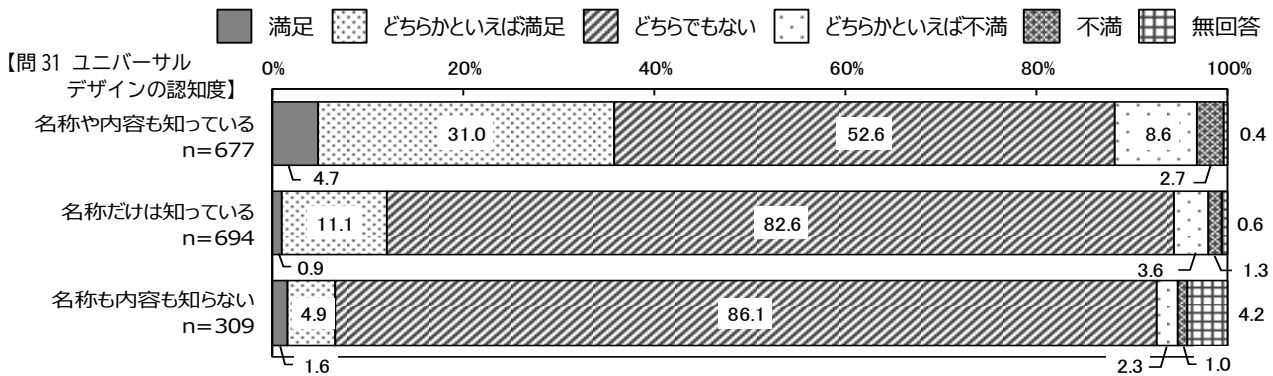


【職業別】



【問 31 と問 32 の設問間クロス集計】

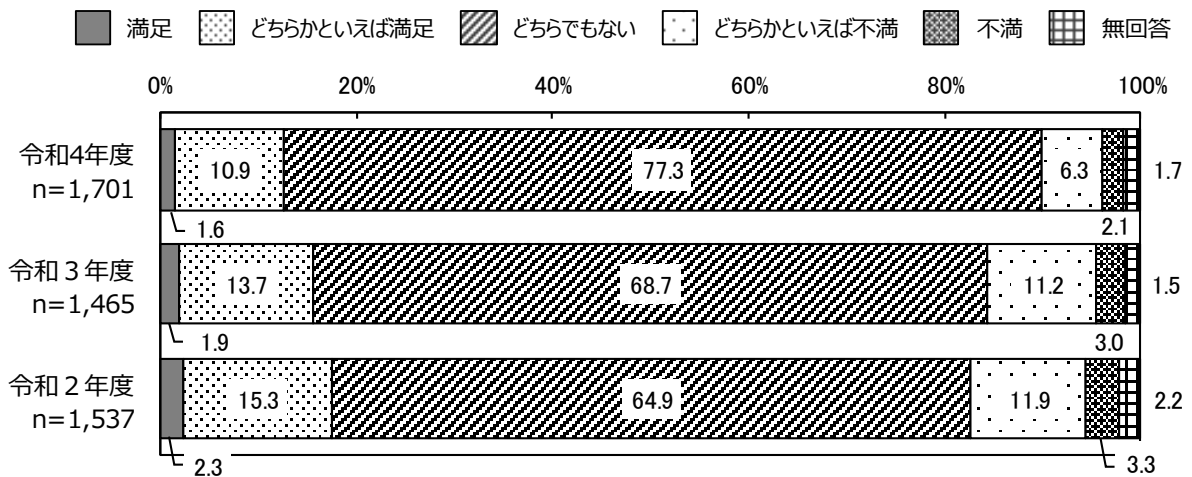
【問 32 ユニバーサルデザインによるまちづくり】



問 33 あなたは浜松市の男女共同参画社会の実現に向けた取り組み<sup>※</sup>についてどのように感じていますか。(1つだけ○を付けてください)

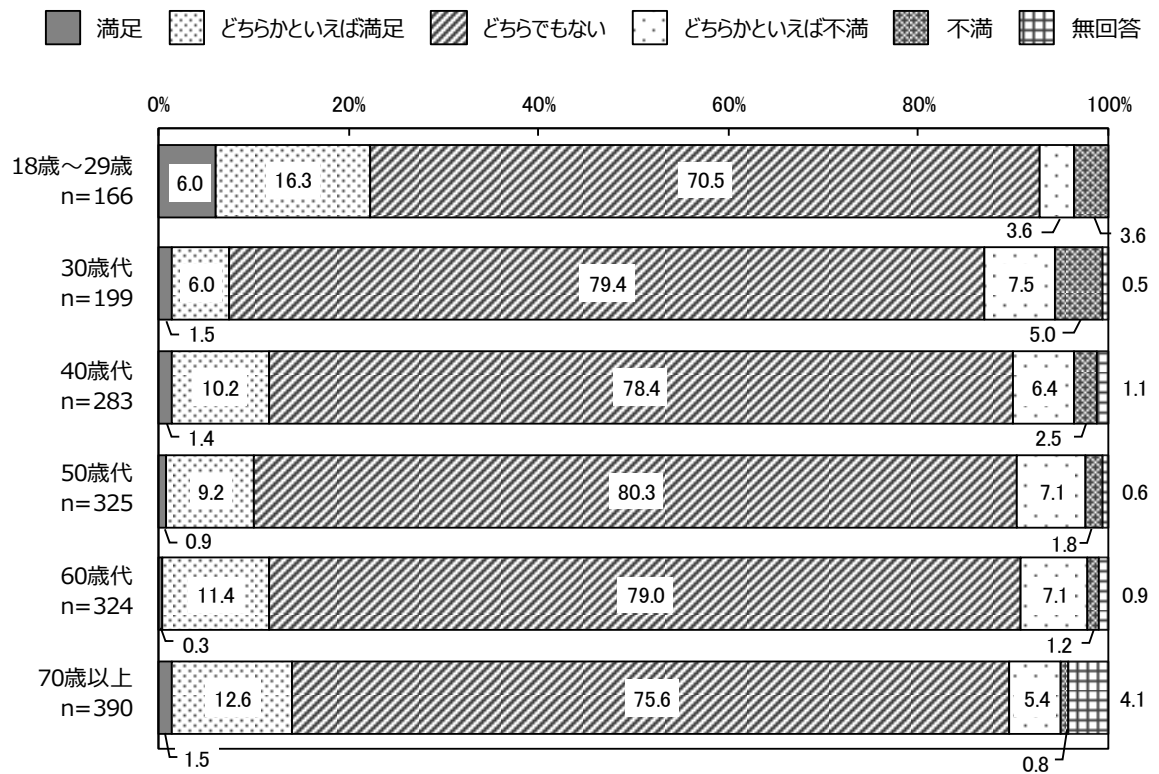
※ 浜松市では、男女共同参画を推進するための啓発講座や人材・団体育成支援、情報発信、相談事業など、さまざまな取り組みを行っています。

男女共同参画社会の実現に向けた取り組みについて『満足している』人は12.5%



- 「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足している』は12.5%となった。「どちらかといえば不満」と「不満」を合わせた『不満である』は8.4%となり、『満足している』が『不満である』を4.1ポイント上回った。一方で「どちらでもない」は77.3%を占めた。令和3年度との比較では、『満足している』は3.1ポイント減少、『不満である』は5.8ポイント減少、「どちらでもない」は8.6ポイント増加となった。
- 年代別でみると、『満足している』と回答した割合は18歳～29歳の22.3%が最も高く、次いで70歳以上が14.1%となった。最も低い30歳代が7.5%となり、最も高い18歳～29歳とは、14.8ポイントの差がみられた。
- 「どちらでもない」が77.3%と非常に大きな割合を占めることから、男女共同参画社会が身近なものとして感じられていないなどの理由が推察される。また、年代別において、『満足している』割合が18歳～29歳の若年層で最も高いのに対し、30歳代以上では低いことから、より一層の男女共同参画推進の意識啓発を図る取り組みを進める必要がある。

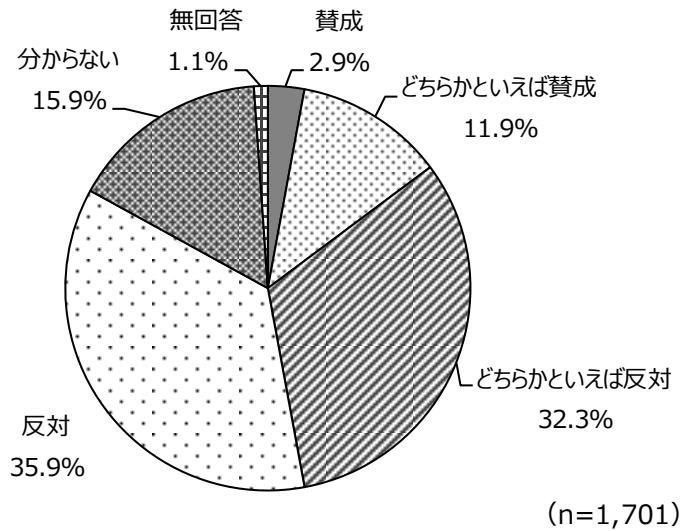
【年代別】



問 34 男女共同参画に関わる意識の変化についてお聞きします。

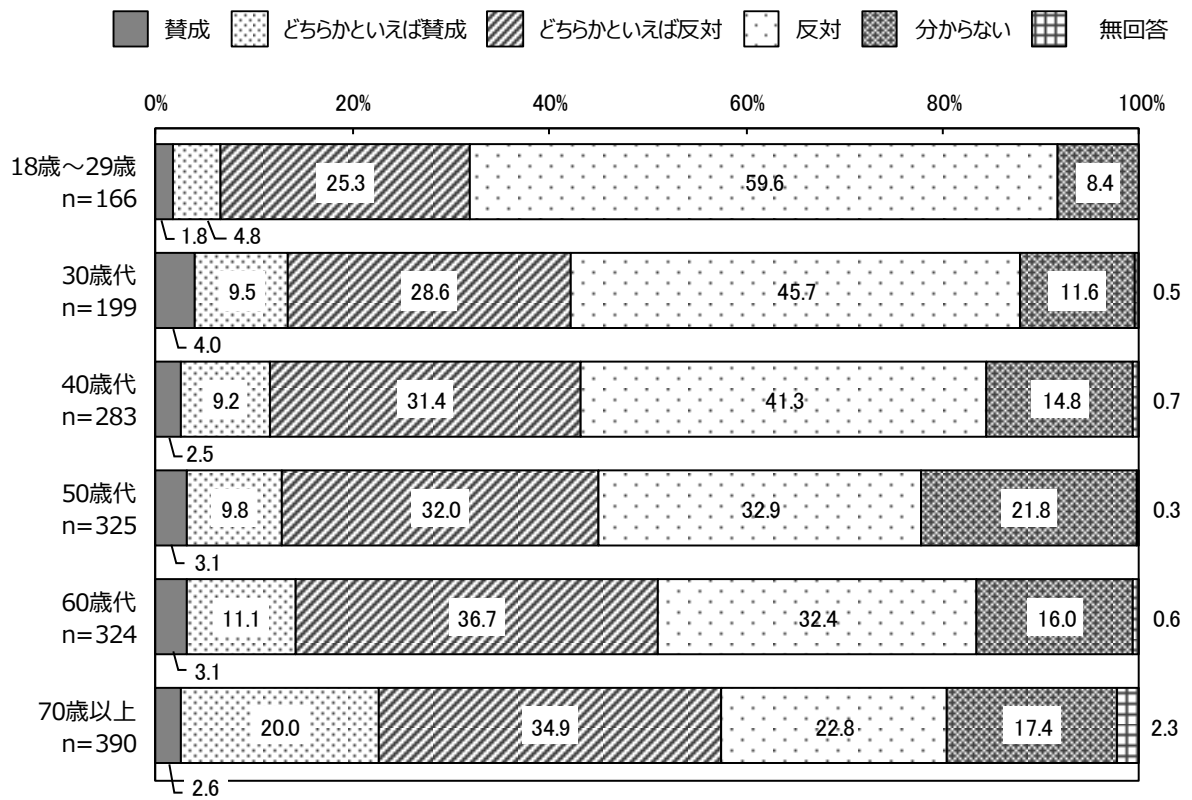
「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」というような男女の役割を固定的に考えることについて、あなたはどのように思いますか。(1つだけ○を付けてください)

男女の役割を固定的に考えることについて『反対である』人は 68.2%



- 「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた『賛成である』は 14.8%となった。「どちらかといえば反対」と「反対」を合わせた『反対である』は 68.2%となり、『反対である』が『賛成である』を 53.4 ポイント上回った。一方で「分からない」は 15.9%を占めた。
- 年代別で見ると、『反対である』と回答した割合は、18 歳～29 歳の 84.9%が最も高く、次いで 30 歳代の 74.3%となった。最も低い 70 歳代は 57.7%となり、最も高い 18～29 歳とは 27.2 ポイントの差がみられた。年齢層が高いほど性別によって役割を固定的に考える傾向にある結果となり、幅広い年代への男女共同参画の意識啓発を図る取り組みを進める必要がある。

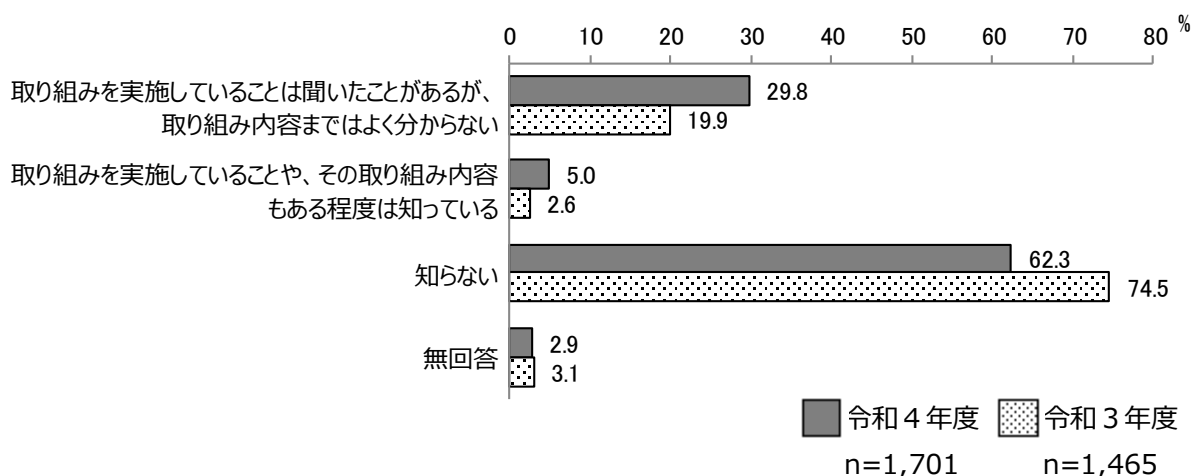
【年代別】



## 2-12 デジタルを活用したまちづくりについて

問 35 あなたは、令和2年度に「デジタル・スマートシティ構想」を策定するなど、浜松市が「デジタルを活用したまちづくり」に取り組んでいることをご存じですか。  
(1つだけ○を付けてください)

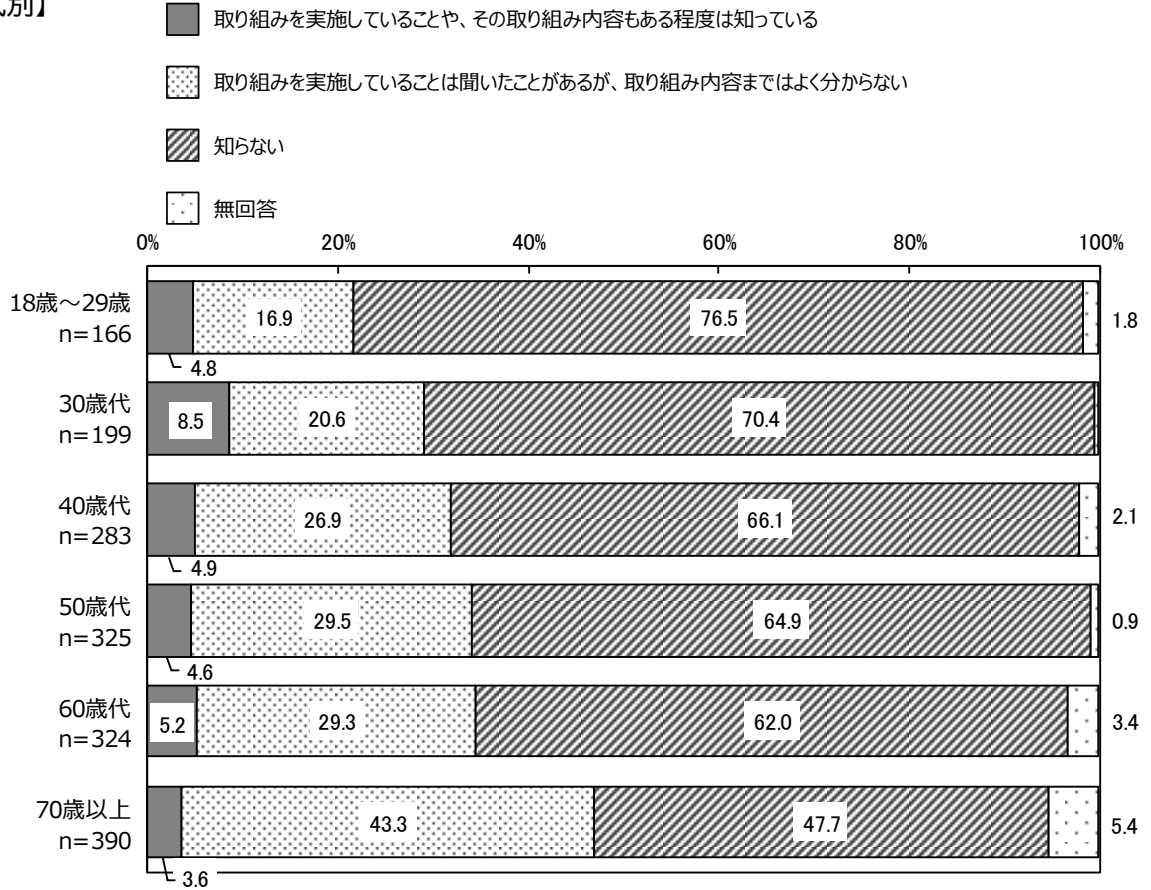
デジタル・スマートシティ政策を推進していることを『知っている』人は34.8%



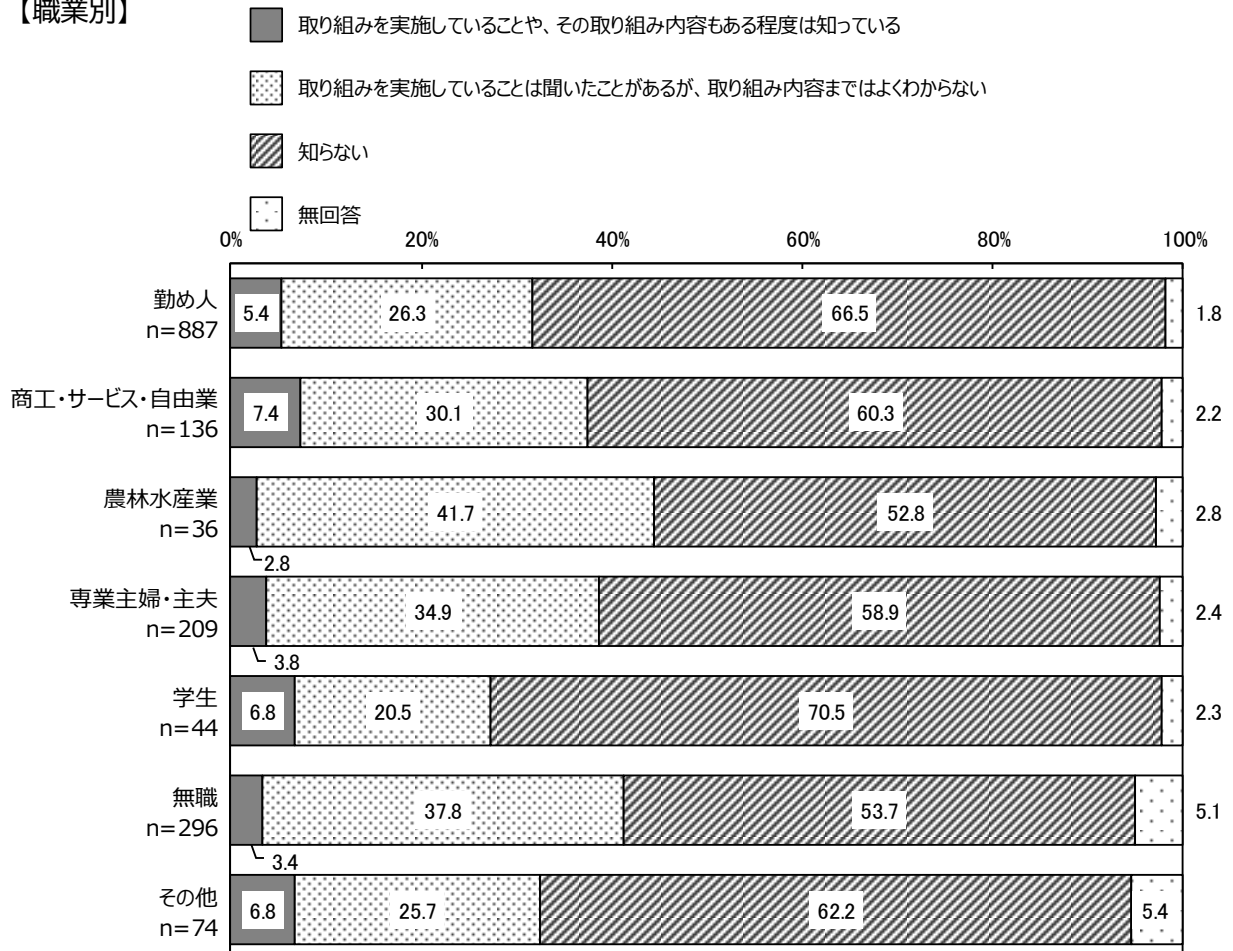
- 「取り組みを実施していることや、その取り組み内容もある程度は知っている」と「取り組みを実施していることは聞いたことがあるが、取り組み内容まではよくわからない」を合わせた『知っている』は、令和3年度と比較して、12.3ポイント増の34.8%となった一方で、62.3%は「知らない」と回答している。
- 年代別で見ると、『知っている』は70歳以上の46.9%が最も高く、次いで60歳代の34.5%となった。「知らない」と回答した割合は60歳代以下の年代で6割を超え、18歳～29歳の76.5%が最も高い。
- 職業別で見ると、『知っている』は農林水産業の44.5%が最も高く、次いで無職の41.2%となった。「知らない」と回答した割合はすべての職業で5割を超え、学生の70.5%が最も高い。



【年代別】



【職業別】



【問 36 と問 35 の設問間クロス集計】

- 問 36 の「デジタルを活用したまちづくり」についての考え別でみると、取り組みを知っている人では「中山間地域でのオンライン診療、画像診断など医療の地域格差を緩和することができる」の 42.2%が最も高く、次いで「個人情報の流出やプライバシーの侵害などの危険がある」の 39.4%となった。また、「デジタル化が進むことについていけない」と回答した人は 30.8%となり、「その他」を除いた項目の中で最も低い。

(単位：%)

		問35 「デジタルを活用したまちづくり」への取り組み			
		内容 また でこ はよ くあ 分る か ら な い り こ 組 み は	知 つ て 取 り 組 み を 実 施 し て い る こ と は	知 ら な い	無 回 答
問 36	暮らしや仕事に必要な情報が手軽に入手しやすくなる n=692	31.8	6.2	59.8	2.2
ー	買い物や送金、納付などキャッシュレス決済などで生活が便利になる n=542	26.9	7.4	64.4	1.3
デ	対面ではなくリモートワークなどで仕事や暮らしの交流がしやすくなる n=173	23.7	9.2	65.9	1.2
ジ	仕事や趣味、市民活動などの場面でさまざまな人とつながることができる n=184	31.0	6.0	58.7	4.3
タ	産業や観光の国内外への情報発信が広がって市場が開拓され活性化し地域経済が豊かになる n=172	28.5	7.0	63.4	1.2
を	中山間地域でのオンライン診療、画像診断など医療の地域格差を緩和することができる n=270	34.8	7.4	55.6	2.2
活	オンライン授業など、子供や学生の教育方法に選択肢ができる n=265	28.7	7.2	61.5	2.6
用	個人情報の流出やプライバシーの侵害などの危険がある n=604	35.3	4.1	59.4	1.2
し	デジタル化が進むことについていけない n=338	27.8	3.0	66.9	2.4
た	デジタルを利用できる人とできない人との間に格差が生じる n=856	32.6	3.4	62.1	1.9
ま	人と人との対面での直接的な交流が少なくなる n=318	34.6	1.6	61.3	2.5
ち	大都市圏の I T 企業に資本が集中する n=46	28.3	8.7	60.9	2.2
づ	その他 n=33	21.2	3.0	72.7	3.0

【問 37 と問 35 の設問間クロス集計】

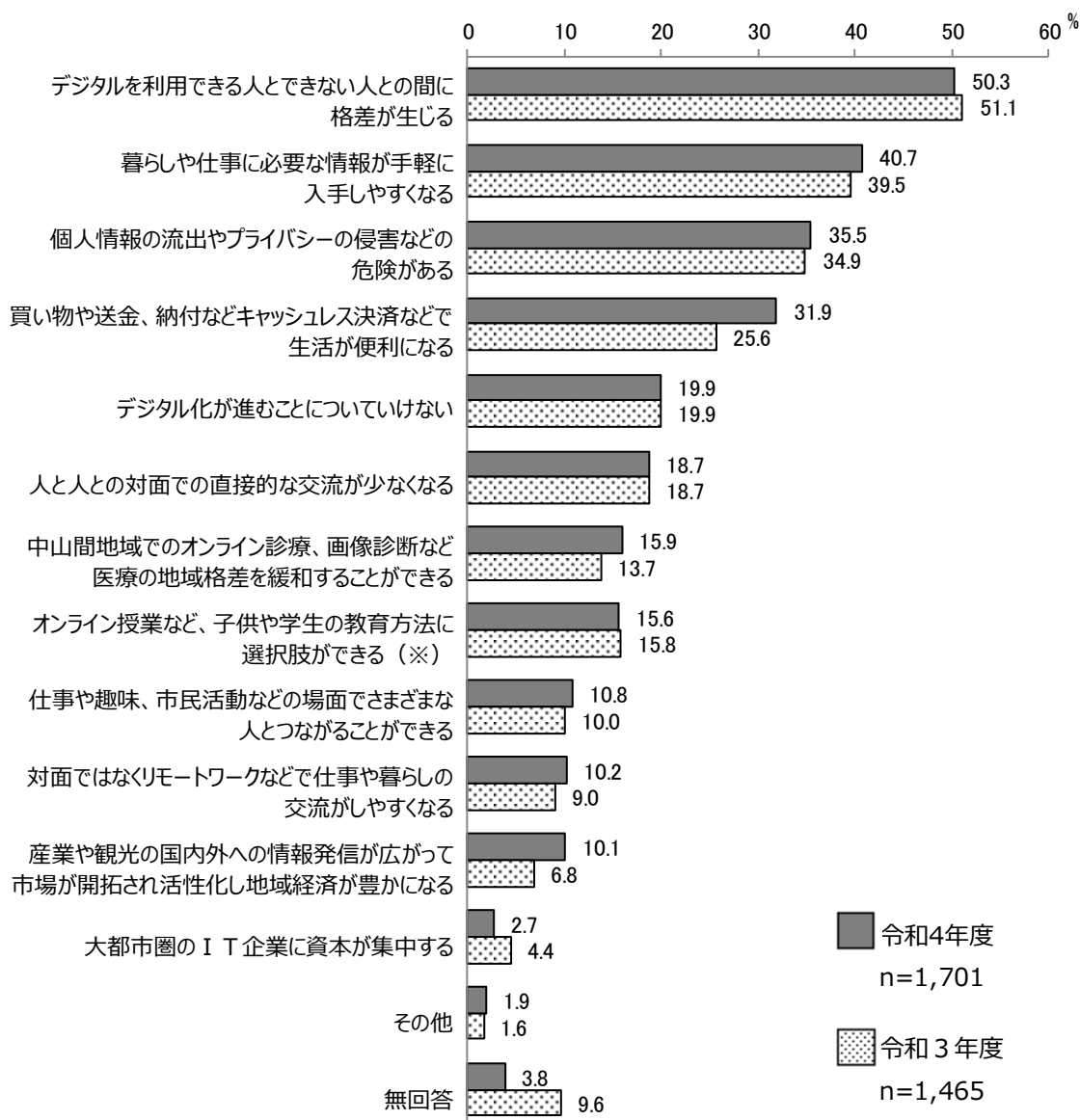
- 問 37 の先端技術やデータを活用すべきだと思う分野別でみると、取り組みを知っている人では「文化・スポーツ・生涯学習（スマートフォンの講習など）」の 42.7% が最も高く、次いで「エネルギー・環境・ごみ（利用データを活用したエネルギーの効率的な運用など）」の 42.6% となった。また、「労働（テレワークの促進など）」は 25.3% となり、「その他」を除いた項目の中で最も低い。

(単位：%)

		問35 「デジタルを活用したまちづくり」への取り組み			
		内容 また でこ みは よ く 分 か ら な い 組 み は	取 組 み を 実 施 し て い る こ と は	知 り あ ら ず な い	無 回 答
問 37 先 端 技 術 や デ ー タ を 活 用 す べ き だ と 思 う 分 野	健康・医療・福祉（オンライン診療・医療データの活用など） n=1093	29.6	5.9	62.4	2.0
	防災・安全（センサーを活用した高齢者の見守りなど） n=851	34.9	4.9	58.2	2.0
	教育・子育て（オンラインでの子育て相談など） n=369	28.2	7.0	63.1	1.6
	交通（自動運転・ドローン配送など） n=315	32.1	4.8	61.6	1.6
	観光・商業（人流データを活用した観光施策など） n=156	28.8	1.9	67.9	1.3
	エネルギー・環境・ごみ（利用データを活用したエネルギーの効率的な運用など） n=371	38.0	4.6	54.7	2.7
	農林業（ドローンによる農薬散布など） n=115	27.0	7.0	63.5	2.6
	産業（データやAIを活用した工場の生産性向上など） n=148	31.1	3.4	62.2	3.4
	文化・スポーツ・生涯学習（スマートフォンの講習など） n=138	39.1	3.6	53.6	3.6
	労働（テレワークの促進など） n=138	18.1	7.2	73.2	1.4
	移住・定住（オンラインでの移住相談など） n=31	35.5	0.0	64.5	0.0
	市役所の各種手続き（行政手続きのオンライン化など） n=619	28.4	6.1	64.3	1.1
	その他 n=29	20.7	3.4	72.4	3.4

問 36 あなたは、「デジタルを活用したまちづくり」について、どのようにお考えですか。  
 (3つまで○を付けてください)

「デジタルを活用したまちづくり」について、「暮らしや仕事に必要な情報が手軽に入手しやすくなる」と考える人は 40.7%、一方で「デジタルを利用できる人とできない人との間に格差が生じる」と考える人は 50.3%



※ 令和3年度調査では、「コロナ禍でのオンライン授業など、子供や学生の教育方法に選択肢ができる」となっている。

- 「デジタルを利用できる人とできない人との間に格差が生じる」が 50.3%と最も高く、次いで「暮らしや仕事に必要な情報が手軽に入手しやすくなる」が 40.7%、「個人情報の流出やプライバシーの侵害などの危険がある」が 35.5%となった。令和3年度との比較では、「買い物や送金、納付などキャッシュレス決済などで生活が便利になる」は 6.3 ポイント増加となった。

- ▶ 年代別でみると、30歳代以下では「買い物や送金、納付などキャッシュレス決済などで生活が便利になる」、40歳代では「暮らしや仕事に必要な情報が手軽に入手しやすくなる」、50歳代以上では「デジタルを利用できる人とできない人との間に格差が生じる」がそれぞれ最も高い。高齢になるほど「デジタルを利用できる人とできない人との間に格差が生じる」が高くなる一方で、若年になるほど「買い物や送金、納付などキャッシュレス決済などで生活が便利になる」が高くなる傾向にある。
- ▶ 職業別でみると、学生以外の職業では「デジタルを利用できる人とできない人との間に格差が生じる」が最も高い。「デジタルを利用できる人とできない人との間に格差が生じる」を除いた項目でみると、勤め人、農林水産業、その他では「暮らしや仕事に必要な情報が手軽に入手しやすくなる」、学生では「買い物や送金、納付などキャッシュレス決済などで生活が便利になる」が最も高い。また農林水産業では同率で「個人情報の流出やプライバシーの侵害などの危険がある」も高い。商工・サービス・自由業、専業主婦・主夫、無職では「個人情報の流出やプライバシーの侵害などの危険がある」が最も高い。

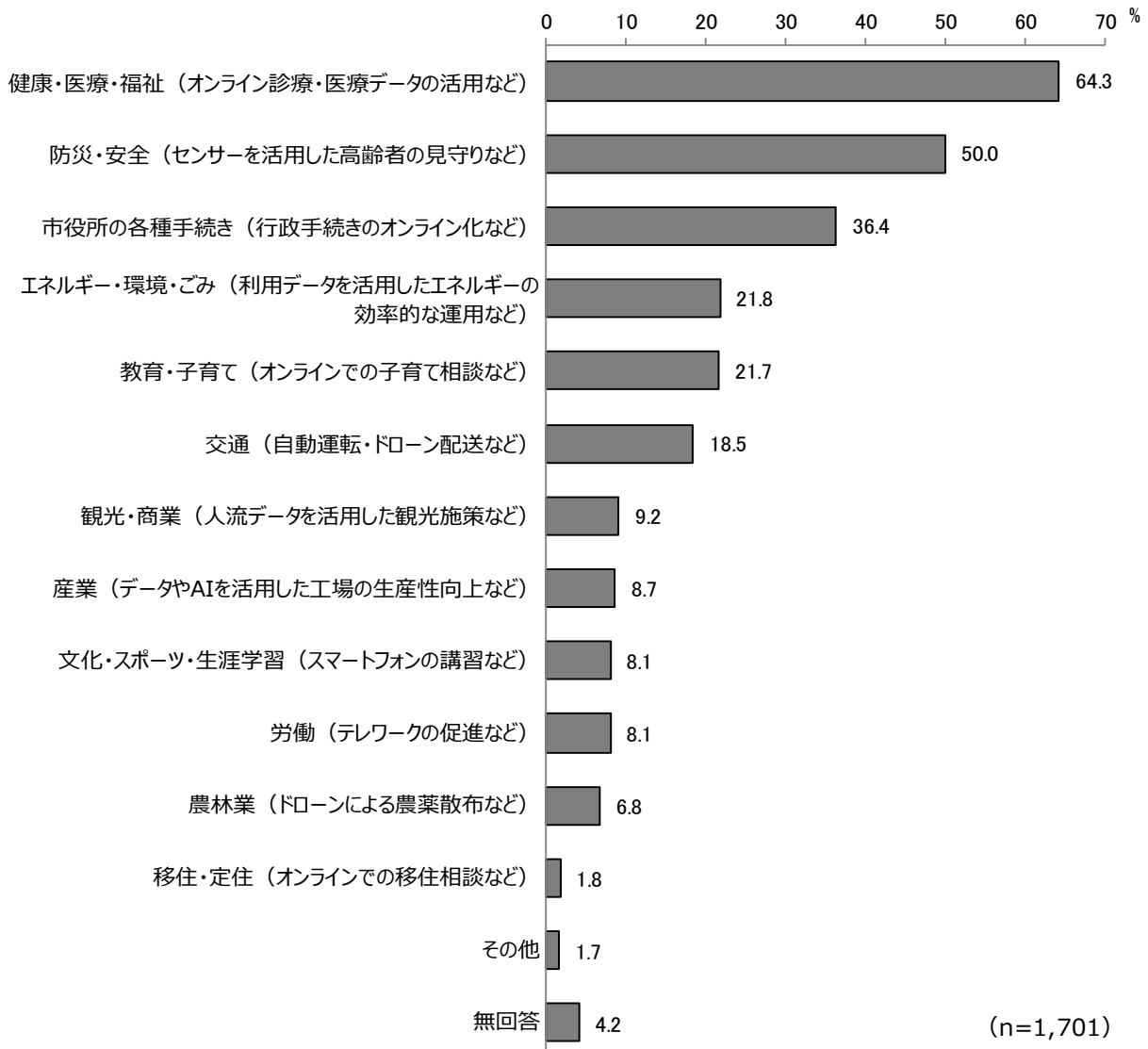
【年代別・職業別】

(単位：%)

	デジタルを利用できる人とできない人との間に格差が生じる	暮らしや仕事に必要な情報が手軽に入手しやすくなる	個人情報の流出やプライバシーの侵害などの危険がある	買い物や送金、納付などキャッシュレス決済が便利になる	デジタル化が進むことについていけない	人と人の対面での直接的な交流が少なくなる	中山間地域のオンライン診療、画像診断など医療の地域格差を緩和することができない	オンライン授業など、子供や学生の教育方法に選択肢ができる	仕事や趣味、市民活動などの場面でさまざまなつながることができない	対面ではなくリモートワークなどで仕事や暮らしの交流がしやすくなる	市場が開拓され活性化し地域経済が豊かになる	産業や観光の国内外への情報発信が広がっている	大都市圏のIT企業に資本が集中する	その他	無回答
年代別	18歳～29歳 n=166	29.5	45.8	28.9	55.4	6.0	13.3	13.9	18.1	15.7	22.3	14.5	3.0	2.4	0.6
	30歳代 n=199	34.7	47.2	23.1	53.8	6.0	9.5	13.6	27.1	14.1	22.6	8.0	4.0	2.0	3.0
	40歳代 n=283	43.5	44.2	27.6	42.8	10.2	15.5	17.7	27.6	11.0	12.7	11.0	3.2	1.1	2.8
	50歳代 n=325	57.8	44.0	48.0	31.1	16.3	17.8	16.9	13.5	8.9	7.4	12.0	1.2	1.5	1.2
	60歳代 n=324	61.4	41.7	38.6	16.4	27.2	25.3	17.3	9.0	9.6	6.2	9.9	3.4	2.2	2.8
	70歳以上 n=390	56.9	29.2	38.2	16.7	37.2	23.1	14.9	7.4	9.7	2.6	7.4	2.3	2.3	8.2
職業別	勤め人 n=887	45.4	44.9	32.8	39.2	13.5	16.9	16.2	17.9	11.7	12.6	10.1	2.9	1.7	2.9
	商工・サービス・自由業 n=136	50.0	34.6	35.3	33.8	22.1	17.6	15.4	15.4	11.0	8.8	11.8	4.4	2.9	4.4
	農林水産業 n=36	61.1	47.2	47.2	11.1	25.0	30.6	22.2	8.3	8.3	5.6	11.1	0.0	2.8	2.8
	専業主婦・主夫 n=209	60.3	35.9	40.2	21.5	30.6	22.0	16.3	14.8	6.7	5.3	6.7	1.9	1.9	3.3
	学生 n=44	27.3	40.9	27.3	54.5	0.0	15.9	18.2	31.8	15.9	31.8	22.7	2.3	0.0	0.0
	無職 n=296	58.1	32.4	40.5	16.2	31.8	22.3	15.2	7.1	10.8	5.7	10.1	2.7	2.0	6.4
	その他 n=74	62.2	47.3	39.2	31.1	23.0	14.9	12.2	20.3	10.8	5.4	9.5	0.0	1.4	0.0

問 37 あなたは、「デジタルを活用したまちづくり」について、どのような分野に先端技術やデータを活用すべきだとお考えですか。（3つまで○を付けてください）

先端技術やデータを活用すべき分野は「健康・医療・福祉（オンライン診療・医療データの活用など）」と考える人が 64.3%



- 「健康・医療・福祉（オンライン診療・医療データの活用など）」が 64.3%と最も高く、次いで「防災・安全（センサーを活用した高齢者の見守りなど）」が 50.0%、「市役所の各種手続き（行政手続きのオンライン化など）」が 36.4%となった。
- 年代別で見ると、すべての年代で「健康・医療・福祉」が最も高い。「防災・安全」は年齢が高いほど回答した割合も高い傾向がみられ、50歳代以上で5割を超えた。「市役所の各種手続き（行政手続きのオンライン化など）」は30歳代から50歳代で4割を超えた。
- 職業別で見ると、すべての職業で「健康・医療・福祉」が最も高い。学生では「防災・安全」が 34.1%と、全体と比較して 15.9ポイント低く、「教育・子育て」、「交通」、「観光・商業」は全体と比較して 10ポイント以上高い。

【年代別・職業別】

(単位：%)

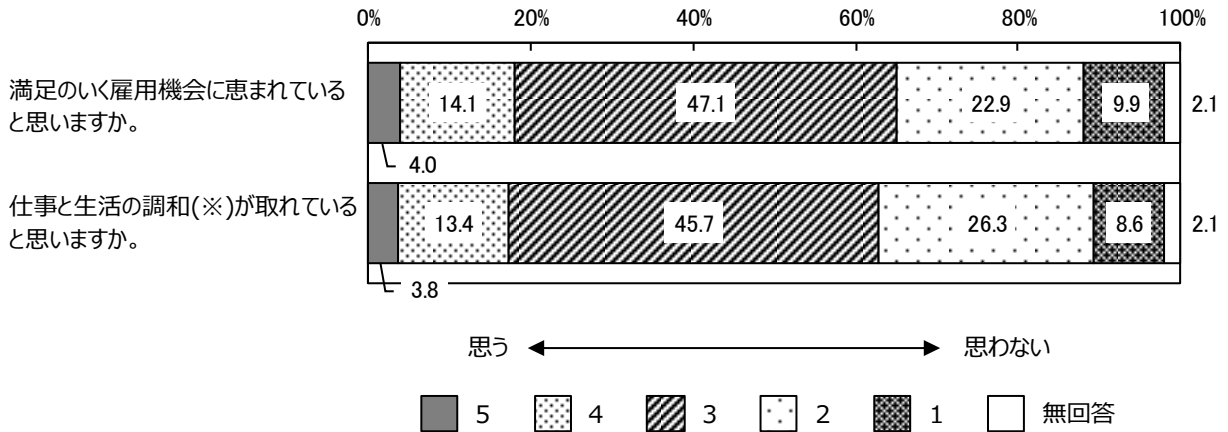
		健康・医療・福祉（オンライン診療・医療データの活用など）	防災・安全（センサーを活用した高齢者の見守りなど）	市役所の各種手続き（行政手続きのオンライン化など）	エネルギー・環境・ごみ（利用データを活用したエネルギーの効率的な運用など）	教育・子育て（オンラインでの子育て相談など）	交通（自動運転・ドローン配送など）	観光・商業（人流データを活用した観光施策など）	産業（データやAIを活用した工場の生産性向上など）	文化・スポーツ・生涯学習（スマートフォンの講習など）	労働（テレワークの促進など）	農林業（ドローンによる農薬散布など）	移住・定住（オンラインでの移住相談など）	その他	無回答
年代別	18歳～29歳 n=166	60.2	36.1	36.1	10.2	27.7	26.5	16.9	12.7	7.8	18.1	7.8	3.0	1.2	2.4
	30歳代 n=199	56.3	36.2	48.2	12.1	39.2	15.6	9.0	12.6	4.5	19.1	8.0	1.5	2.0	4.0
	40歳代 n=283	66.1	46.3	43.8	19.1	30.0	21.2	7.8	9.5	3.2	9.9	7.8	3.2	1.1	2.5
	50歳代 n=325	68.9	55.1	42.8	23.7	16.0	16.6	11.7	7.4	6.8	4.9	4.9	1.5	2.2	0.9
	60歳代 n=324	66.4	56.2	32.1	27.5	16.4	19.1	8.3	6.5	9.3	5.2	6.5	1.5	1.2	4.9
	70歳以上 n=390	64.4	56.4	24.4	27.4	13.3	15.9	5.6	7.2	14.1	2.3	6.7	0.8	2.1	7.7

### 3 浜松市戦略計画 2022 について

問 38 あなたは日常生活の中で、どのように感じていますか。各項目について「思う」から「思わない」まで5段階のうち、それぞれ1つだけ選び○を付けてください。

#### 【若者がチャレンジできるまち】

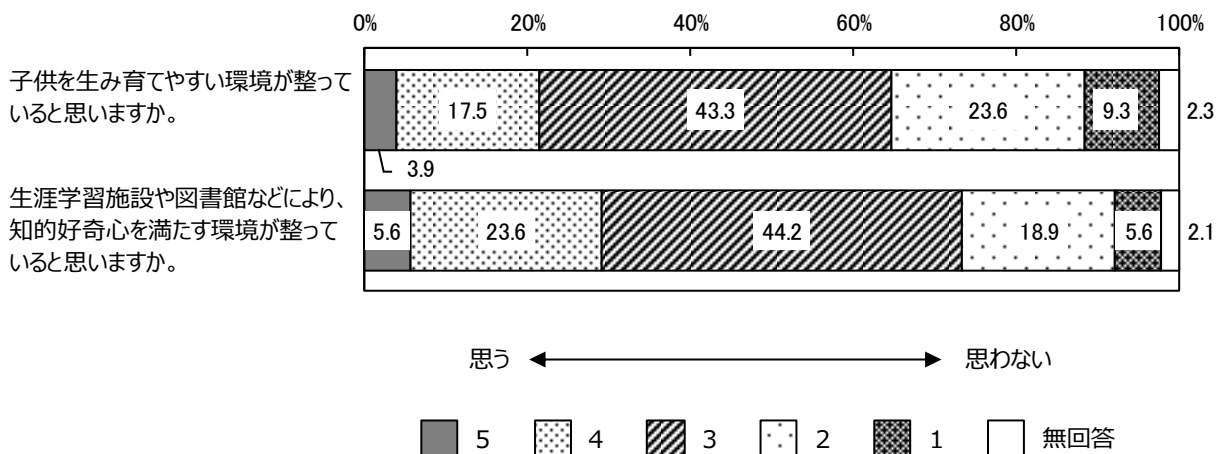
n = 1,701



※ 仕事と家事・育児・介護などと両立すること。

#### 【子育て世代を全力で応援するまち】

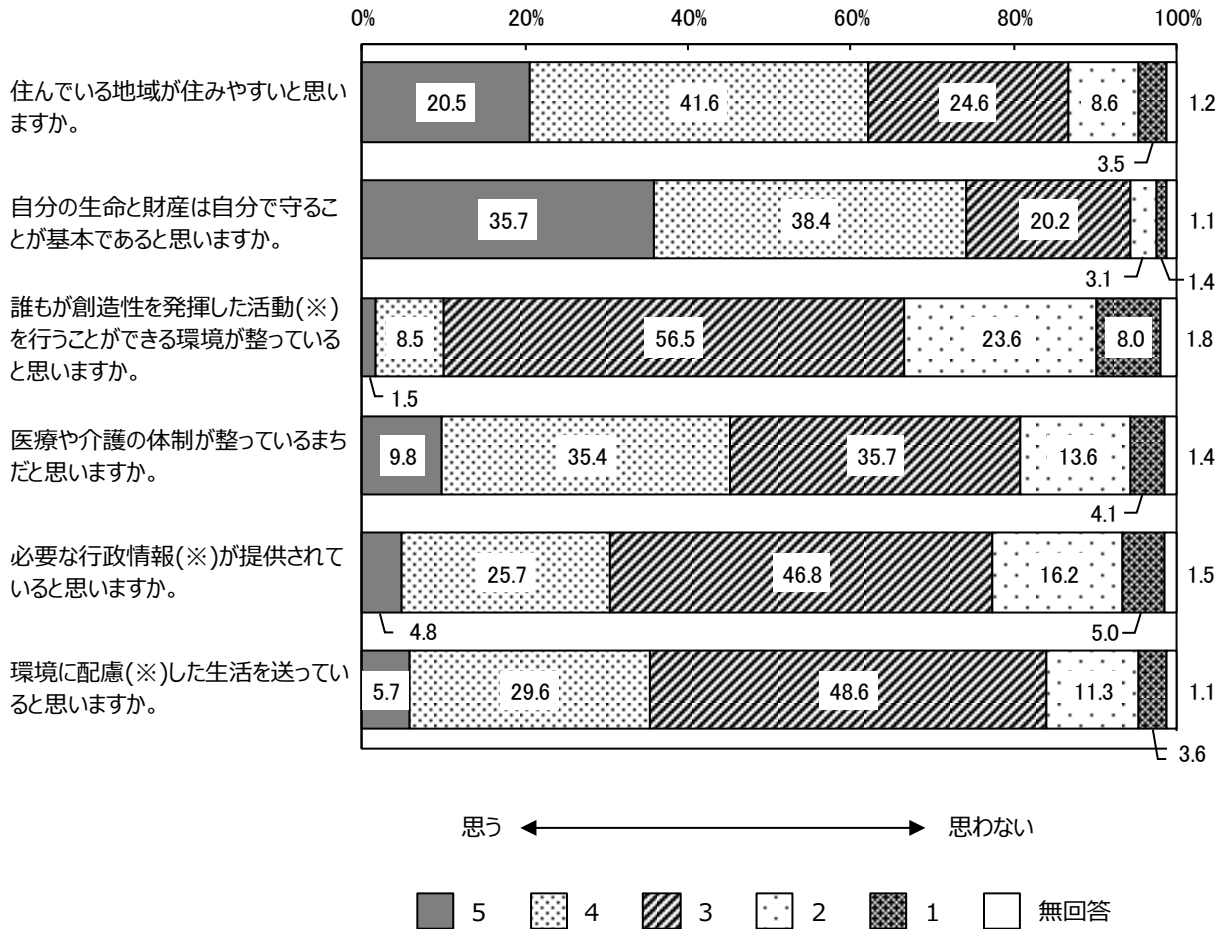
n = 1,701





【持続可能で創造性あふれるまち】

n = 1,701



- ※ 創造性を発揮した活動：固有の文化や産業などの地域資源を生かし、新たな価値やまちの魅力を生み出していく活動。
- ※ 行政情報：各種申請手続き、イベント、事業、予算など浜松市からの情報。
- ※ 環境に配慮：ごみの減量、リサイクルの推進、消費する電力の削減など。

- 評価が「4」と「5」を合わせた『思う』の割合が最も高かった項目は、「自分の生命と財産は自分で守ることが基本であると思いますか。」の74.1%だった。最も低かったのは「誰もが創造性を発揮した活動を行うことができる環境が整っていると思いますか。」の10.0%だった。
- 令和3年度と比較すると、10項目中5項目が上昇となった。最も上昇したのは「医療や介護の体制が整っているまちだと思いますか。」の2.8ポイントであった。一方で最も下降したのは「生涯学習施設や図書館などにより、知的好奇心を満たす環境が整っていると思いますか。」の▲3.5ポイントであった。

【令和3年度調査との比較（プラス幅が大きい順）】

(単位：%)

	令和4年度 結果 (A)	令和3年度 結果 (B)	差 (A-B)
医療や介護の体制が整っているまちだと思いますか。	45.2	42.4	2.8
必要な行政情報が提供されていると思いますか。	30.5	28.8	1.7
住んでいる地域が住みやすいと思いますか。	62.1	60.9	1.2
仕事と生活の調和が取れていると思いますか。	17.2	16.1	1.1
満足のいく雇用機会に恵まれていると思いますか。	18.1	17.2	0.9
自分の生命と財産は自分で守ることが基本であると思いますか。	74.1	74.2	▲ 0.1
子供を生き育てやすい環境が整っていると思いますか。	21.4	22.1	▲ 0.7
環境に配慮した生活を送っていると思いますか。	35.3	37.6	▲ 2.3
誰もが創造性を発揮した活動を行うことができる環境が整っていると思いますか。	10.0	13.3	▲ 3.3
生涯学習施設や図書館などにより、知的好奇心を満たす環境が整っていると思いますか。	29.2	32.7	▲ 3.5

※ A・Bの数値は「5」と「4」を合わせた『思う』の割合

- 上位3項目のうち、「医療や介護の体制が整っているまちだと思いますか。」は3年連続で上昇、「必要な行政情報が提供されていると思いますか。」と「住んでいる地域が住みやすいと思いますか。」は2年連続で上昇した。また、「仕事と生活の調和が取れていると思いますか。」と「満足のいく雇用機会に恵まれていると思いますか。」の項目は、前回は下降したが、今回の調査では上昇となった。前回上昇となった「環境に配慮した生活を送っていると思いますか。」は下降に転じた。

※ 次ページの【性別・年齢別・行政区別】の表は、評価が「5」を10点、「4」を7.5点、「3」を5点、「2」を2.5点、「1」を0点と点数を付けて集計したものである。この数値は、10点に近いほど思う割合が高くなる指数である。

【性別・年代別・行政区別】

◎=6点以上 \* =4点以下 (単位:点)

		若者がチャレンジできるまち		子育て世代を全力で応援するまち		持続可能で創造性あふれるまち					
		満足がいく雇用機会に恵まれていると思いますか。	仕事と生活の調和が取れていると思いますか。	子どもを育てやすい環境が整っていると思いますか。	生涯学習施設や図書館などにより、知的好奇心を満たす環境が整っていると思いますか。	住んでいる地域が住みやすいと思いますか。	自分の生命と財産は自分で守ることが基本であると思いますか。	誰もが創造性を発揮した活動を行うことができる環境が整っていると思いますか。	医療や介護の体制が整っているまちだと思いますか。	必要な行政情報が提供されていると思いますか。	環境に配慮した生活を送っていると思いますか。
性別	男	4.7	4.6	4.6	5.2	◎6.8	◎7.7	4.4	◎6.0	5.2	5.5
	女	4.5	4.4	4.7	5.2	◎6.7	◎7.6	4.4	5.9	5.4	5.7
	選べない	*4.0	*2.8	*3.4	*4.0	4.6	5.3	*4.0	*4.0	*3.4	*4.0
年代別	10歳代	4.8	4.8	5.3	◎6.0	◎7.0	◎7.2	4.8	◎6.7	5.6	5.9
	20歳代	4.7	4.5	4.7	5.5	◎7.5	◎7.6	4.6	◎6.1	5.4	5.7
	30歳代	4.8	4.6	4.6	5.5	◎6.9	◎7.5	4.3	5.8	5.3	5.3
	40歳代	4.8	4.5	4.7	5.2	◎6.8	◎7.4	4.3	5.9	5.4	5.4
	50歳代	4.5	4.5	4.6	5.0	◎6.7	◎7.5	4.2	5.8	5.1	5.4
	60～64歳	4.3	4.6	4.9	5.2	◎6.5	◎8.0	4.3	5.9	5.0	5.9
	65～69歳	4.3	4.2	4.4	4.6	◎6.6	◎8.0	4.4	5.7	5.2	5.7
	70～74歳	4.5	4.6	4.8	5.2	◎6.4	◎7.8	4.4	5.8	5.4	5.8
	75歳以上	4.7	4.7	4.8	5.4	◎6.5	◎7.8	4.5	◎6.3	5.5	◎6.1
行政区	中区	4.7	4.6	4.8	5.3	◎7.1	◎7.9	4.4	◎6.3	5.4	5.7
	東区	4.7	4.4	4.6	5.1	◎6.9	◎7.5	4.5	5.8	5.3	5.6
	西区	4.6	4.5	4.7	5.3	◎6.5	◎7.6	4.3	◎6.0	5.2	5.6
	南区	4.6	4.6	4.6	5.1	◎6.7	◎7.6	4.2	5.8	5.4	5.4
	北区	4.2	4.5	4.7	5.3	◎6.4	◎7.6	4.5	5.9	5.2	5.8
	浜北区	4.5	4.5	4.7	5.1	◎6.8	◎7.4	4.3	5.5	5.0	5.4
	天竜区	*3.9	4.2	*4.0	4.8	5.3	◎7.6	*3.5	4.5	4.8	5.2

- 性別・年代別・行政区別でみると、令和3年度に続き、すべての属性で「自分の生命と財産は自分で守ることが基本であると思いますか。」の指数が最も高い。
- 令和3年度と比較すると、「医療や介護の体制が整っているまちだと思いますか。」では「選べない」、「50歳代」、「65～69歳」、「75歳以上」、「南区」、「浜北区」、「天竜区」を除いた属性で増加となった。最も増加したのは「医療や介護の体制が整っているまちだと思いますか。」の「10歳代」で1.33ポイント増加となり、最も減少したのは「満足のいく雇用機会に恵まれていると思いますか。」の「20歳代」で0.67ポイント減少した。



## 付録 調査票

---



## 令和4年度 市民アンケート調査 (第49回)

日ごろ、市政の推進につきましては、ご理解・ご協力をいただき、ありがとうございます。  
この調査は、市民の皆さまのお考えを市政に生かすために、昭和45年度から実施しているものです。

浜松市では、市民の皆さまが地域活動や市政についてどのように考えているかを調べ、調査結果を今後の市政の充実に活用してまいります。

この調査を実施するにあたり、市内在住の満18歳以上の皆さまの中から無作為に3,000人の方々を選ばせていただきました。お忙しいところ誠にお手数ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご回答くださいますようお願いいたします。

なお、調査結果につきましては、広報はままつや浜松市公式Webサイト（ホームページ）などで報告させていただきます。

令和4年7月 浜松市長 鈴木康友

### <ご回答についてのお願い>

1. 封書のあて名の方が、ご回答くださいますようお願いいたします。
2. ご回答は、各設問に該当する番号を選択肢の中から選んで、○で囲んでください。  
また、「その他」を選んだ方は、その具体的な内容をご記入ください。
3. この調査結果は、上記目的以外に使用することはなく、内容についてご迷惑をお掛けすることはありません。
4. 8月22日(月)までにこの用紙を同封の封筒に入れて、切手を貼らずにご投函ください。
5. ご不明な点は、浜松市役所 広聴広報課 市民コールセンターグループ  
☎(053)457-2023 へお問い合わせください。

## ～ あなたはご存じですか？ ～

問1 次の項目について、あなたをご存じですか。1～3のうちから1つ選んで○を付けてください。

① 市制記念日 ※浜松市では市制施行を記念して、7月1日を市制記念日として定めています。	1 知っている		2 知らない
② ふれあい交流センター ※高齢者の生きがいづくり・健康づくりや地域の子育て支援、高齢者と子供の世代を超えた交流の場として活用することを目的とした施設です。 ※「ふれあい交流センターいたや」などの名称があり、市内12カ所に設置されています。	1 名称や内容がある程度知っている	2 名称は聞いたことがある	3 名称も内容も知らない
③ カーボンニュートラル ※地球上の温室効果ガスの排出量と吸収量・除去量を均衡させることであり、実現を目指した取り組みが進められています。 ※浜松市でも、脱炭素政策およびエネルギー政策の強化を図り、持続可能な社会の構築を進めてまいります。	1 名称や内容がある程度知っている	2 名称は聞いたことがある	3 名称も内容も知らない
④ 生物多様性 ※生物多様性とは、生き物の豊かな個性とつながりのことです。すべての生き物には違い（「生態系の多様性」、「種の多様性」、「遺伝子の多様性」）があり、互いにつながり合い、支え合って生きています。	1 名称や内容がある程度知っている	2 名称は聞いたことがある	3 名称も内容も知らない

## ～ SDGsの達成に向けて ～

(SDGs:Sustainable Development Goals)



SDGs(エスディーゼーズ)とは、2015年(平成27年)に開催された国連サミットにおいて採択された「持続可能な開発目標」のことで、2030年までに達成すべき17の国際社会共通の目標です。

貧困や飢餓、経済成長、気候変動など、21世紀の世界が抱える問題を、世界中の人々、企業などが連携して解決することを目指しています。

本市は、SDGsの達成に向けて先進的な取り組みを行っている自治体として国より、「SDGs未来都市」に選ばれ、再生可能エネルギー、林業や多文化共生など、SDGsの達成に向けた取り組みを行っています。

※本アンケートの各設問に、関連するSDGsのアイコンを表示しています。

問2 あなたは「SDGs」をご存じですか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 名称や内容も知っている      2. 名称だけは知っている      3. 名称も内容も知らない



## 《再生可能エネルギーについて》



7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに  
関連事業：太陽光発電の導入ほか

浜松市では、エネルギー・スマートシティの実現に向け、市民や事業者の皆さまと一体となった再生可能エネルギー（RE：renewable energy）の導入拡大などにより、2050年（令和32年）までに「二酸化炭素排出実質ゼロ」を目指す「浜松市域“RE100”」に向けた取り組みを推進しています。

問3 あなたは「再生可能エネルギー※」について関心がありますか。

（1つだけ○を付けてください）

- |          |          |              |
|----------|----------|--------------|
| 1. 関心がある | 2. 関心がない | 3. どちらともいえない |
|----------|----------|--------------|

※再生可能エネルギーとは、石油などの化石エネルギーではなく、太陽光・風力・水力・地熱・太陽熱・大気中の熱その他の自然界に存在する熱・バイオマスなど非化石エネルギー由来のエネルギーのことです。

問4 あなたのご家庭では、「再生可能エネルギー」から作られた電気や熱を使用することについて関心がありますか。

（1つだけ○を付けてください）

- |          |          |              |
|----------|----------|--------------|
| 1. 関心がある | 2. 関心がない | 3. どちらともいえない |
|----------|----------|--------------|

問5 問4について、「再生可能エネルギー」から作られた電気や熱を使用するにあたっての判断材料となるものは何ですか。

（あてはまるものすべてに○を付けてください）

- |                              |
|------------------------------|
| 1. 環境にやさしいエネルギーであること         |
| 2. 光熱費が安く抑えられること             |
| 3. 家庭で使用する電力や熱をすべて賄うことができること |
| 4. 災害時においても使用できること           |
| 5. 分からない                     |

問6 あなたのご家庭では、「再生可能エネルギー」の活用機器（太陽光発電、太陽熱利用など）を既に導入していますか。

（あてはまるものすべてに○を付けてください）

- |   |
|---|
| 1. 太陽光発電設備を導入している                                 |
| 2. 太陽熱利用設備を導入している                                 |
| 3. 蓄電池を導入している                                     |
| 4. エネファーム（家庭用燃料電池）を導入している                         |
| 5. V2H対応型充電設備（電気自動車（EV）に蓄えた電気を家庭で利用するシステム）を導入している |
| 6. その他の設備を導入している                                  |
| 7. いずれも導入していないが、導入したいと考えている                       |
| 8. いずれも導入していないし、導入する考えもない                         |

## 《F S C森林認証について》



11 住み続けられるまちづくり  
 12 つくる責任 つかう責任  
 13 気候変動に具体的な対策を  
 15 陸の豊かさも守ろう  
 関連事業：森林認証推進事業、  
 FSC 認証材利用拡大推進事業

浜松市では、国際的な認証制度であるF S C森林認証に基づく持続可能かつ適切な森林経営と、天竜材・天竜材製品の流通・販路拡大に取り組んでいます。

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会では、関連施設（有明体操競技場、選手村ビレッジプラザなど）に浜松市の「F S C森林認証」の森林から生産された木材が使用されました。

問7 あなたは「F S C森林認証※」をご存じですか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 名称も内容も知っている      2. 名称だけは知っている      3. 名称も内容も知らない

※「F S C森林認証」とは森林が適切に管理されているかを、世界基準に沿って審査、認証する仕組みです。

問8 あなたは「F S C森林認証」の森林を、浜松市が市町村別で最も広い面積（約 49,441ha（令和4年4月1日現在））を有していることをご存じですか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 知っている      2. 知らない

## 《多文化共生について》



4 質の高い教育をみんなに  
 10 人や国の不平等をなくそう  
 17 パートナーシップで目標を達成しよう  
 関連事業：外国人の子供の教育支援、国際交流連携推進事業、国際理解教育講座ほか

浜松市には令和4年4月1日時点で約 25,000 人の外国人が住んでいます。こうした中で、浜松市は多様性を生かした社会を築くために取り組んでいます。また、国際的なつながりを通して都市の魅力を高めています。

問9 あなたは、浜松市が行っている多文化共生の取り組みのうち、最も力を入れるべき取り組みはどれだと考えますか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 外国人の子供の教育支援      2. 日本語の習得支援  
 3. 生活や行政情報の多言語による提供      4. 防災訓練などの地域社会への参画促進  
 5. 多文化共生に関する啓発や教育、理解促進      6. 交流・異文化体験の機会拡大  
 7. 生活ルールの順守と社会的義務の遂行      8. 多様性を生かした地域の活性化

問10 外国人市民との相互理解や交流を深める共生社会づくりに向けた浜松市の取り組みについて、どのように感じていますか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 満足    2. どちらかといえば満足    3. どちらでもない    4. どちらかといえば不満    5. 不満

問11 あなたは、浜松市が行っている国際化の取り組みのうち、最も力を入れるべきものはどれだと考えますか。

(1つだけ○を付けてください)

- |                          |                     |
|--------------------------|---------------------|
| 1. 海外の都市や国際機関などとの連携      | 2. 国際協力・国際貢献        |
| 3. 市内企業の海外進出・販路開拓支援      | 4. 海外からの観光インバウンドの推進 |
| 5. 国際的な音楽・文化・スポーツイベントの開催 | 6. 国際的な市民交流の支援      |

問12 姉妹都市や友好都市などの世界の人々との活発な市民交流に向けた浜松市の取り組みについて、どのように感じていますか。

(1つだけ○を付けてください)

- |       |               |            |               |       |
|-------|---------------|------------|---------------|-------|
| 1. 満足 | 2. どちらかといえば満足 | 3. どちらでもない | 4. どちらかといえば不満 | 5. 不満 |
|-------|---------------|------------|---------------|-------|

## 《消費生活について》



12つくる責任 つかう責任

関連事業：エシカル消費（フェアトレードなど）の普及・啓発ほか

浜松市では、私たちの消費行動が、現在およびこれからの社会・経済や環境に影響を及ぼすことを自覚して、よりよい社会にしようとする「消費者市民社会」の形成に取り組んでいます。

問13 あなたは買い物をするとき、人や社会、地域、環境に配慮した製品やサービスを選んでいきますか。

(1つだけ○を付けてください)

- |             |              |              |
|-------------|--------------|--------------|
| 1. 常に意識している | 2. たまに意識している | 3. 全く意識していない |
|-------------|--------------|--------------|

問14 問13のことを「エシカル消費」といいますが、あなたはご存じですか。

(1つだけ○を付けてください)

- |                |               |               |
|----------------|---------------|---------------|
| 1. 名称や内容も知っている | 2. 名称だけは知っている | 3. 名称も内容も知らない |
|----------------|---------------|---------------|

問15 あなたは、フェアトレード※商品を買ったことがありますか。

(1つだけ○を付けてください)

- |       |                            |       |
|-------|----------------------------|-------|
| 1. ある | 2. フェアトレードは知っているが、買ったことはない | 3. ない |
|-------|----------------------------|-------|

※フェアトレードとは、開発途上国で作られた作物や製品を「適正な価格」で「継続的に取り引き」する「貿易のしくみ」により、立場の弱い小規模生産者や労働者の生活改善と自立を目指す取り組みです。

問16 浜松市がフェアトレードタウン※であることをご存じですか。

(1つだけ○を付けてください)

- |                |               |               |
|----------------|---------------|---------------|
| 1. 名称や内容も知っている | 2. 名称だけは知っている | 3. 名称も内容も知らない |
|----------------|---------------|---------------|

※ フェアトレードタウンとは、市民団体や商店・企業・行政などが連携し、「まちぐるみ」でフェアトレードの輪を広げていく自治体のことです。

## 《防災対策について》



11住み続けられるまちづくりを  
13気候変動に具体的な対策を  
関連事業：災害に強いまちづくりの推進

浜松市は、地域防災の推進として地域の特徴や災害事象などを考慮し、市民一人一人が、確実に防災情報を入手することができる多様な手段の確保を進めています。また、市民へ防災知識の普及・啓発を図り、市民の自助・地域の共助に対する活動を推進しています。

問17 浜松市が行っている防災対策のうち、あなたのご存じのものをお選びください。

(あてはまるものすべてに○を付けてください)

1. 避難所に避難する人の1日分の食糧備蓄を行っていること
2. 津波・水害のハザードマップの公開
3. 土砂災害危険箇所の周知
4. 住宅の無料耐震診断や耐震補強工事へ補助金を出していること
5. 家具固定の普及啓発や高齢者世帯への固定器具取付作業代の補助金を出していること
6. 携帯電話、スマートフォンなどの端末に、防災情報を提供していること
7. 橋の耐震対策を行っていること
8. 市民を対象にした防災講座や防災イベントを行っていること
9. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）
10. どれも知らない

問18 あなたが災害情報などの危機管理に関する情報を得る手段を教えてください。

(あてはまるものすべてに○を付けてください)

1. テレビ
2. ラジオ
3. 防災行政無線（屋外スピーカー、戸別受信機）
4. 携帯電話、スマートフォン、タブレット
5. パソコン

問19 あなたの災害情報などの主な取得先はどれですか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 浜松市公式ホームページ
2. 気象庁ホームページ（キキクル）
3. 民間気象サイト（ウェザーニュース、日本気象協会、yahoo! 気象・災害など）
4. ふじのくに静岡県公式ホームページ（サイポスレーダー、土砂災害情報マップなど）
5. テレビ（Lアラート※） ※リモコンのdボタンによる情報
6. ラジオ（FMハローなど）
7. 特にない
8. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）

## 《文化振興について》



4 質の高い教育をみんなに  
関連事業：市民音楽文化振興事業ほか

浜松市では、「文化で市民の幸せを創り出す都市」を目標に定め、誰もが気軽に多様な文化を楽しむことができ、暮らしの豊かさや都市の活力につながるまちづくりを推進しています。

問20 あなたは、過去1年間にどのような文化芸術に取り組みましたか。鑑賞などサービスの受け手として楽しんだものを含みます。

(あてはまるものすべてに○を付けてください)

- |         |                |                      |        |        |            |
|---------|----------------|----------------------|--------|--------|------------|
| 1. 文学   | 2. 音楽          | 3. 美術                | 4. 写真  | 5. 演劇  | 6. 舞踊      |
| 7. 民俗芸能 | 8. 茶道          | 9. 華道                | 10. 書道 | 11. 工芸 | 12. メディア芸術 |
| 13. 歴史  | 14. 特に取り組んでいない | 15. その他（具体的に： _____） |        |        |            |

問21 あなたは音楽のまちづくりをはじめとする文化事業の浜松市の取り組みについて、どのように感じていますか。

(1つだけ○を付けてください)

- |       |               |            |               |       |
|-------|---------------|------------|---------------|-------|
| 1. 満足 | 2. どちらかといえば満足 | 3. どちらでもない | 4. どちらかといえば不満 | 5. 不満 |
|-------|---------------|------------|---------------|-------|

## 《健康づくりについて》



3 すべての人に健康と福祉を  
関連事業：健康はままつ21推進事業ほか

浜松市では、市民一人一人が生きがいを持ち、生き生きと生活できる「健康都市 浜松」の実現を目指した健康施策に取り組んでいます。

問22 あなたは、日ごろ健康のために何か取り組んでいることはありますか。

(1つだけ○を付けてください)

- |                            |
|----------------------------|
| 1. 取り組んでいる                 |
| 2. 今は取り組んでいないが、今後取り組んでいきたい |
| 3. 取り組むつもりはない              |

問23 あなたは、どのような環境が整えば健康づくりに取り組もうと思えますか。すでに取り組んでいる方は、どのような環境が整えばさらに健康づくりに取り組もうと思えますか。

(2つまで○を付けてください)

- |  |
|--|
| 1. 一緒に取り組んでくれる仲間                                     |
| 2. 定期的な健康づくりの情報提供                                    |
| 3. 身近なところで健康について学んだり、参加できたりする場                       |
| 4. 職場などで健康づくりに取り組める働きかけ                              |
| 5. 健康づくりに関するアプリケーションやウェアラブル端末（服や腕などに身につけたまま使える端末）の活用 |
| 6. 自分でできることを自分でするので、環境の整備は特に必要ない                     |
| 7. どのような環境が整っても、取り組むつもりはない                           |

## 《人権について》



16 平和と公正をすべての人に  
関連事業：人権啓発事業ほか

人権は「誰もが幸せに生きていく権利」で身近で大切なものです。浜松市では、お互いの人権が尊重された「思いやりあふれる社会の実現」に向けた取り組みを進めています。

問24 あなたは、人権は重要なことだと思いますか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 思う    2. ときどき思う    3. あまり思わない    4. 思わない    5. 分からない

問25 あなたの周りでは、お互いの人権を守りながら生活できていると感じますか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 思う    2. ときどき思う    3. あまり思わない    4. 思わない    5. 分からない

問26 あなたは、日常生活の中で、あなた自身またはあなたの周りの方(家族や友人、職場の同僚など)の人権が侵害されたと感じたことはありますか。

(1つだけ○を付けてください)

1. ある                                  2. ない                                  3. 分からない

問27 あなたは人権侵害や差別を受けた時に、相談できるところを知っていますか。

(あてはまるものすべてに○を付けてください)

1. 法務局                      2. 県庁や市役所の担当課                      3. 人権擁護委員  
4. 弁護士                      5. 警察署    6. NPOなどの民間団体  
7. その他(具体的に：    )                      8. 知らない

## 《みどりについて》



11 住み続けられるまちづくりを  
関連事業：災害に強いまちづくりの推進

浜松市では、多様なみどりを生かし、「みどりによってまちづくりの課題解決に貢献する」「みどり生活を愉しむ」ことで持続可能なまちづくりに取り組んでいます。

問28 あなたは、次世代に残したいと思うみどり※がありますか。

(「ある」に○を付けた方は、特に残したいと思うものを具体的に記入してください)

1. ある(具体的に：    )                      2. ない

※参考：赤石山脈、猪鼻湖、遠州灘の海岸林、旧東海道松並木、県立森林公園、佐鳴湖、天竜川、天竜美林、富塚椎木谷、浜名湖、浜名湖ガーデンパーク、浜松城公園、姫街道松並木、フラワーパーク、フルーツパーク、万葉の森公園、都田川桜堤、都田総合公園、雄踏総合公園、四ツ池公園、その他身近なみどり など

問29 あなたは、市内の公園を利用しますか。

(1つだけ○を付けてください)

1. よく利用する                                  2. あまり利用しない

問30 問29で「1.よく利用する」と回答された方にお聞きします。主にどのような目的で利用しますか。  
(3つまで○を付けてください)

- |                       |                     |
|-----------------------|---------------------|
| 1. 軽い運動               | 2. 子供の遊び場           |
| 3. 休憩・散策などの場          | 4. 花や鳥など身近な動植物と親しむ場 |
| 5. 森林浴やピクニックなど自然を楽しむ場 | 6. 祭やイベントなど催しの場     |
| 7. 花壇づくりや清掃美化活動の場     | 8. 近所の方との交流の場       |
| 9. 通勤や通学などの通り抜け       |                     |
| 10. その他(具体的に: )       |                     |

## 《ユニバーサルデザイン・男女共同参画について》



3 すべての人に健康と福祉を  
4 質の高い教育をみんなに  
5 ジェンダー平等を実現しよう  
関連事業：ユニバーサルデザイン推進事業、  
男女共同参画推進事業ほか

浜松市では、誰もが安全、安心して快適に暮らすことができる「思いやりの心が結ぶ優しいまち」の実現を目指し、ユニバーサルデザインや男女共同参画社会<sup>※</sup>の推進に取り組んでいます。

※男女共同参画社会とは、男女が共に、対等の立場で、自らの意志によって社会のあらゆる分野に参画できる社会のことです。

問31 あなたは「ユニバーサルデザイン<sup>※</sup>」を知っていますか。

(1つだけ○を付けてください)

- |                |               |               |
|----------------|---------------|---------------|
| 1. 名称や内容も知っている | 2. 名称だけは知っている | 3. 名称も内容も知らない |
|----------------|---------------|---------------|

※ユニバーサルデザインとは、年齢、性別、能力、国籍などに関係なく、誰もが安全、安心して、快適な暮らしができるように「人づくり」や「ものづくり」、「環境づくり」を行っていかこうとする考え方のことです。

問32 あなたは浜松市のユニバーサルデザインによるまちづくり<sup>※</sup>についてどのように感じていますか。

(1つだけ○を付けてください)

- |       |               |            |               |       |
|-------|---------------|------------|---------------|-------|
| 1. 満足 | 2. どちらかといえば満足 | 3. どちらでもない | 4. どちらかといえば不満 | 5. 不満 |
|-------|---------------|------------|---------------|-------|

※浜松市では、施設や道路などにユニバーサルデザインを取り入れた環境を整備するとともに、市政情報や防災情報などの身近な生活情報を誰もが容易に受け取れるよう、さまざまな取り組みを行っています。

問33 あなたは浜松市の男女共同参画社会の実現に向けた取り組み<sup>※</sup>についてどのように感じていますか。

(1つだけ○を付けてください)

- |       |               |            |               |       |
|-------|---------------|------------|---------------|-------|
| 1. 満足 | 2. どちらかといえば満足 | 3. どちらでもない | 4. どちらかといえば不満 | 5. 不満 |
|-------|---------------|------------|---------------|-------|

※浜松市では、男女共同参画を推進するための啓発講座や人材・団体育成支援、情報発信、相談事業など、さまざまな取り組みを行っています。

問34 男女共同参画に関わる意識の変化についてお聞きします。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」というような男女の役割を固定的に考えることについて、あなたはどのように思いますか。

(1つだけ○を付けてください)

- |               |               |
|---------------|---------------|
| 1. 賛成         | 2. どちらかといえば賛成 |
| 3. どちらかといえば反対 | 4. 反対         |
| 5. 分からない      |               |

## 《デジタルを活用したまちづくりについて》



9 産業と技術革新の基礎をつくらう

11 住み続けられるまちづくりを

関連事業：デジタル・スマートシティ推進ほか

浜松市では、全ての市民が安全・安心で幸せに暮らし続けることができる持続可能な都市を築くため、デジタルを活用したまちづくりを推進しています。

問35 あなたは、令和2年度に「デジタル・スマートシティ構想」を策定するなど、浜松市が「デジタルを活用したまちづくり」に取り組んでいることをご存じですか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 取り組みを実施していることや、その取り組み内容もある程度は知っている
2. 取り組みを実施していることは聞いたことがあるが、取り組み内容まではよく分からない
3. 知らない

問36 あなたは、「デジタルを活用したまちづくり」について、どのようにお考えですか。

(3つまで○を付けてください)

1. 暮らしや仕事に必要な情報が手軽に入手しやすくなる
2. 買い物や送金、納付などキャッシュレス決済などで生活が便利になる
3. 対面ではなくリモートワークなどで仕事や暮らしの交流がしやすくなる
4. 仕事や趣味、市民活動などの場面でさまざまな人とつながることができる
5. 産業や観光の国内外への情報発信が広がって市場が開拓され活性化し地域経済が豊かになる
6. 中山間地域でのオンライン診療、画像診断など医療の地域格差を緩和することができる
7. オンライン授業など、子供や学生の教育方法に選択肢ができる
8. 個人情報の流出やプライバシーの侵害などの危険がある
9. デジタル化が進むことについていけない
10. デジタルを利用できる人とできない人との間に格差が生じる
11. 人と人との対面での直接的な交流が少なくなる
12. 大都市圏のIT企業に資本が集中する
13. その他(具体的に： )

問37 あなたは、「デジタルを活用したまちづくり」について、どのような分野に先端技術やデータを活用すべきだとお考えですか。

(3つまで○を付けてください)

1. 健康・医療・福祉(オンライン診療・医療データの活用など)
2. 防災・安全(センサーを活用した高齢者の見守りなど)
3. 教育・子育て(オンラインでの子育て相談など)
4. 交通(自動運転・ドローン配送など)
5. 観光・商業(人流データを活用した観光施策など)
6. エネルギー・環境・ごみ(利用データを活用したエネルギーの効率的な運用など)
7. 農林業(ドローンによる農薬散布など)
8. 産業(データやAIを活用した工場の生産性向上など)
9. 文化・スポーツ・生涯学習(スマートフォンの講習など)
10. 労働(テレワークの促進など)
11. 移住・定住(オンラインでの移住相談など)
12. 市役所の各種手続き(行政手続きのオンライン化など)
13. その他(具体的に： )



## ～ 浜松市戦略計画 2022 について ～

浜松市では、「若者がチャレンジできるまち」「子育て世代を全力で応援するまち」「持続可能で創造性あふれるまち」の3つの基本目標を掲げ、達成に向けて取り組みを進めています。そこで、市民の皆さまの市政に関する現状認識を伺います。

問38 あなたは日常生活の中で、どのように感じていますか。各項目について「思う」から「思わない」まで5段階のうち、それぞれ1つだけ選び○を付けてください。

項 目		選択肢				
		思 う	←————→			思 わ な い
ちん若 シ者 でが きる チャ マレ	満足のいく雇用機会に恵まれていると思いますか。	5	4	3	2	1
	仕事と生活の調和*が取れていると思いますか。 ※仕事と家事・育児・介護などと両立すること	5	4	3	2	1
る全子 ま力育 ちで て 応世 援代 す	子供を生き育てやすい環境が整っていると思いますか。	5	4	3	2	1
	生涯学習施設や図書館などにより、知的好奇心を満たす環境が整っていると思いますか。	5	4	3	2	1
持 続 可 能 で 創 造 性 あ ふ れ る ま ち	住んでいる地域が住みやすいと思いますか。	5	4	3	2	1
	自分の生命と財産は自分で守ることが基本であると思いますか。	5	4	3	2	1
	誰もが創造性を発揮した活動*を行うことができる環境が整っていると思いますか。 ※固有の文化や産業などの地域資源を生かし、新たな価値やまちの魅力を生み出していく活動	5	4	3	2	1
	医療や介護の体制が整っているまちだと思いますか。	5	4	3	2	1
	必要な行政情報*が提供されていると思いますか。 ※各種申請手続き、イベント、事業、予算など浜松市からの情報	5	4	3	2	1
	環境に配慮*した生活を送っていると思いますか。 ※ごみの減量、リサイクルの推進、消費する電力の削減など	5	4	3	2	1

最後にあなたのことについて記入してください。

(項目別に1つだけ○を付けてください)

性別	1. 男	2. 女	3. 選べない
年齢	1. 10歳代 4. 40歳代 7. 65～69歳	2. 20歳代 5. 50歳代 8. 70～74歳	3. 30歳代 6. 60～64歳 9. 75歳以上
国籍	1. 日本 4. フィリピン	2. ブラジル 5. その他( )	3. 中国
職業	1. 勤め人 3. 農林水産業(自営・家族従事者) 4. 専業主婦・主夫 6. 無職	2. 商工・サービス・自由業(自営・家族従事者) 5. 学生 7. その他( )	
居住年数	あなたは浜松市(合併前の旧市町村当時からも含みます)に住んで何年になりますか 1. 3年未満 2. 3年以上5年未満 3. 5年以上10年未満 4. 10年以上20年未満 5. 20年以上		
家族数	あなたを含めて何人で住んでいますか 1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人 5. 5人 6. 6人以上		
居住形態	あなたのお住まいは 1. 持ち家(一戸建て) 2. 持ち家(集合住宅) 3. 借家 4. 賃貸アパート・賃貸マンション 5. 公営住宅 6. 社宅・寮 7. その他		
行政区	あなたがお住まいの行政区は 1. 中区 2. 東区 3. 西区 4. 南区 5. 北区 6. 浜北区 7. 天竜区  行政区が分からない場合は、町名をご記入ください → ( )		

ご協力ありがとうございました。

お手数ですが、8月22日(月)までにご投函ください。





## 令和4年度 市民アンケート調査 報告書

令和4年12月発行

発行	浜松市 企画調整部 広聴広報課
住所	〒430-8652 浜松市中区元城町103番地の2
電話	053-457-2023
F A X	053-457-2028
U R L	<a href="https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp">https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp</a>